



建築と社会

Architecture and Society

2019 vol.100
07 No.1168
日本建築協会

特集 第66回 青年技術者

◆ 第5回 建築セミナー ◆

主催：日本建築協会出版委員会 共催：学芸出版社

日本建築協会出版委員会では、「建築の本」の著者をお招きし、手軽にご参加いただける連続セミナーを開催しています。第5回として日本建築協会企画『図解 間取りの処方箋』の出版を記念して実施いたします。お気軽にご参加ください。

図解 間取りの処方箋

暮らしから考える住宅設計・改修のポイント

講師：堀野和人氏



『図解 間取りの処方箋』

玄関・トイレ・LDK・寝室・納戸など、住まいの8つの空間について、実際に人が暮らしていく上で不都合が生じる「お困り間取り」とその改善ポイントを、ユーザーの会話+「設計課長の診察室」という構成で、2色刷イラストを用いて丁寧に解説。各章末には巷に溢れる「チラシの間取り10ポイントチェック」も掲載。

〈講師プロフィール〉

堀野 和人 (ほりの かずと)
一級建築士事務所スマイルズム。代表。ゼネコン、ハウスメーカー設計室勤務を経て現職。一級建築士、一級建築施工管理技士。著書に『図解住まいの寸法』『図解間取りの処方箋』（学芸出版社）。

このセミナーは、建築 CPD 情報提供制度認定プログラム申請中です。建築関連 CPD (2単位)

日時：2019年9月20日(金)
18:30 ~ 20:00 (18:15 開場)

場所：TOTOテクニカルセンター大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8御堂筋ダイワビル2階 地下鉄本町駅から徒歩4分

参加費：テキスト購入+受講4000円
受講のみ1500円 (※日本建築協会会員と学生はテキスト購入+受講3500円、受講のみ1000円)

定員：50名

使用テキスト：『図解 間取りの処方箋』
A5判・184頁・本体2600円+税

※当日はテキストを税込2808円⇒税込特価2500円で販売します。

【申込み方法】

下記を記載の上、メールもしくはFAXにてお申込ください。

①催し名(第5回建築セミナー)②氏名(ふりがな)③所属④会員・一般・学生の別⑤当日の書籍購入希望の有無⑥受講票郵送先住所⑦電話番号⑧E-mail アドレス⑨CPDを申請される方は申請先団体名と番号
申込先：(一社)日本建築協会 TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984
E-mail:hensyu2@aaj.or.jp (担当：入谷)



定時総会 議決のお知らせ

令和元年 6 月 20 日開催の令和元年度
定時総会において、下記の議案が原
案どおり承認されました。

- ・第 1 号議案
平成 30 年度事業報告の件
(詳細 P 2)
- ・第 2 号議案
平成 30 年度決算報告の件
(詳細 P 5)
- ・第 3 号議案
令和元年度事業計画の件
(詳細 P 8)
- ・第 4 号議案
令和元年度収支予算の件
(詳細 P 9)

- ・第 5 号議案
役員選任の件
(詳細 P 10 役員会務分掌参照)

●今回退任された理事、顧問
理事

浅沼 健一氏 (株)浅沼組
金井 隆夫氏 大成建設(株)
杉本 浩氏 (公財)建築技術教育
普及センター

立野 純三氏 (株)ユニオン
光用 薫氏 戸田建設(株)

顧問

塩野 孝行氏 (独)都市再生機構

退任された理事、顧問の方には、長
年にわたり会務遂行にご尽力いた
きありがとうございました。
再任、新任の理事、監事、顧問は P 10
の会務分掌の表のとおりです。

通常理事会 議決のお知らせ

令和元年 6 月 4 日開催の令和元年度
第 1 回通常理事会において、右記の
議案が原案どおり承認されました。

- ・第 1 号議案
平成 30 年度事業報告の件
(詳細 P 2)
- ・第 2 号議案
平成 30 年度決算報告の件
(詳細 P 5)
- ・第 3 号議案
令和元年度事業計画の件
(詳細 P 8)

- ・第 4 号議案
令和元年度収支予算の件
(詳細 P 9)
- ・第 5 号議案
役員選任の件
(詳細 P 10 役員会務分掌参照)

臨時理事会 議決のお知らせ

令和元年 6 月 20 日開催の令和元年度
第 1 回臨時理事会において、右記の
議案が原案どおり承認されました。

- ・第 1 号議案
会長選任の件
- ・第 2 号議案
役付役員選任の件
- ・第 3 号議案
常任理事、常設委員長委嘱の件

- ・第 4 号議案
理事の会務分掌の件
いずれも P 10 の会務分掌の表のと
おりです。

定時評議員会 議決のお知らせ

令和元年 6 月 4 日開催の令和元年度
定時評議員会において、右記の議案
が原案どおり承認されました。

- ・第 1 号議案
評議員会副議長互選の件

- ・第 2 号議案
役員候補者推薦の件

平成30年度事業報告

平成30年4月1日～平成31年3月31日

平成30年度は、100周年記念事業のテーマ「新しい地平へ」の目玉事業である「未来創生プロジェクト」と初代会長片岡安の名を冠した「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールをはじめ、他団体や協会以外の活動との連携も積極的に行い活動のリンケージを広げるとともに、従来から実施している「建築と社会」誌の発行、講演会の開催、見学会や顕彰事業の実施、刊行物の発行などに取り組んだ。

平成30年度収支は、会費収入が予算額を上回った。事業収支は契約約款収支や出版委員会収支が大きな増収増益となった反面、会誌収入が大幅に落ち込んだことから、それ以上の赤字となり予算額を大きく下回った。

管理費は退職給付引当資産から支払った退職給付費用を除き、予算額を下回った。

記念事業収支は、平成30年度に執行予定であった「建築と社会」誌アーカイブ公開システム構築費用、新会員証作成費用、新リーフレット作成費用等が令和元年度の執行となったため、記念事業積立金は令和元年度に取り崩すこととした。

全体では、会誌収支の大きな赤字はその他の事業収益と管理費の削減により大幅に縮小した。

I 本 部

◎役員会等の開催状況

1. 総会、理事会、評議員会、常任理事会

定時総会 平成30年6月21日（木）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②常設委員会新設
- ③平成30年度事業計画・収支予算計画
- ④役員改選

第1回 通常理事会 平成30年6月5日（火）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②常設委員会新設
- ③平成30年度事業計画・収支予算計画
- ④役員改選

第2回 通常理事会 平成30年11月28日（水）

- ①平成30年度上半期事業執行状況

第1回 臨時理事会 平成30年6月21日（木）

- ①役付役員選任
- ②常任理事ならびに常設委員長の委嘱
- ③理事の会務分掌

定時評議員会 平成30年6月5日（火）

- ①議長改選
- ②役員推薦

常任理事会 8 回開催

- ①理事会提出議案の作成、理事会議決事項の処理
- ②協会の会務執行 など

会長、副会長、常任理事、支部長会議

平成30年11月28日（水）

- ①平成30年度上半期事業執行状況
- ②意見交換

2. 常設委員会

協会の事業を円滑に遂行するため、常設委員会を設置している。今年度は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、次世代を担う若手が積極的に参加する場「未来創生プロジェクト」を新たに立ち上げた。

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」の企画・編集のため、編集委員会を設置している。編集委員会は特集小委員会、作品作風小委員会、広告企画小委員会の3つの小委員会で構成している。

更に特集小委員会は計画分科会（計画系、建築計画系、インテリア・住宅系）と構造分科会、設備分科会、施工材料分科会、法令分科会の5つの分科会に分かれている。編集委員会は12回、特集小委員会を48回、作品作風小委員会を9回、広告企画小委員会を12回開催した。

(2) 事業委員会

見学会や講演会、研修会などを企画する情報見学小委員会を8回開催し見学会を4回、講演会を1回実施した。今年度は昨年度に引き続き「イケフェス大阪」との連携事業を10月27日（土）に実施した。

(3) 出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行を行うため、11回開催した。今年度はシリーズものに加え新たに中国語版を刊行した。

(4) 教育委員会

建築工事実務講習会の実施のため講習会小委員会、工高生のデザインコンクールを開くための工

高生教育小委員会、100周年関連事業委員会の解消に伴い教育委員会に移行した史料研究会を運営している。工高生教育小委員会、講習会小委員会を3回開催した。

史料研究会を6回開催し、過去に「建築と社会」誌に掲載した「再読 関西の近代建築」及び「再読関西近代建築—論考・記事編」で扱えなかった建築や再発見が待たれる建築などを紹介する「再読 関西の建築」の連載を5月から再開した。

また、大阪府や建築4団体で構成する「大阪府住まい・まちづくり普及協議会」に協力した。

(5) 未来創生プロジェクト

様々な活動を通じて、建築と社会の未来を探り、創り、育てるとともに人材の発掘・育成を目的に、「建築次世代委員会」、「2040委員会」、「U-35委員会」の3つの委員会で構成している。

建築次世代委員会は、10年委員会の「学生のための現場見学会」を継承し、建築と社会を担う人材育成に資する活動を創造するため委員会を発足させ、12回開催した。学生のための現場見学会を1回実施した。

2040委員会は、日本建築協会が100年にわたり築いてきた歴史の上に、「次世代（Next Generation）」の想いを集結させ、「次代（Next Era）」が創造的で魅力的なものとなるべく、これからの「建築と社会」のあるべき姿を思考（志向、試行）することを目的に11回開催し、大学教授や建築ITジャーナリストなど様々な分野の方との意見交換会を7回実施した。

U-35委員会は、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指し16回実施するとともに、U-35世代の交流の場になる公開型イベントaction「建築と未来」を1回、委員相互の勉強会としてトークバトンを2回開催した。

3. 特別委員会

協会の顕彰事業を円滑に遂行するため、4つの特別委員会を設置している。

(1) 青年技術者選考委員会

設計・計画、構造、設備、施工など建築に関連する分野から満35歳以下の青年技術者を顕彰するため、選考委員会を4月16日（月）に開催した。

(2) 工高生デザインコンクール審査委員会

工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年創立以来毎年実施してきた。10月13日（土）に審査委員会を開催し11月10日（土）に表彰式を実施した。

(3) 「建築と社会」賞選考委員会

「建築と社会」に掲載された前年の作品、記事の中から社会性、環境などに配慮した建築作品や建築にかかわる論文や記事などを顕彰するため、選考委員会を5月21日（月）に開催した。

(4) 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクール審査委員会

平成30年度は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、論考の発表の場を提供する「片岡安賞」日本建築協会論考コンクール審査委員会を3回開催した。

◎事業の執行状況

1. 「建築と社会」誌の発行

「建築と社会」は、大正6年の創立以来協会活動の中核として、会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしている。毎月発行し会員の手に届けている。平成31年3月号で通巻1164号を数えるに至った。

発行月	特 集 内 容	特集以外の 主な内容
4月号	働き方と価値：社会に繋がる多様なワークスタイル	●作品作風 ●gallery
5月号	スポーツイベントを支える設備技術	●法令コーナー
6月号	第1回片岡安賞（日本建築協会論考コンクール）募集テーマ：これからの建築と社会—その関係を問う	●構造・設備の頁
7月号	第65回青年技術者	●再読 関西の建築
8月号	平成と建築	●メンバーズフォーラム
9月号	安全安心な木造建築物の利用促進への取り組みと今後の可能性	●新製品レビュー
10月号	山と建築—そこに山があるから登るのだ！—	●インフォメーションなど
11月号	重さと関わる	
12月号	こだわりの空間料理人	
1月号	共生社会のまちづくり	
2月号	第25回会員作品“私の空間作法”京都支部創設70周年記念特集景観とまちづくり 一保全・再生・創造—	
3月号	東海支部特集	

2. 講演会の開催

話題の建築物や構造物、都市問題など様々なジャンルを対象にエピソードや苦労話、ノウハウなどを聞く講演会を毎年開催している。平成30年度は6回開催した。

●出版委員会企画 平成30年5月16日（水） 32名

第1回建築セミナー「暮らしから考える住まいの寸法入門講座」

一級建築士事務所スマイリズム 堀野和人

●U-35委員会企画5th action

平成30年6月2日（土） 57名

建築と未来「20年後、幸せに“すまう”」

同志社女子大学 特任教授 上田信行

京都大学大学院 講師 前田昌弘

●定時総会記念講演 平成30年6月21日（木） 60名

「大大阪モダニズムと都市の文化」

大阪くらしの今昔館館長 谷 直樹

●出版委員会企画 平成30年8月22日（水） 30名

第2回建築セミナー「雨漏り調査の対策とポイント」

一級建築士事務所「ドクター住まい」主宰 玉水新吾

雨漏り110番G 代表 唐鎌謙二

●情報見学小委員会主催 平成30年11月14日（水） 83名

JR西日本事業戦略「駅からはじまる魅力あるまちづくり」

JR西日本 創造本部副本部長 春名幸一

●出版委員会企画 平成30年11月21日（水） 35名

第3回建築セミナー「直感で理解する！構造力学の基本」

安井建築設計事務所構造部長 山浦晋弘

3. 見学会の実施

著名建築物や近代建築などの見学会を毎年実施している。平成30年度は5回実施した。

●「奈良県農業研究開発センター及びなら食と農の魅力創造国際大学校」見学会

平成30年5月16日（水） 31名

●第1回学生のための現場見学会

「国立循環器病研究センター—移転建替整備事業」

平成30年7月9日（月） 25名

●「（仮称）デサントR&Dセンター」見学会

平成30年7月24日（火） 35名

●「大光電機株式会社技術研究所」見学会

平成30年9月19日（水） 29名

●第35回茶室見学会

「飛雲閣と茶室憶昔席の修理工事現場」

平成30年9月29日（土） 32名

4. 建築工事実務講習会の開催

昭和32年以降、毎年主として中堅以下の建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成30年度は1回実施した。

1月17日（木）参加者 57名

①施工計画

講師：川井 裕基（鹿島建設㈱関西支店パナソニック草津W15棟工事事務所所長）

講師：北野 祥児（清水建設㈱関西支店生産計画部受注支援グループ長）

②仮設見橋

講師：山口 紀宏（㈱大林組大阪本店建築事業部生産技術部計画第三課長）

5. 顕彰事業の実施

(1) 青年技術者の顕彰

昭和29年度から毎年実施している。今回は33名を顕彰した。顕彰者を称え激励するため、総会後に表彰式を行った。

●設計・計画部門 14名

太田匠哉、太田裕人、岡 隆裕、金子光亮、久家一哲、芝井健一、下田康晴、伊達 翔、鶴見博之、島海宏太、中島慎一、西山尚希、松下拓真、山崎篤史

●構造部門 7名

赤澤資貴、朝日智生、西横 毅、野口浩平、花房広哉、宮脇正尚、渡邊 祥

●設備部門 8名

小林佑輔、高根澤武、田中祐輔、中尾善弘、中山和樹、貫名篤郎、横山輝明、吉成正彦

●施工部門 4名

大川光雄、熊給哲哉、巽祐太郎、杉井 毅

(2) 「建築と社会」賞の顕彰

作品部門4点、論考部門1点、審査員特別賞1点を選び、総会後に表彰式を行った。

●作品部門

①ヤマウチ メディアイノベーションセンター

建築主 ヤマウチ㈱

設計・監理 ㈱竹中工務店

施工 ㈱竹中工務店

②阿南市新庁舎

建築主 阿南市

設計・監理 ㈱日建設計

施工 大成建設㈱・東光電気工事㈱

- ・(株)朝日工業社・(株)四電工
- ③コイズミ緑橋ビル
建 築 主 小泉産業(株)
設計・監理 (株)竹中工務店
施 工 (株)竹中工務店
- ④神戸海星女子学院マリア幼稚園
建 築 主 学校法人 海星女子学院
設計・監理 (株)竹中工務店
施 工 (株)竹中工務店
- ・論考部門
建築時間論～1000年の視野から建築を考える～
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻・教授
加藤耕一
- ・審査員特別賞
特集 社会と繋がるディテール
企画 編集委員会 特別編集委員
- (3) 優秀卒業生の表彰
優秀な建築系学科の卒業生を表彰することにより、研鑽意欲の向上を促し、激励するため昭和27年から実施している。平成30年度は工業高校や専門学校など31校56名を表彰した。
6. コンクールの実施
- (1) 工高生デザインコンクールの実施
平成30年度で64回を数える。平成30年度はみんなの「こども食堂」を設計課題に募集したところ、26校123点の応募があり10作品11名を表彰した。
- ・最優秀賞
山崎創羽・市園祐也
- ・優秀賞
植田理子、日紫喜華乃
- ・入選
赤堀さくら、田中琴美、文淵勝哉、細川虹太、細川悠人、前川悠希、松本明莉
- (2) 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールの実施
創立100周年を迎えたのを機に、本会の歴史を見つめ直し、「建築と社会」誌がさらに優れた論考の受け皿となり、建築界全体にとって有益な媒体となることを目的に立ち上げた「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールは、今回「建築をつくるひとーこれからの姿を問う」をテーマに募集したところ、5点の応募があり昨年11月に第1次審査を行い、3月2日(土)には公開プレゼンテーションと最終審査を実施した。
- ・片岡安賞
集団意識と建築～1910年からの問いかけ～
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻(修士課程)
吉野良祐
- ・奨励賞
「ポスト建築家」時代の建築家たち
(株)エクナレッジ 吉田和弘
- ・奨励賞
DIYとギフトエコノミー
横浜国立大学 産学連携研究員 山口 純
7. 出版物の刊行
時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一とし、建築に関する図書の企画・編集・刊行を行っており、昭和24年以来多くの図書を出版してきた。「建築技術選書」と「プロのノウハウ」シリーズはその代表である。平成30年度は、「図解 雨漏り事件簿」と同じく「図解 建築と設備の接点トラブル予防のツボ」及び「直感で理解する! 構造力学の基本」を出版した。平成29年度に出版した「図解 住まいの寸法」の中国語版を上梓するなど、海外でも注目を集めるようになった。
8. 共催、後援、協賛事業
協会の事業主旨に合致する事業に共催、後援、協賛した。
- (1) 共催
・大阪都市景観建築賞
大阪府、大阪市、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会
- ・World Café 建築を学ぶ学生と先輩の対話
(一社)日本建築学会近畿支部
- (2) 後援
・日本福祉のまちづくり学会第21回全国大会
日本福祉のまちづくり学会
- ・これだけでわかる建築基準法
(公社)大阪府建築士会
- ・集合住宅の騒音防止設計入門
(公社)大阪府建築士会
- ・LIVING&DESIGN2018 (一社)L&D
- ・建設工事の安全・健康確保講習会
(公社)大阪府建築士会
- ・講習会「モデル建物法入力シート作成～機械設備編～」と「申請・検査のポイント」
(公社)大阪府建築士会

- ・JIA市民大講講座「2018まちづくりセミナー」
(公社)日本建築家協会近畿支部
- ・なにわ建築フェスタ2018年児童画展
(一社)大阪府建築士事務所協会
- ・講習会「医療施設における避難安全のバリアフリーデザインの手引き」 (一社)日本建築学会
- ・“think GLOBAL, think HONG KONG”～国際化へのパートナー：香港 香港貿易発展局
- ・卒業展2019 修正建設専門学校
- ・開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会 (一社)大阪府建築士事務所協会
- ・建築物省エネ法 実務講習会+環境建築見学会
(公社)大阪府建築士会
- ・建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2019
(一社)日本建築材料協会
- ・第6回福祉住環境サミット
(一社)福祉住環境アソシエーション
- ・講習会
①建築紛争における法的措置とその対応策2019
②総合図作成ガイドライン解説
③木造ホテルの耐震改修講習会 一志摩観光ホテルと奈良ホテル
- ④大江一夫の設計術を学ぶ 一夙川から六麓荘の実作を巡りながら
(公社)大阪府建築士会
- ・講習会「木質系大スパン建築物の可能性」
(公社)大阪府建築士会
- ・建築学生ワークショップ出雲2019
(NPO)アートアンドアーキテクトフェスタ
- ・講習会「災害時における事業継続が可能な建築物の対策」 (公社)大阪府建築士会
- ・ぶらり大阪「景観」ウォーク浪速区編
(一社)大阪府建築士事務所協会
- ・「暑中コン工事対策マニュアル2018」改定報告会
(一社)日本建築学会近畿支部
- ・講習会「これだけでわかる建築基準法」
(公社)大阪府建築士会
- ・シンポジウム「銅スラブ細骨材を使用したコンクリートの動向と研究の現状」
(一社)日本建築学会近畿支部
- (3) 協賛
・平成30年度「住生活月間」
住生活月間実行委員会
- ・平成30年度(第28回)大阪府公共建築設計コンクール「あすなろ夢建築」
大阪府、(公社)大阪府建築士会、大阪府住宅供給公社
- ・「Japan Home & Building Show2018」
(一社)日本能率協会
- ・建築・建材展2019 (株)日本経済新聞社
- ・市民公開講座「地震被害低減に向けた役割と責任を考える～ブロック塀倒壊による悲劇を繰り返さないために～」(一社)日本建築学会近畿支部
- ・地盤工学会関西支部60周年記念事業
(公社)地盤工学会関西支部
- ・セミナー「建築物の瑕疵をめぐる法的問題について」
(公社)ロングライフビル推進協会
- ・Japan Home & Building Show2019
(一社)日本能率協会
9. 「建築と社会」誌創刊号からのアーカイブ化
「建築と社会」誌に掲載された貴重な資料の容易な閲覧を目的として、創刊号に遡って電子化し、全文を本会会員に向けて無料公開するアーカイブ化については、課題の整理やサービス範囲など具体化に向けての検討を行った。
10. 建築関係団体等との交流、連携
- (1) 在阪建築4団体との連携
在阪建築4団体(大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会)は、一致協力して大阪を元気にする文化活動「ARCHITECTURE CITY」を行ってきた。その一環として大阪から関西を発展させるための提言を議論、策定する委員会を立ち上げ、日本建築協会からは4人の委員を派遣し策定に取り組んだ。
- 他に在阪建築4団体インターンシップに引き続き協力、参加した。また、「大規模災害発生時における被災建築物応急危険度判定・被災住宅危険度判定活動に必要な判定士の派遣協力に関する協定」に基づき、6月18日の大阪府北部を震源とする地震に対し応急危険度判定士を派遣するとともに、4団体協力事業として当該地震でブロック塀が倒壊し死亡事故が発生したことから、要請のあった「学校及びその周辺の安全チェック・ボランティア」の募集に協力した。
- (2) イケフェス大阪等との連携
まちなみや通りをめぐり、個々の建築や都市の成り立ち、歴史を感じ取る生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2018連携事業スペシャルツアー「日本建築協会Presents!船場・堺筋を歩く」を10月27日(土)に開催した。
- 7月21日(土)から9月2日(日)まで大阪市立住まいのミュージアム(大阪くらしの今昔館)で開催された大阪市中心公会堂開館100周年記念特別展「大大阪モダンイズムー片岡安の仕事と都市の文化ー」に協力した。
11. 工事請負契約約款事業
民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣するとともに、引き続き「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」及び「民間(旧四会)連合協定小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類(書式・約款)」、「民間(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約書類(書式・約款)」、「民間(旧四会)連合協定マンション修繕工事請負契約約款 契約書関係書式」を販売した。
- 現在販売している4つの約款・書式の説明用パンフレットが約款委員会から発行され、販売窓口等で配布し、約款の周知、啓発に努めた。
12. 役員派遣
大阪商工会議所に2号議員として役員1名を派遣した。
- (一財)大阪建築防災センターに監事として役員1名を派遣した。

- | Ⅱ 支 部 |
|-------|
|-------|
- [中国支部]
- ◎役員会等の開催状況
1. 総会、常議員会、幹事会の開催
- 定時総会 平成30年5月14日(月)
- ①平成29年度事業報告
②平成29年度収支決算報告及び監査報告
③平成30年度事業計画(案)
④平成30年度収支予算(案)
⑤役員改選(案)
⑥建築施工技術研究委員会活動報告
- 第1回 常議員会 平成30年4月23日(月)
- ①平成29年度事業報告
②平成29年度収支決算報告及び監査報告
③平成30年度事業計画(案)
④平成30年度収支予算計画(案)
⑤役員改選(案)
⑥建築施工技術研究委員会活動報告
⑦平成30年度支部総会開催(案)
- 第1回 幹事会 平成30年7月17日(火)
- ①平成30年度中国支部総会報告
②本部平成30年度通常理事会・総会・臨時理事会報告
③若手・新入社員技術講習会報告
④中堅社員技術講習会
- 第2回 幹事会 平成30年12月5日(水)
- ①本部通常理事会支部長会議報告
②平成30年度中堅社員技術講習会報告
③実務講習会
④平成31年度施工技術研究委員会活動報告(研修スケジュール等)
⑤中国支部設立70周年
⑥新規入会促進
- 第3回 幹事会 平成31年3月19日(火)
- ①平成30年度建築工事実務講習会報告
②平成31年度総会・常議員会
③平成30年度決算(案)・31年度予算(案)
④平成31年度施工技術研究委員会活動(研修スケジュール・研修内容等)
⑤70周年記念事業
- ◎事業の執行状況
1. 若手・新入社員技術講習会の開催
6月6日(水)実施。参加者は32名。
- ①若手・新入社員の心構え
講師：尾野本 悟(広島工業大学教授)
- ②型枠支保工の構造計算入門
講師：川上 善嗣(広島工業大学准教授)
- ③初歩の積算
講師：八道 憲一(鹿島建設(株)中国支店次長)
- ④準備・仮設工事の工事管理
講師：前島 陽志(株)大林組広島支店建築工事部技術課副課長)
- ⑤交流会
2. 中堅社員技術講習会の開催
10月3日(水)実施。参加者は48名。
- ①鉄骨工事の品質管理
講師：山西 央朗(広島工業大学助教授)
- ②建設業法を遵守するために
講師：尾野本 悟(広島工業大学教授)

- ③建設現場の法令違反
講師：藤田 伸介（藤田労働安全コンサルタント事務所所長）
- ④内装工事のトラブル予防
講師：佐藤 岩夫（全国表具経師内装組合連合会会長）
- ⑤交流会
3. 建築工事実務講習会の開催
2月14日（木）実施。参加者は39名。
- ①施工計画
講師：井上 昇（清水建設㈱広島支店グループ長）
- ②仮設見積
講師：尾野本 悟（広島工業大学教授）
- ③積算業務
講師：八道 憲一（鹿島建設㈱中国支店次長）
- ④交流会
4. 工事請負契約約款事業
「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」及び「民間（旧四会）連合協定小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類（書式・約款）」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」、「民間（旧四会）連合協定マンション修繕工事請負契約約款 契約書関係書式」を販売した。

〔東海支部〕

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

定時総会 平成30年6月8日（金）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②平成30年度事業計画・収支予算計画
- ③役員改選
- ④支部総会

第1回 常議員会 幹事会 平成30年4月16日（月）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②平成30年度事業計画・収支予算計画
- ③平成30年度次期役員会構成
- ④総会当日の段取り
- ⑤各常置委員会活動報告

第2回 常議員会 幹事会 平成30年5月22日（火）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②平成30年度事業計画・収支予算計画
- ③平成30年度次期役員会構成
- ④総会当日の段取り
- ⑤各常置委員会活動報告

第3回 常議員会 幹事会 平成30年6月8日（金）

- ①平成30年度支部総会
- ②平成29年度事業報告・収入支出決算
- ③平成30年度事業計画
- ④当日の段取り

第4回 常議員会 幹事会 平成30年7月4日（水）

- ①平成30年度定時総会収支
- ②平成30年度常置委員会構成
- ③各常置委員会活動報告

第5回 常議員会 幹事会 平成30年8月20日（月）

- ①平成30年度常置委員会構成
- ②各常置委員会活動報告

第6回 常議員会 幹事会 平成30年9月20日（木）

- ①2018年度会員名簿前段資料
- ②平成30年度常置委員会構成
- ③支部復活60周年記念事業
- ④上半期事業報告
- ⑤各常置委員会活動報告

第7回 常議員会 幹事会 平成30年10月24日（水）

- ①建築と社会2019年3月東海特集号
- ②支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ③各常置委員会活動報告

第8回 常議員会 幹事会 平成30年11月15日（木）

- ①建築と社会2019年3月東海特集号
- ②支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ③各常置委員会活動報告（青年技術者交流会報告他）

第9回 常議員会 幹事会 平成30年12月5日（水）

- ①建築と社会2019年3月東海特集号
- ②支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ③各常置委員会活動報告

第10回 常議員会 幹事会 平成31年1月24日（木）

- ①建築と社会2019年3月東海特集号
- ②平成31年度事業計画
- ③平成30年度決算見込み、平成31年度予算
- ④支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ⑤各常置委員会活動報告

第11回 常議員会 幹事会 平成31年2月5日（火）

- ①建築と社会2019年3月東海特集号
- ②平成30年度決算見込み、平成31年度予算
- ③支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ④各常置委員会活動報告

第12回 常議員会 幹事会 平成31年3月6日（水）

- ①平成31年度事業計画
- ②平成30年度決算見込、平成31年度予算審議
- ③内部監査
- ④平成31年度支部役員・委員会人事
- ⑤平成31年度支部総会案内
- ⑥支部復活60周年記念事業及び記念誌
- ⑦各常置委員会活動報告

2. 常置委員会の開催

総務、編集、会員、事業、研修、青年の6つの委員会を設置して支部運営を行っている。

(1) 総務委員会

平成30年度総会準備、年度決算及び次年度予算作成並びに支部復活60周年記念事業実施に向けた事前検討等で6回開催した。

(2) 編集委員会

「東海の建築」第86号構成・手配及び「建築と社会」東海特集号編集内容打合せのため2回開催した。

(3) 会員委員会

会員名簿、協賛会社名簿手配、確認のため4回開催した。

(4) 事業委員会

研修旅行、来期海外研修旅行、現地集合見学会の打ち合わせを3回開催した。

(5) 研修委員会

建築工事実務講習会日時、講師検討・手配準備、講師打合せ、講習会開催後の反省会の準備のため4回開催した。

(6) 青年委員会

30代の若手設計者の意見交換会「納マリ倶楽部」を4回開催。若手による支部活動の活性化を図っている。

◎事業の執行状況

1. 支部機関紙「東海の建築」の発行事業

「東海の建築」第86号執筆。12月1日（土）発行。「建築と社会」東海特集号の執筆。

2. 見学会の実施

11月22日（木）～25日（日）上海・杭州研修旅行を実施。参加者は21名。

3. 講演会の開催

6月8日（金）の定時総会後に開催。参加者は40名
講師：尾形一郎氏 尾形優氏（建築家・写真家）
演題：「[UNMANNED] 映像と建築」

4. 建築工事実務講習会の開催

1月23日（水）名古屋商工会議所にて開催。参加者は40名。

①施工計画

講師：日吉智紀（清水建設名古屋支店）

②仮設見積

講師：相原仁史（大林組名古屋支店）

③積算業務

講師：木原 陽（竹中工務店名古屋支店）

5. 支部会員名簿の発行

11月30日（金）に東海支部会員名簿2018年度版を発行した。

6. 会員交流会の実施

青年技術者表彰者を招いての交流会及び団体会員による最新技術の紹介を行った。

7. 「建築と社会」3月号 東海特集の編集事業

平成31年3月号の企画、編集を担当。タイトルは「[社会と建築]という流れ」とした。

特集Ⅰでは、「建築がつなぐ都市、地域、まちの記憶（第2回）」として三重県大台町・「大杉谷自然学校」をベースに、廃校活用の実態と地域の記憶を未来へ刻むと題してまとめた。また特集Ⅱでは、若手設計者の意見交換会「納マリ倶楽部」の活動記録を紹介した。

作品作風：東海4県下などの建築作品9点

スケッチブック：支部会員作品8点

東海の建築：屋根 4点

東海支部だりとして、「上海・杭州建築の旅」を紹介した。

8. 建築関係団体との交流、連携

・建築八団体（愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、日本建築学会東海支部、日本建築構造技術者協会中部支部、日本積算協会東海北陸支部、愛知県設備設計監理協会、日本建築協会東海支部）連絡協議会に6回出席した。

・1月11日（金）に八団体共催の新年互礼会を「名古屋国際ホテル」で開催。

・中部建築賞協議会に協力し中部建築賞を運営。

〔京都支部〕

◎役員会等の開催状況

1. 総会、役員会、常議員会の開催

定時総会 平成30年7月25日（水）

- ①平成29年度事業報告・収支決算報告
- ②平成30年度事業計画・収支予算計画

第1回 常議員会 平成30年4月5日（木）

①新年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第2回 常議員会 平成30年5月11日（金）

①新年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第3回 常議員会 平成30年6月15日（金）

①新年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第4回 常議員会 平成30年9月19日（水）

①新年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第5回 常議員会 平成30年10月30日（火）

①新年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第6回 常議員会 平成30年11月19日（月）

①平成30年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②支部設立70周年記念誌協賛広告依頼・原稿依頼

第7回 常議員会 平成30年12月21日（金）

①平成30年度事業計画（隔月実施のセミナー）のテーマと担当者

②平成31年度隔月セミナーの企画

③支部設立70周年記念誌広告・原稿の状況

第8回 常議員会 平成31年1月22日（火）

①平成31年度隔月セミナーの企画

②支部設立70周年記念誌の報告

第9回 常議員会 平成31年2月19日（火）

①平成31年度隔月セミナーの企画

②本隆寺修理現場見学研修会

③都市の緑の育成管理勉強会

第10回 常議員会 平成31年3月19日（火）

①平成31年度隔月セミナーの企画

②会員増強

③70周年特集号と今後の特集

◎事業の執行状況

1. 講演会、見学会、勉強会の実施

①「木造の架構とディテール」勉強会を5月18日（金）に実施。参加者 8名。

②「渡辺安人氏（カラープランナー）講演会」を7月20日（金）に実施。参加者16名。

③「海外に広がる日本の庭園文化」勉強会を8月31日（金）に実施。参加者 6名。

④「歴史的建造物の修理についてー伝統工法の理解と応用ー」勉強会を11月16日（金）に実施。参加者 14名。

⑤「京都のまちの色についてー景観を色で考えるー」勉強会を1月18日（金）に実施。参加者 7名。

⑥「本隆寺本堂保存修理工事現場」見学会を2月21日（木）に実施。参加者15名。

⑦「都市の緑の育成管理」勉強会を3月15日（金）に実施。参加者7名。

2. 2級建築士受験講習会の開催

京都府建築士会共催「製図（基本・応用）」7月8日（日）～9月2日（日）

受講者：20名

①2級受験講習会 製図（基本）2日間

講 師：福井基文／福井一級建築士事務所

京都府建築士会事業委員会委員

②製図（応用）延べ6日間

講 師：福井基文／福井一級建築士事務所

京都府建築士会事業委員会委員

3. 工事請負契約約款事業

「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」及び「民間（旧四会）連合協定小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類（書式・約款）」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売した。

4. 建築関係団体との交流

①日本建築家協会近畿支部主催のJIA近畿支部大会2018滋賀大会への後援、及び交流パーティへ出席。

②隔月実施のセミナーを「JIA京都地域会」と共催。

平成30年度決算報告

貸借対照表

平成31年 3 月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	26,642,900	28,811,120	-2,168,220
貯蔵品	69,408	62,190	7,218
未収入金	1,058,700	968,517	90,183
前払費用	0	657,780	-657,780
仮払金	60,080	64,970	-4,890
流動資産合計	27,831,088	30,564,577	-2,733,489
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	12,850,000	12,850,000	0
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	752,000	9,088,348	-8,336,348
特定資産合計	42,602,000	50,938,348	-8,336,348
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
長期預け金	447,963	447,963	0
保証金	3,527,250	3,527,250	0
長期前払費用	818,748	0	818,748
その他固定資産合計	4,905,221	4,086,473	818,748
固定資産合計	47,507,221	55,024,821	-7,517,600
資産合計	75,338,309	85,589,398	-10,251,089
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	524,372	627,602	-103,230
前受金	4,358,898	5,427,614	-1,068,716
預り金	31,663	153,623	-121,960
流動負債合計	4,914,933	6,208,839	-1,293,906
2. 固定負債			
退職給付引当金	752,000	8,992,415	-8,240,415
固定負債合計	752,000	8,992,415	-8,240,415
負債合計	5,666,933	15,201,254	-9,534,321
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(41,850,000)	(41,945,933)	(-95,933)
正味財産合計	69,671,376	70,388,144	-716,768
負債及び正味財産合計	75,338,309	85,589,398	-10,251,089

正味財産増減計算書

平成30年 4 月 1 日から平成31年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	33,103,999	33,399,867	-295,868
個人正会員受取会費	8,527,200	8,688,300	-161,100
個人正会員（地方）受取会費	980,700	907,200	73,500
団体正会員受取会費	23,562,499	23,779,167	-216,668
準会員受取会費	33,600	25,200	8,400
事業収益	28,302,520	27,139,404	1,163,116
事業収益	27,616,320	26,478,544	1,137,776
事業雑収益	686,200	660,860	25,340
雑収益	219,651	222,271	-2,620
経常収益計	61,626,170	60,761,542	864,628
(2) 経常費用			
事業費	43,364,245	42,377,007	987,238
給料・手当	13,171,947	13,843,503	-671,556
法定福利費	2,512,562	2,405,073	107,489
事業費	27,293,116	25,871,139	1,421,977
事業雑費	386,620	257,292	129,328
管理費	18,978,693	19,249,625	-270,932
給料・手当	4,390,649	4,614,501	-223,852
退職給付費用	366,147	436,913	-70,766
法定福利費	837,521	801,691	35,830
福利厚生費	18,000	21,000	-3,000

科 目	当年度	前年度	増 減
助成費	0	0	0
会議費	1,855,126	1,758,586	96,540
旅費交通費	242,550	308,190	-65,640
通信運搬費	445,443	372,327	73,116
集金費	417,706	432,490	-14,784
消耗品費	1,903,871	1,862,877	40,994
備品購入費	0	0	0
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	0	0
光熱費	208,256	220,242	-11,986
火災保険料	19,610	19,610	0
租税公課	904,700	907,800	-3,100
建物管理費	4,461,990	4,439,343	22,647
事務委託費	1,370,736	1,370,736	0
雑費	1,536,388	1,683,319	-146,931
経常費用計	62,342,938	61,626,632	716,306
当期経常増減額	-716,768	-865,090	148,322
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-716,768	-865,090	148,322
一般正味財産期首残高	70,388,144	71,253,234	-865,090
一般正味財産期末残高	69,671,376	70,388,144	-716,768
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	69,671,376	70,388,144	-716,768

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
什器備品……定額法によっている。
長期前払費用……均等償却によっている。
- (2) 引当金の計上基準
退職給付引当金……期末退職給与の要支給額を引当てている。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	12,850,000	0	0	12,850,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	9,088,348	0	8,336,348	752,000
小 計	50,938,348	0	8,336,348	42,602,000
合 計	50,938,348	0	8,336,348	42,602,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	12,850,000	—	(12,850,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	752,000	—	(0)	(752,000)
小 計	42,602,000	—	(41,850,000)	(752,000)
合 計	42,602,000	—	(41,850,000)	(752,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
(直接法により減価償却を行っている場合)
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。
(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記2に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 (単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	8,992,415	366,147	8,606,562	0	752,000

財産目録

平成31年 3 月31日現在 (単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	26,642,900		
現金手許有高	36,463		
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,113,455		
普通預金 三菱UFJ銀行瓦町支店	3,656,972		
普通預金 りそな銀行北浜支店	2,311,166		
定期預金 りそな銀行北浜支店	150,000		
郵便振替口座 マーチャングाइズビル内支店	2,198,383		
普通預金 郵貯銀行マーチャングाइズビル内支店	38,046		
定期預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000		
定期預金 三菱UFJ銀行瓦町支店	10,729,786		
普通預金 広島銀行本川支店	1,258,407		
普通預金 三菱UFJ銀行栄町支店	1,088,078		
普通預金 三菱UFJ銀行栄町支店	1,008,691		
定期預金 三菱UFJ銀行栄町支店	1,505,907		
普通預金 みずほ銀行京都中央支店	281,162		
普通預金 郵貯銀行御池柳馬場支店	250,638		
郵便振替口座 御池柳馬場支店	15,746		
貯蔵品	69,408		
切手・はがき	69,408		
未収入金	1,058,700		
会誌収入	337,500		
個人正会員会費収入	637,200		
個人地方会員会費収入	75,600		
団体正会員会費収入	0		
準会員会費収入	8,400		
前払費用	0		
仮払金	60,080		
見学会・会議保険料	60,080		
流動資産合計		27,831,088	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0		
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	12,850,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	12,850,000		
普通預金 りそな銀行北浜支店	0		
事業基金積立預金	29,000,000		
定期預金 三菱UFJ銀行瓦町支店	9,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	20,000,000		

科 目	金 額		
退職給付引当資産	752,000		
定期預金 三菱UFJ銀行瓦町支店	752,000		
特定資産合計	42,602,000		
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260		
書棚 1 式	111,260		
長期預け金	447,963		
預け金 三菱UFJモルガン・スタンレー証券	447,963		
保証金・敷金	3,527,250		
本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650		
京都支部事務所賃貸敷金	90,600		
長期前払費用	818,748		
PCA公益法人会計クラウドサービス	818,748		
その他固定資産合計	4,905,221		
固定資産合計		47,507,221	
資産合計			75,338,309
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	524,372		
会誌発行費	86,416		
会議保険料	11,696		
租税公課	416,000		
消耗品	10,260		
前受金	4,358,898		
個人正会員会費収入	1,396,800		
個人地方会員会費収入	88,200		
団体正会員会費収入	2,637,498		
準会員会費収入	8,400		
会誌収入	228,000		
預り金	31,663		
給与源泉税預り	18,290		
報酬源泉税預り	13,373		
誤振込み預かり	0		
流動負債合計		4,914,933	
2. 固定負債			
退職給付引当金	752,000		
固定負債合計		752,000	
負債合計			5,666,933
正味財産			69,671,376

収支計算書

平成30年 4 月 1 日から平成31年 3 月31日まで (単位：円)

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	32,005,201	33,103,999	0	33,103,999	-1,098,798
個人正会員	8,320,000	8,527,200	0	8,527,200	-207,200
個人正会員 (地方)	860,000	980,700	0	980,700	-120,700
団体正会員	22,800,000	23,562,499	0	23,562,499	-762,499
準会員	25,200	33,600	0	33,600	-8,400
支部活動収入	1,397,200	1,397,200	-1,397,200	0	1,397,200
事業収入	31,903,800	30,478,896	-2,176,376	28,302,520	3,601,280
事業収入	31,063,800	29,792,696	-2,176,376	27,616,320	3,447,480
事業雑収入	840,000	686,200	0	686,200	153,800
雑収入	213,800	219,651	0	219,651	-5,851
雑収入 (支部正味財産繰入収入)	518,659	0	0	0	518,659
前受金収入	0	4,356,815	0	4,356,815	-4,356,815
前払費用収入	0	657,780	0	657,780	-657,780
仮払金収入	0	1,529,329	0	1,529,329	-1,529,329
預り金収入	0	3,951,161	0	3,951,161	-3,951,161

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
貯蔵品収入	0	0	0	0	0
事業活動収入計	66,038,660	75,694,831	-3,573,576	72,121,255	-6,082,595
2. 事業活動支出					
事業費支出	44,078,212	45,538,484	-2,176,376	43,362,108	716,104
事業関係人件費支出	16,429,212	15,684,509	0	15,684,509	744,703
事業費支出	27,349,000	29,467,355	-2,176,376	27,290,979	58,021
事業雑支出	300,000	386,620	0	386,620	-86,620
管理費支出	21,163,140	28,616,308	-1,397,200	27,219,108	-6,055,968
管理関係人件費支出	5,476,404	5,228,170	0	5,228,170	248,234
退職給付支出	0	8,606,562	0	8,606,562	-8,606,562
福利厚生費支出	23,000	18,000	0	18,000	5,000
助成費支出	1,417,200	1,397,200	-1,397,200	0	1,417,200
会議費支出	1,985,000	1,855,126	0	1,855,126	129,874
旅費交通費支出	250,000	242,550	0	242,550	7,450
通信運搬費支出	445,000	445,443	0	445,443	-443
集金費支出	450,000	417,706	0	417,706	32,294
消耗品支出	1,855,000	1,903,871	0	1,903,871	-48,871
備品購入費支出	250,000	0	0	0	250,000
修繕費支出	30,000	0	0	0	30,000
印刷製本費支出	100,000	0	0	0	100,000
光熱費支出	220,000	208,256	0	208,256	11,744
火災保険料支出	20,000	19,610	0	19,610	390
租税公課支出	1,000,000	904,700	0	904,700	95,300
建物管理費支出	4,468,800	4,461,990	0	4,461,990	6,810
事務委託費支出	1,370,736	1,370,736	0	1,370,736	0
雑支出	1,802,000	1,536,388	0	1,536,388	265,612
記念事業費支出	2,154,699	2,137	0	2,137	2,152,562
前受金支出	0	5,425,531	0	5,425,531	-5,425,531
預り金支出	0	4,073,121	0	4,073,121	-4,073,121
前払費用支出	0	0	0	0	0
仮払金支出	0	1,524,439	0	1,524,439	-1,524,439
貯蔵品支出	0	7,218	0	7,218	-7,218
事業活動支出計	67,396,051	85,187,238	-3,573,576	81,613,662	-14,217,611
事業活動収支差額	-1,357,391	-9,492,407	0	-9,492,407	8,135,016
Ⅱ 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	0	8,606,562	0	8,606,562	-8,606,562
記念事業積立預金取崩収入	1,850,000	0	0	0	1,850,000
投資活動収入計	1,850,000	8,606,562	0	8,606,562	-6,756,562
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	366,147	270,214	0	270,214	95,933
退職給付引当資産取得支出	366,147	270,214	0	270,214	95,933
記念事業積立預金支出	0	0	0	0	0
事業基金積立預金支出	0	0	0	0	0
固定資産取得支出	0	818,748	0	818,748	-818,748
長期前払費用支出	0	818,748	0	818,748	-818,748
投資活動支出計	366,147	1,088,962	0	1,088,962	-722,815
投資活動収支差額	1,483,853	7,517,600	0	7,517,600	-6,033,747
Ⅲ 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
Ⅳ 予備費支出					
当期収支差額	126,461	-1,974,807	0	-1,974,807	2,101,268
前期繰越収支差額	29,152,035	29,152,035	0	29,152,035	0
次期繰越収支差額	29,278,496	27,177,228	0	27,177,228	2,101,268

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	28,811,120	26,642,900
未 収 入 金	968,517	1,058,700
合 計	29,779,637	27,701,600
未 払 金	627,602	524,372
合 計	627,602	524,372
次期繰越収支差額	29,152,035	27,177,228

令和元年度事業計画

平成31年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月31日

1. 令和元年度の活動方針

令和元年度日本建築協会は、100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため新たに二つの事業に取り組む。

「建築と社会」創刊号から現在までデータ化したバックナンバーを公開するアーカイブ化と東京で行うはじめての企画「会員の集いIN TOKYO」である。アーカイブ化については、できるだけ早い時期に公開を目指す。「会員の集いIN TOKYO」は著名建築家と近代建築史の専門家をゲストにトークイベント等を4月に開催した。他に構想段階だが、60歳以上のシニア層の活躍の場の検討も始めた。

「新しい地平へ」を実現するため、2年前にスタートさせた「未来創生プロジェクト」と「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールを引き続き実施する。協会の中心事業である「建築と社会」誌については、記事、内容をより一層充実するとともに、時代に応じたテーマによる催しや近代建築物の見学会、講演会、講習会、出版物の企画・発行、建築関係団体等との交流・連携など、数々の活動に引き続き取り組む。

令和元年度予算については、前年度予算額を基本に決算額及び事業計画を加味し、さらに消費税増税等の影響を考慮して作成した。

100周年記念事業では、今年度の執行となった「建築と社会」アーカイブ公開システム構築費用、新会員証作成費用、新リーフレット作成費用に充てるため、記念事業積立預金の繰越額から185万円を取り崩す。中国支部創立70周年、東海支部復活60周年に向けた予算を計上した。

安定した事業運営のためには会員の確保による会費収入の維持が最大の課題である。個人や企業に対し協会の役割を積極的にアピールするとともに、魅力あるプログラムを提供し会員の増強を図らねばならない。

個々の事業についても増収、増益を図るための工夫が必要である。

協会事業の中心である「建築と社会」誌については、特に今年度は叢智を結集して重点的に取り組み収支好転に努力する。

会誌以外の事業についても経費抑制に努め、事業費の削減を図るとともに管理費についても経費削減に努める。

令和元年度も収入の増、支出の削減を目標に財務体質の強化に努め、事業の活性化を図る。

2. 令和元年度活動計画

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」誌の企画・編集のほか青年技術者及び「建築と社会賞」並びに「片岡安賞」論考コンクールの顕彰事業を実施する。

①会誌「建築と社会」の発行

- 大正6年の創立以来、協会活動の中核として会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしてきた会誌「建築と社会」は、令和元年度もタイムリーな内容の特集として毎号掲載する。
- 「作品作風」、「再読関西の建築」、法令コーナー、構造・設備の頁など連載にも引き続き取り組むとともにしばらく休載していた「建築と社会を考える」を今年度再開した。
- 会員の建築作品や論考、活動報告などについても随時掲載していく。
- 作品作風頁の充実、広告企画特集の実施等により広告収入の増を図るとともに、きめ細やかな経費削減を行い、収支改善に努める。

②青年技術者の顕彰

- 満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成30年度で65回に達し、建築界の優秀な人材を顕彰してきた。平成17年度からその意義をより一層深めるため、表彰式及び受賞者も出席しての懇親会をあわせて実施している。
- 令和元年度も引続き実施するとともに、「建築と社会」誌に掲載する。表彰式を総会後の懇親会時に行う。

③「建築と社会賞」の顕彰

- 「建築と社会」誌にふさわしい建築作品や論文、記事などを顕彰している。
- この賞は昨年度で17回を数え、他の賞との差別化やすみ分けなど位置づけや特徴が課題となってきた。このことから今年度は、よりクオリティの高い賞とするためいったん休止し、来年度に2年分まとめて実施する。

④「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールの顕彰

- 日本建築協会は、大正6年に片岡安らによって設立されて以来、会誌「建築と社会」に多くの優れた論考を掲載し、建築界をリードする役割を担ってきた。
- 創立100周年を迎えたのを機に、本会が歩んできた歴史を見つめ直し、会誌「建築と社会」がさらに優れた論考の受け皿となり、建築界全体にとって有益な媒体になることを目指して「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールを昨年度に引き続き実施する。
- この賞は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため発足したものであり、様々な世代やいろいろの立場の方が広く参加いただける言論のプラットフォームの一翼を担うイベントになることを期待し、今年度も優れた論考を顕彰する。表彰者を会誌「建築と社会」に掲載し、総会後の懇親会時に表彰式を行う。
- 令和元年度は企画・運営する実行委員会を新たに立ち上げる。

(2) 事業委員会

著名建築家や茶室、近代建築などの見学会、話題建築を紹介する講演会、研修会などを引き続き実施する。

①情報見学小委員会

- 新建築や古建築などの見学会や時代に応じたテーマによる講演会などの催しを毎年度実施している。話題建築については、設計者・施工者等から話を聞く場を設けている。
- 令和元年度は4回程度の見学会を実施するとともに、講演会を1回程度実施する。

②「イケフェス大阪」との連携、協力

- 昨年度と同じく10月に実施される「イケフェス大阪」と連携、協力したイベントを実施する。

(3) 出版委員会

時代のニーズに即した新しい著書の発掘や建築に関する図書の企画・編集・発行を行っている。

令和元年度も引き続き建築に関する図書の企画・編集・刊行を計画しており、意匠系・構造系・設備系の作品を提供する。昨年から始めた「建築セミナー」も引き続き実施する。

(4) 教育委員会

建築工実務講習会や工高生を対象とした建築に関するデザインコンクール、優秀な建築系学科卒業生の表彰などを引き続き実施する。また、大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会が実施する諸行事に協力していく。

①建築工実務講習会の実施

- 昭和32年以降、毎年主として初・中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。
- 令和元年度も本部、中国・東海支部でそれぞれ実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

- 工高生の設計技能向上と奨励のため、昭和30年創設以来毎年テーマを変えて実施しており、平成30年度で64回を数えた。令和元年度も引き続き実施する。

③建築系学科優秀卒業生の表彰

- 研鑽意欲の向上を促し、激励することを目的に建築系学科優秀卒業生を表彰する。令和元年度も引き続き会員校及び会誌購読校を対象に実施する。

④大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会への参画

- 令和元年度も引き続き協議会が実施する諸行事に協力する。

⑤史料研究会の運営

- 「再読関西の建築」を「建築と社会」誌に連載するための企画、編集を行う。

(5) 未来創生プロジェクト

100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため発足した「未来創生プロジェクト」に引き続き取り組む。

①建築次世代委員会の活動

建築協会の理念である「建築を通じ社会に貢献

する」活動として2008年から2017年に実施してきた、10年委員会の「学生のための現場見学会」の継承を主軸に、建築と社会を担う人材育成に資する活動を創造する。

- 「学生のための現場見学会」年2回以上を予定(春・秋)
- 大学生以上の学生を対象に工事段階の現場見学を実施
- 現状までの大学生限定から高専生へ拡大
- 「(仮称) 学生のための建設関係メーカー見学会」の試行
- ものづくりに関わる仕事についての見学会
- 協会各社と学生を繋ぐ活動とし、学生への建設業界への意識付けと協会各社と学生のパイプ作りを提供
- ワークショップやイベントについての情報収集・ヒアリング
- 見学会以外で次世代を建設と繋ぐ活動のための情報収集

②2040委員会の活動

2040年の社会の在り様についての知見を得るため、建築にとどまらず、議論の場を広く求める。メンバーが携わっている建築を「議題」ではなく、社会を語るための「ツール」として扱い、他業種の人たちと「2040年の社会」をターゲットに議論を行う。

- STEP 1：2018年度に行なった意見交換会および、メンバー内の議論を経たうえで、メンバーが今思い描く2040年を表現する冊子を作成し、「建築と社会」の別冊として発行する(10月発行予定)。
- STEP 2：まとめた冊子をフライヤー代わりに様々な展開を試みる。
- 様々な分野にわたる同世代(中堅)のプラットフォームづくり
- まちインタビューなどのフィールドワーク
- 引き続き先導者へのヒアリング 等

③U-35委員会の活動

- 委員相互の勉強会「トークバトン」を引き続き開催する。
- 各年度の活動を総括し、U-35委員会からのアウトプットを広く公開する公開型イベント「action」に引き続き取り組む。令和元年度は愛される大阪の未来に目を向け「建築とOSAKA」をテーマにフューチャーセッションを実施する。

(6)「建築と社会」創刊号からのアーカイブ化

協会のホームページから会員番号とパスワードを入力するだけでバックナンバーを無料で自由に閲覧でき、会員の皆様の研究や活動に役立つものと期待している。早い時期に会員番号とパスワードを通知する。

(7)「会員の集いIN TOKYO」

大阪中之島美術館を設計された遠藤克彦氏と近代建築史を専門に研究されておられる大阪市立大学准教授倉方俊輔氏のトークセッションと懇親の夕べを4月2日(火)に開催した。今後、主に東京在住の会員を対象に趣向を凝らしたイベントを企画し恒例行事にしたいと考えている。そのため、令和元年度は企画・運営する実行委員会を新たに立ち上げる。

(8)エルダー委員会(仮称)

体力、気力、知力、そして経験豊富で社会と関わり続けている60歳以上のシニア層が活躍できる場を検討する。具体案がまとまり次第呼びかけを行う。

(9) 工事請負契約約款事業

- 引き続き民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣する。
- 引き続き「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」をはじめ、「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類(書式・約款)」、「民間(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約書類(書式・約款)」、「マンション修繕工事請負契約約款契約書関係書式」の販売を行う。

(10) 建築関係団体等との交流、連携

①在阪建築4団体との連携

- 建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、平成21年度から進めてきた関西建築4団体(大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会)会長・支部長意見交換会での連携活動

- 引き続き推進する。
- 昨年度 4 団体から委員を選抜し議論と作業をはじめ、2025 万博を視野にさらに世界へ、未来へと発展させるためのまちづくり提言「ARCH-4 KANSAI 提言書」を 4 月に発表した。その活動のきっかけとしてのシンポジウムを 6 月 4 日（火）に開催する。
 - 提言書の実現に向けて 4 会協力して行うとともに、当協会でもその一翼を担う事業を協会活動の中で検討していく。
- ②イクフェス大阪等との連携
- 「イクフェス大阪」など建築関係団体以外の団体との連携事業も引き続き取り組む。
- (11) 役員派遣
- 令和元年度も引き続き大阪商工会議所に 2 号議員として役員 1 名を（一財）大阪建築防災センターにも監事として役員 1 名をそれぞれ派遣する。
- (12) 支部活動
- 〔中国支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- 「若手・新入社員技術講習会」「中堅社員技術講習会」「建築工事実務講習会」を実施する。
- ②協力事業
- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。
- ③他団体との連絡、連携
- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築 6 団体と連携する。
- ④工事請負契約約款の販売
- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類（書式・約款）」及び「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」、「マンション修繕工事請負契約約款契約書関係書式」を販売する。
- ⑤支部創立 70 周年記念事業を行う。
- 〔東海支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- 「講演会・見学会」や「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』東海特集号の企画・編集」を行う。
 - 支部活性化事業として、機関誌「東海の建築」の刊行やホームページの更新、会員名簿を発行する。
 - 座談会など支部の活動を PR できるイベントを企画する。
 - 若手会員の交流会「納マリ倶楽部」の継続開催
- ②支部復活 60 周年記念に向けた事業準備を行う。
- ③会議、会合への参加
- 愛知県建築開発等行政推進団体協議会、中部建築賞協議会など各種団体の会議や会合などに参加する。
- ④協力事業
- 教育、研究者、建築、造園、各種デザインや文化財関係者等による講師で若い世代も参加しやすい事業企画を行う。（隔月シリーズ企画「木、色、庭」を考える 年 6 回）
- ⑤他団体との連絡、連携
- 文化財や現代建築の見学・研修会を行う。
- 〔京都支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- 教育、研究者、建築、造園、各種デザインや文化財関係者等による講師で若い世代も参加しやすい事業企画を行う。（隔月シリーズ企画「木、色、庭」を考える 年 6 回）
- ②協力事業
- 支部開催事業を JIA 京都地域会と共催する。京都府建築士会や古材文化の会など他の関係団体からも後援・協賛を得ていく。
 - 行政や団体が実施する「講演会」や「2 級建築士受験講習会」などの事業に共催、協力を行う。
- ③工事請負契約約款の販売
- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約書類（書式・約款）」及び「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

令和元年度収支予算書

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで

（単位：千円）

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考	科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
Ⅰ 事業活動収支の部					Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 事業活動収入					1. 投資活動収入				
①会費収入					①特定資産取崩収入				
個人正会費	8,370	8,320	50	14,400円／1 名	退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
個人正会費（地方）	900	860	40	12,600円／1 名	記念事業積立預金取崩収入	1,850	1,850	0	記念事業費に充当
団体正会費	23,000	22,800	200	25,000円／1 口	投資活動収入計	1,850	1,850	0	
準会費	34	25	8	8,400円／1 名	2. 投資活動支出				
会費収入計	32,304	32,005	298		①特定資産取得支出				
②支部活動収入	1,371	1,417	-46	本部から支部への活動収入	退職給付引当資産取得支出	188	366	-178	R 元年度末要支給額引当て
支部活動収入計	1,371	1,417	-46		記念事業積立預金支出	0	0	0	
③事業収入					特定資産取得支出計	188	366	-178	
事業収入	27,796	30,964	-3,167	本部及び支部の事業収入	投資活動支出計	188	366	-178	
事業雑収入	830	840	-10	会員交流会、事業協力金外	投資活動収支差額	1,662	1,484	178	
事業収入計	28,626	31,804	-3,177		Ⅲ 財務活動収支の部				
④雑収入	232	214	19	利息、雑損処理後の過年度会費外	1. 財務活動収入				
⑤記念事業収入	50	100	-50	記念誌の販売収入	財務活動収入計	0	0	0	
⑥支部正味財産増加分繰入	1,104	519			2. 財務活動支出				
事業活動収入計	63,688	66,059	-2,371		財務活動支出計	0	0	0	
2. 事業活動支出					財務活動収支差額	0	0	0	
①事業費支出					Ⅳ 予備費支出				
事業関係人件費支出	15,965	16,429	-465	法定福利費含む	当期収支差額	49	146	-97	
事業費支出	25,103	27,349	-2,246	本部及び支部の事業費	前期繰越収支差額	26,073	28,633	-2,560	
事業雑支出	780	300	480	イクフェス、KENTEN、会員交流会費外	次期繰越収支差額	26,123	28,780	-2,657	
事業費支出計	41,848	44,078	-2,231		(注) 前期繰越収支差額には、平成 30 年度決算額（支部正味財産増加分繰入額を除く）を充当している。				
②管理費支出					(注) 令和元年度については、借入限度額を 30,000,000 円とする。				
管理関係人件費支出	5,322	5,476	-155	法定福利費含む					
退職給付支出	0	0	0						
福利厚生費支出	21	23	-2	職員福利厚生費					
助成費支出	1,391	1,417	-26	本部から支部への活動費					
会議費支出	2,050	1,985	65	本部・支部総会外会議費					
旅費交通費支出	260	250	10	旅費、交通費					
通信運搬費支出	480	445	35	電話、FAX、メール、郵送等通信費					
集金費支出	440	450	-10	会費、グループ会費、広告料集金手数料等					
消耗品費支出	2,175	1,855	320	HP 維持費、PC 7 台、トナー、文房具外消耗品					
備品購入費支出	200	250	-50	事務所内備品購入					
修繕費支出	30	30	0	事務所内修繕					
印刷製本費支出	100	100	0	印刷製本費					

令和元年度

日本建築協会役員会務分掌

令和元年 6 月20日現在・順不同・敬称略

役付役員

会 長	設楽 貞樹	(株)安井建築設計事務所
副会長	米井 寛	(株)東畑建築事務所 会長職務代行 総務・財務担当
副会長	田中日出男	(株)きんでん 会勢担当
副会長	天野 直樹	(株)竹中工務店 編集担当
副会長	川口 晋	(株)大林組 事業担当
副会長	田坂 隆之	大阪ガス(株) 研修担当

理事 ◎印は常任理事 ○印は委員長

(総務) 4 名		池田 耕二	清水建設(株)
大林 剛郎 (株)大林組		近藤 徹	不二熱学工業(株)
栗原 信英 栗原工業(株)		* 三宅 正人	戸田建設(株)
佐野 吉彦 (株)安井建築設計事務所		寺田 靖	(一社)大阪建設業協会
◎○山形 政昭 大阪芸術大学		篠原 佳則	(株)安井建築設計事務所
(財務) 3 名		高松 隆夫	広島工業大学
奥村太加典 (株)奥村組		中井 進	日建設計コンサルタンツ・マネジメント(株)
今西 邦夫 (株)今西組		(事業) 6 名	
中野 健生 東リ(株)		◎○中尾 勝悦	中尾綜合建築設計事務所
(編集・出版) 8 名		児玉 謙	(株)日建設計
◎○西 博康 清水建設(株)		城口 俊雄	(株)大阪城口研究所
松崎 公一 鹿島建設(株)		酒井 祥三	西松建設(株)
佐藤 榮一 (一社)日本建築材料協会		中嶋 功	(株)熊谷組
竹中 統一 (株)竹中工務店		◎○中村 文紀	(株)東畑建築事務所
* 門田 江平 (公財)建築技術教育普及センター		(研修) 6 名	
船越 淳久 関西電力(株)		富永 昌雄	八千代電設工業(株)
◎ 吉村 英祐 大阪工業大学		長瀬 博一	(有)長瀬建築研究所
◎○勝山 太郎 (株)日建設計		* 加賀田健司	大成建設(株)
(会勢) 10 名		梶山 卓二	(株)昭和設計
* 浅沼 誠 (株)浅沼組		永原 穰	王建工業(株)
告野 満彦 野里電気工業(株)		本多 友常	本多環境・建築設計事務所
葛田 守弘 (株)鴻池組			
常務理事 森本 勉		役付役員含む理事合計44名	

監事	三木 徹	(株)安井建築設計事務所	2 名
	前田 隆司	(株)前田商会	

顧問	* 塚本 貴昭	(株)都市再生機構	1 名
* 印は新任			

令和元年度

日本建築協会評議員名簿

議長：赤松 千州 副議長：嘉納 秀一

令和元年 6 月 4 日現在・順不同・敬称略

技術 1	赤松 千州	(株)東畑建築事務所	
総合 11	荻内 昭男	(株)浅沼組	渡津 弘己 (株)鴻池組
	寺内 伸	(株)安藤・間	* 前場 知之 (株)奥村組
	* 枝常 茂	(株)大林組	* 安達 紳児 三井住友建設(株)
	林 伸昭	戸田建設(株)	田中顕三郎 田中建設(株)
	中道 正伸	(株)中道組	藤井謙太郎 藤井建設(株)
	原 眞一	コーナン建設(株)	
電気 4	北村 康一	(株)きんでん	嘉納 秀一 三宝電機(株)
	森 博明	三和電気土木工事(株)	嶋田 雅景 (株)クリハラント
空調 3	辻 武寿	(株)精研	若林 尚史 若林設備工業(株)
			金子 達哉 (株)三冷社
建材 3	森村 泰明	森村金属(株)	深江 隆司 アスワン(株)
			* 恩庄 康之 オーケーレックス(株)
中国支部 2	尾野本 悟	広島工業大学	村重 保則 現代設計(株)
東海支部 6	福田 泰造	福田泰造建築事務所	加藤 武範 (株)メックステクノ東海
	河田 克博	名古屋工業大学	* 中井 孝幸 愛知工業大学
	佐伯 博	ひろ建築企画	* 富田 昌志 (株)伊藤建築設計事務所
京都支部 3	高田 光雄	京都美術工芸大学	伊熊 昌治 伊熊昌治建築設計事務所
	菅澤 茂	環境文化保存計画菅澤1級建築士事務所	

33名 *は新任

令和元年度

日本建築協会支部長 (順不同・敬称略)

中 国	高松 隆夫	広島工業大学
東 海	篠原 佳則	(株)安井建築設計事務所
京 都	長瀬 博一	(有)長瀬建築研究所

令和元年度 日本建築協会委員

■編集委員会（81名）

会誌「建築と社会」の企画、編集。

◎ 勝山 太郎／日建設計

○ 戸川 勝之／安井建築設計事務所

●特集小委員会

計画分科会

〈計画系分科会〉

飯田 匡／大阪大学大学院

鈴木 克彦／京都工芸繊維大学名誉教授

△ 田中 直人／島根大学大学院

松田奈緒子／大阪産業大学

守井 辰／日建設計

吉村 英祐／大阪工業大学

〈建築計画系分科会〉

桑原 悠樹／竹中工務店

下坂 浩和／日建設計

中辻 浩介／ジェイアール西日本コンサルタンツ

東 拓郎／東畑建築事務所

樋口 展寛／鴻池組

△ 松岡 英緯／大建設

三谷 帯介／鹿島建設

米山 剛史／UR設計

渡部 剛／安井建築設計事務所

〈インテリア・住宅系分科会〉

赤川貴世友／安井建築設計事務所

* 東 奈生子／竹中工務店

今井 充彦／日建スペースデザイン

岩田 圭司／UR都市機構

川合 隆之／積水ハウス

河西 孝平／大林組

△ 黒柳 亮／竹中工務店

塚口 洋之／塚口洋之設計事務所

ペリー史子／大阪産業大学

構造分科会

△ 宇野 綾真／北條建築構造研究所

岡田 健／日建設計

岸本 光平／竹中工務店

* 古島 正博／大林組

瀧野 敦夫／奈良女子大学

蘆原 学／ZEN建築構造事務所

松本 裕之／安井建築設計事務所

宮久保秀樹／鴻池組

向井 洋一／神戸大学大学院

設備分科会

有尾清二郎／竹中工務店

木谷 晃之／コイズミ照明

北野 勝也／きんでん

佐々木章二／総合設備コンサルタント

寺井 千佳／安井建築設計事務所

夏井 重行／元・富士ネオ工業

△ 橋本 直樹／日建設計コンストラクション・マネジメント

梶井 貴廣／総合設備コンサルタント

宮崎ひろ志／関西大学

森山 正和／摂南大学前教授

山本 雅洋／大林組

施工材料分科会

門野 陽／鴻池組

桜井 和男／竹中工務店

高橋 秀一／大和ハウス工業

藤丸 啓一／清水建設

山口 紀宏／大林組

* 河合 智寛／浅沼組

吉田 正友／大阪工業大学

△ 吉居 哲／鹿島建設

法令分科会

岡田 耕介／京都市

垣内 明／堺市

河野 学／京都市住宅供給公社

高田 大輔／奈良県

△ 福岡 誉顕／神戸市

●作品作風小委員会

▲ 東井 嘉信／大林組

居内 章夫／徳岡設計

池上 明／エーアイアーキテクトスタジオ

稲垣 和江／イナガキケンチクケンキュウショ

太田 栄治／高松建設

加嶋 章博／摂南大学

菊池 浩輔／安井建築設計事務所

倉渕奈千子／田中啓文総合建築研究所

澤田 純一／兵庫県県土整備部

高木 秀晃／昭和設計

鞆野 淳司／竹中工務店

西田 佳代／日建設計

芳谷 晴彦／清水建設

平野 尉仁／東畑建築事務所

増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所

●広告企画小委員会

小川 雄介／竹中工務店

小山 昭／東畑建築事務所

金築 雄／清水建設

野山 将男／大林組

藤田 昌宏／安井建築設計事務所

▲ 前田 衛／日建設計

山辻 直樹／大成建設

■事業委員会（18名）

見学・講演・説明・展示・懇親会など

の企画、実施。

◎ 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所

●情報見学小委員会

大平 卓磨／竹中工務店

大森 雅人／清水建設

奥村 朋孝／鴻池組

○ 小平 弥史／昭和設計

小林 正和／大林組

阪口 浩平／きんでん

* 下田 剛士／高松建設

田崎 祐生／武庫川女子大学

* 田村 大／日建設計

梶田 豊／ジェイアール西日本コンサルタンツ

寺西 興一／大阪府登録文化財所有者の会

▲ 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所

下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

◎委員長 ○副委員長 ▲小委員会委員長 △幹事 ☆顧問 *令和元年度新委員
(所属名は略称 順不同・敬称略)

夏井 重行／元・富士ネオ工業

沼田 典久／久米設計

樋上 新治／ラシンプランニング

宮本 克己／鹿島建設

森 雅章／安井建築設計事務所

脇田 隆史／東畑建築事務所

■出版委員会（11名）

建築に関する図書の企画・編集・刊

行、ならびに講座の企画、実施。

◎ 西 博康／清水建設

* 宮澤 博／きんでん

上原 正行／U建築工房

菅原 敏晃／竹中工務店

玉水 新吾／ドクター住まい

仲本 尚志／atelier UNI-SUPPORT

西尾 徹／きんでん

藤山 宏／造景空間研究所

堀野 和人／スマイリズム

山浦 晋弘／安井建築設計事務所

弓崎 幸治／東畑建築事務所

■教育委員会（27名）

建築教育についての調査・研究・講習

会の企画・実施ならびに工高生デザイ

ンコンクールの企画、実施。「再読関

西の建築」を「建築と社会」誌に連載

するための企画、編集。

◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

●講習会小委員会

東 琢／鴻池組

川井 裕基／鹿島建設

北野 祥児／清水建設

谷本 達哉／浅沼組

* 永野 浩一／竹中工務店

福島 祥司／戸田建設

* 山口 紀宏／大林組

●工高生教育小委員会

岡田 依子／大阪市立工芸高等学校

門脇 裕之／大阪市立都島工業高等学校

白川 陽子／今宮工科高等学校

田中おと吉／修成建設専門学校

▲ 谷口 幸雄／日建設計コンストラクション・マネジメント

中村 真二／東畑建築事務所

永島 敏郎／安井建築設計事務所

成田 雄大／中央工学校OSAKA

宗林 功／大阪工業技術専門学校

矢倉 鉄也／大阪市立都島工業高等学校

吉田 裕彦／大阪工業技術専門学校

大阪府住まいづくり教育普及協議会

●史料研究会

▲ 橋寺 知子／関西大学

石田潤一郎／武庫川女子大学

桐浴 邦夫／京都建築専門学校

山形 政昭／大阪芸術大学

福原 和則／大阪工業大学

三宅 拓也／京都工芸繊維大学

* 玉田 浩之／大手前大学

* 安田 徹也／竹中工道具館

☆ 坂本勝比古／神戸芸術工科大学名誉教授

■未来創生プロジェクト（40名）

100周年記念事業のテーマである「新

しい地平へ」を実現するため、体験型

ワークショップや他業種同世代との交

流会、公開型イベントの企画、実施。

◎ 中村 文紀／東畑建築事務所

●建築次世代委員会

▲ 菅原 幸也／日建設計コンストラクション・マネジメント

大村 泰正／清水建設

門野 陽／鴻池組

川上比奈子／摂南大学

朽木 順綱／大阪工業大学

* 永野 浩一／竹中工務店

松村 明／安井建築設計事務所

* 山口 紀宏／大林組

●2040委員会

清原 健史／安井建築設計事務所

國本 暁彦／竹中工務店

黒川 祐樹／日建設計

△ 駒井 陽次／Style-A/PARK Lab.

* 中島 慎一／徳岡設計

中村 祐記／大林組

平野 尉仁／東畑建築事務所

吉永 規夫／Office for Environment Architecture

●U-35委員会

石井衣利子／梓設計

* 大畑 正彦／大畑正彦建築設計事務所

興津 俊宏／竹中工務店

* 加藤 大樹／西松建設

* 河崎 菜摘／竹中工務店

鬼頭 朋宏／大成建設

* 粉川壮一郎／安井建築設計事務所

小原 信哉／山下設計

駒井 陽次／Style-A/PARK Lab.

下田 康晴／東畑建築事務所

* 鈴木 里美／大成建設

△ 高畑貴良志／日建設計

立松 裕規／東畑建築事務所

出来 佑也／昭和設計

平岡 翔太／大建設

廣富 純／佐藤総合計画

広瀬 和也／東畑建築事務所

三谷 帯介／鹿島建設

箕浦 浩樹／大林組

宮武 慎一／安井建築設計事務所

森下 大右／昭和設計

* 山本 和宏／昭和設計

吉田 悠佑／大林組

若江 直生／日建設計

全177名

2019年度 第65回工高生デザインコンクール

設計課題 2025年のお祭り広場

課題の趣旨

「人類の進歩と調和」をテーマにかかげ、かつて大阪の地に「お祭り広場」がありました。

1970年、大阪万博の「お祭り広場」は日本国中の人が集まり、海外からの観光客で溢れかえりました。その中心では岡本太郎の「太陽の塔」が圧倒的な存在感で人々を魅了し、「ハンパク（反博）」の声も巻き込み、新しい時代の先駆けを感じさせたといえます。

おりしも2025年には大阪で万国博覧会が開催されることが決定しました。今後さまざまな問題点を解決し



ながら、未来につながる建築的空間が創られていきますが、その際、将来を見据えた計画性はさらに重要なものとなります。

建物をつくって壊して完結するのではなく、さまざまな建築要素のうち、場所・材料・コミュニティなど少しでも多

くのものがイベントの後にも永く受け継がれていく広場を提案してください。2025年という未来におけるお祭りとは何か、広場とは何かを考え、大阪に限らず、自分たちのまに「お祭り広場」を創ってあたたかくお迎えしましょう。

設計条件

1. 敷地：敷地の大きさ形状とも自由とし、具体的な敷地を設定する。
2. 規模：延べ面積、構造、階数は自由とする。
3. 所要室：使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所要図等

1. 設計説明：設計意図を表すサブタイトルを必ずつけること。設計趣旨（使い方、立地、周囲の状況等）についての説明を含む）を記入すること。
2. 建築概要：必要に応じて敷地面積、建築物の構造、階数、各階床面積および建築面積、延べ床面積などを示す。
3. 敷地周辺図：敷地周辺の環境や状況を示す。縮尺を明示する。
4. 配置図：敷地における建物の位置、方位、縮尺を明示する。
5. 平面図：室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。
6. 立面図：必要に応じて作成する。縮尺を明示する。
7. 断面図：必要に応じて作成する。室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。（1面以上）
8. 透視図等：設計意図が最も反映するところを表現する。透視図は手書きによる作図を原則とするが、コンピュータグラフィックス、模型写真に代えてもよい。その他必要とされる手書きの図面は加えてもよい。
9. その他：応募図面には、氏名や学校名、マークなど応募者を特定あるいは類推できる内容は記載しないこと。

応募条件

1. 用紙：用紙はケント紙などの厚手の製図用紙A1判（594mm×841mm）1枚を使用し、直接描くこと。トレーシングペーパーと裏打ち用紙の重ね使用や図面のパネル化は認めない。
2. 仕上げ：所要図等は手書きによる鉛筆仕上げとする。（作図、文字）ただし、色鉛筆による着色は可。また、所要図等のうち、透視図（コンピュータグラフィックスも含む）、模型写真のほか、設計説明を補完する図や写真などは用紙に貼り付けてもよい。なお、製図用紙への図表等の印刷出力など上記以外の仕上げは禁止する。

審査員（50音順・敬称略）

審査員長 矢田 朝士／ATELIER-ASH主宰
審査員 一階 聡之／㈱日建設計設計部門設計部長
小笠原絵理／間工作舎一級建築士事務所主宰
神谷 浩司／㈱大林組大阪本店建築事業部プロジェクト設計部副部長
河崎 昌之／和歌山大学システム工学部システム工学科准教授

近藤 良彦／㈱安井建築設計事務所設計部設計主幹
平岡健太郎／㈱竹中工務店大阪本店設計部グループ長
前田 茂樹／ジオグラフィック・デザイン・ラボ代表
松下 典央／㈱昭和設計ソリューション部部長
宮本 雅弘／㈱東畑建築事務所設計室部長

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30（1955）年より毎年テーマを変えて開催しています。

3. 応募資格：2019年4月現在、高等学校在籍もしくは高専、専修学校の高等課程の生徒で、個人または共同（3人まで）で制作したものとする。

応募方法

1. 応募書類に、学校名・所在地・学年・氏名を記入の上、封筒に入れ密封し、製図用紙の裏に貼りつけること。（応募書類が足りない場合は協会ホームページ（<http://www.aaj.or.jp>）からダウンロードしてください。また封筒の貼り付けは、封筒がはがれない程度で、簡易にテープ止め等で結構です。図面を破損する恐れがありますので、糊のベタ塗りはしないでください。）
2. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

2019年9月30日（月）の消印、あるいは受付印のあるものをもって締め切る。

送付先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMM7階
一般社団法人 日本建築協会 第65回工高生デザインコンクール係
TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984
E-mail：jigyoka@aaj.or.jp URL：http://www.aaj.or.jp

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
 2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点を選ぶ。
 3. 最優秀賞・優秀賞作品には、賞状および表彰盾を贈り、その他の入選作品には、賞状を贈る。
 4. 応募者全員に参加賞を贈る。
- ※入選作品の版權は本会に属する。

入選者発表および表彰式

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。表彰式は、2019年11月9日（土）に行う。

一般社団法人 日本建築協会

片岡安賞

(日本建築協会論考コンクール)

第3回 募集要項

日本建築協会創立100周年を機にスタートした論考コンクールも3年目を迎えました。いままでの2回とも力のこもった多数の論考を応募いただきました。今年度も第3回目の論考の募集を開始します。ふるってご応募ください。

■募集テーマ：「建築におけるダイバーシティとは」

昨今、ダイバーシティという言葉が耳にする機会が増えました。ダイバーシティは日本語で多様性と訳され、一般的には「大多数の意見とは異なった意見や思想、個性といった多様な存在を排除せず、その存在意義を認め、これらを共存させていくという考え方」と説明されますが、その意味は多様かつ流動的であり一様な解釈がなされているものではありません。

一方、現在の社会に目を向ければ、少子高齢化による働き手不足から、外国人雇用が増加する傾向にあるほか、国籍や人種の違いだけでなく、社会的な少数者にも配慮する視点が重視されるなど、多様な存在をポジティブに受け入れ、協働していくことが必要な時代を迎えようとしています。そのような社会の実現には、いまだ多くの課題が山積しています。

また、建築の世界に目を転じてみれば、建築の創造活動は、建築家が主体的に芸術的、文化的価値を創造するものであるという側面は残しつつも、建築の社会的役割の変化、価値観の多様化、弱者への配慮、地域貢献、安全・安心な社会、ひっ迫する地球環境問題や持続可能性など、多様な視点を織り込む活動へと変遷してきました。

日本建築協会では、このような建築をとりまく状況の変化を踏まえ、今回の論考コンクールの募集テーマとして「建築におけるダイバーシティとは」といたしました。建築という視点からダイバーシティをどのようにとらえるのかについてお考えいただき、多くの方から論考を応募いただけることを期待しております。

■審査委員会

審査委員長：舟橋國男（大阪大学名誉教授）

審査委員：岩前 篤（近畿大学教授）

花田佳明（神戸芸術工科大学教授）

弘本由香里（大阪ガス エネルギー・文化研究所）

山浦晋弘（安井建築設計事務所）

勝山太郎（本会編集委員長）

■審査方法

- ・全審査委員による査読の上、一次審査を行う。
- ・一次審査により選出されたものを対象とし、公開プレゼンテーションを開催する。その後最終審査を行い、受賞論考を決定する。

■応募条件

- ・投稿料は無料とする。なお選考に伴う旅費は応募者の負担とする。
- ・応募者の国籍、年齢、所属は問わない。
- ・応募論考は単著、共著を問わない。

- ・応募論考は未発表のものに限る。ただし、会誌『建築と社会』に掲載された記事の改稿による論考は可とする。
- ・使用言語は日本語に限る。
- ・質問は受け付けない。
- ・受賞者は本会会員になることとする。

■著作権・版権

- ・著作権は応募者に帰属する。
- ・ただし本会にかかわる出版・印刷においては、一般社団法人日本建築協会が自由に使用することができるものとする。

■執筆要領

- ・頁数は、会誌『建築と社会』掲載時4頁（12,000文字程度）。
- ・必要事項を記入した応募用紙とともに担当窓口へメール送付もしくはA4サイズに印刷したものを郵送する。
なお、応募用紙は本会ホームページからダウンロードする。
- ・電子データにて提出する場合、文書作成ソフトWord（Microsoft社）もしくはそれに類するもので原稿を作成する。添付画像は解像度300dpi以上とし、合計10MB以上になる場合は分割して送信すること。

■スケジュール

2019年6月	募集要項公開
10月31日	応募締切（消印有効、電子投稿の場合23時50分）
11月～1月31日	一次審査
2020年3月上旬	一次審査通過論考の公開プレゼンテーション 及び最終審査会開催（詳細は『建築と社会』に掲載）
5月	受賞論考・著者名発表（『建築と社会』2020年5月号）
6月	論考本文を会誌『建築と社会』2020年6月号に掲載
6月	表彰式（一般社団法人日本建築協会定時総会）

※なお後日受賞論考に基づく講演会・討論会を開催することがある。

■発表と表彰

- ・受賞論考の論題と著者名を会誌『建築と社会』2020年5月号にて発表し、全文を6月号に掲載する。
- ・同6月の本会総会にて表彰し、受賞論考著者には賞状及び副賞を贈る。

■提出先

一般社団法人 日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM7F
電話 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984
メールアドレス<hensyu2@aaaj.or.jp>

主催：一般社団法人 日本建築協会 URL <http://www.aaaj.or.jp>

後援：（公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（公社）日本建築家協会近畿支部、（一社）日本建築学会近畿支部

『建築と社会』 2020年2月号
「第26回 会員作品特集号 “私の空間作法”」
作 品 募 集

モノクロ
掲載無料

『建築と社会』 2月号では、会員作品発表の場として、「第26回 会員作品特集号 “私の空間作法”」を企画しています。

対象は、建築・ランドスケープデザイン・インテリアデザイン・まちづくり・アート等、空間に関わるすべてとし、完成作品、計画案を問いません。また表現方法は、写真、CG等の別を問いません。



■掲載内容

1. 写 真：外観、内観、ディテール、模型写真等。（プリントの場合、サイズはキャビネ判程度。電子データの場合、解像度300dpi以上）
CGやパース、コンセプト図等でも可。
2. 説明文：①ページタイトル（作品固有の名称とは別に、作風を伝えるタイトルをご検討ください）、②作品についての解説文（300字程度）
3. 概 要：作品名称、所在地、設計者、施工者、建築面積、延床面積、構造規模、工期など。

※イラストレーターで原稿作成用のフォーマットをご準備しています。
必要であれば、担当までご一報ください

■掲載に際しての補足

1. 応募できる人は、本会会員に限ります。
入会は日本建築協会ホームページ（<http://www.aaj.or.jp/>）の入会フォームからお願いします。
2. 写真の撮影者名は必ず付記願います。
写真に著作権等が生じる場合は、応募者にて処理願います。
3. 掲載ページ数は、原則として1社（1人）1頁とします。また、竣工予定の作品を掲載希望の場合、写真等の原稿期日は配慮いたしますので、ご連絡ください。
4. 建物の特徴や特殊な事柄については、簡単な補足説明をお願いする場合があります。
5. 作品の掲載順および誌面レイアウトの修正を含む特集全体の構成は、作品作風小委員会にて担当いたします。
6. カラー掲載をご希望の場合は、応募時にご一報の上、30,000円をご負担ください。

■掲載申込締切日および原稿送付先

1. 掲載申込締切日：
2019年10月17日（木）
2. 送付先：（一社）日本建築協会
「会員作品特集号」係
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail：hensyu@aaj.or.jp
担当：井筒

会員のみなさの
個性あふれる作品のご応募を
お待ちしております

主催：大阪府・大阪市・(公社)
大阪府建築士会・(一社)大阪
府建築士事務所協会・(公社)
日本建築家協会近畿支部大阪
地域会・(一社)日本建築協会

第39回大阪都市 景観建築賞 (大阪まちなみ賞) 募集要項

あなたの身近にある景観上優
れたすてきな建物やまちなみ
をご推薦ください！

■趣旨

美しく、個性と風格のあるまちの景観
づくりを進めていくために、周辺景観
の向上に資し、かつ、景観上優れた建
物やまちなみを表彰します。
みなさまから推薦いただいた建物やま
ちなみについて審査し、本賞にふさわ
しいものに、以下の賞が与えられます。

- ・大阪府知事賞
- ・大阪市長賞
- ・審査員特別賞
- ・緑化賞
- ・建築サイン・アート賞
- ・奨励賞

■推薦方法

大阪まちなみ賞ホームページ (<http://osaka-machinami.jp/>) から電子推薦
してください。

自薦の方は、自薦専用書式を上記ホーム
ページよりダウンロードし、必要事
項を記載の上、応募してください。
なお、郵送による推薦も受け付けてい
ます。大阪府庁、大阪市役所、大阪市
の区役所等で配布していますチラシに
添付のはがきに必要事項を記入の上、
応募してください。
どなたでも、一人何点でも推薦できま
す。

※募集用チラシの配布は、大阪府庁・
大阪市役所・各区役所等で行います。

■受付期間

令和元年 7 月 1 日(月)～
7 月31日(水)

■表彰発表

令和元年12月頃予定 入賞作品関係者
への通知をもって入賞発表とします。

■対象

大阪府域内の「建物」および「建物
を中心としたまちなみ」を推薦してくだ
さい。

建物：平成26年 8 月 1 日から平成30
年 7 月31日までに完成したもの
(上記期間に改修した物件も
含みます)

建物を中心としたまちなみ：昨年 7
月31日までに完成したもの

※建築基準法に基づく建築確認申請が
必要な物件については、検査済証が
発行されていない場合、対象外とな
ります。

規模の大きい小さいにかかわらず、次 のようなものをご推薦ください

〔建物〕

1. 将来のまちの景観をリードしてい
くようなもの
ア. 敷地内に、広場などのオープン
スペースを適切に配置したもの
イ. 敷地を共同化してできた建物で
優れた景観を作りあげているもの
ウ. 地域のシンボルとなるようなもの
エ. その他
2. 周辺の建築物等と調和し、美しい
まちなみの形成に役立っているもの
3. 伝統的なまちなみの維持・向上に
役立っているもの
4. 自然の景観(河川、山並みなど)
と調和しているもの
5. 敷地内や壁面、屋上を緑化するこ
とにより、魅力ある景観に寄与し
ているもの
6. 敷地内や壁画等に、デザイン性や
アート性に優れたサイン・壁画・
彫刻・モニュメント等を配置する
ことにより、魅力ある景観に寄与
しているもの
7. その他、この賞の趣旨に沿ったもの
〔建物を中心としたまちなみ〕
1. 総合的な計画、良好な維持管理に
より優れた景観を作り上げている
もの
2. 伝統的なまちなみの維持・向上を
図っているもの
3. 適切な緑化により、魅力あるまち
なみを形成しているもの
4. その他、この賞の趣旨に沿ったもの

■審査委員

審査委員※50音順

上村 晋 (建築)
(公社)日本建築家協会近畿支部
大阪地域会副会長
指田孝太郎 (建築)
(公社)大阪府建築士会相談役
下村泰彦 (造園)
大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授
中嶋節子 (建築)
京都大学大学院
人間・環境学研究科教授
夏原晃子 (デザイン)
美術造形デザイナー
羽根和人 (報道)
朝日新聞大阪本社社会部長
久 隆浩 (都市計画)
近畿大学総合社会学部
環境・まちづくり系専攻教授
藤本英子 (芸術)
京都市立芸術大学
美術学部デザイン科教授

■問い合わせ先

○大阪都市景観建築賞運営委員会
〒540-0012
大阪府大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5F
(公社)大阪府建築士会内
TEL: 06-6947-1961
FAX: 06-6943-7103
E-mail: info@aba-osakafu.or.jp
○大阪府住宅まちづくり部
建築指導室 建築企画課 調整グループ
〒559-8555
大阪市住之江区南港北1丁目14-16
大阪府咲洲庁舎27階
TEL: 06-6210-9718
FAX: 06-6210-9714
○大阪市 都市計画局 計画部 都市
計画課 (都市景観)
〒530-8201
大阪市北区中之島1-3-20 大阪市役所7階
TEL: 06-6208-7887
FAX: 06-6231-3753

主催：(一社)日本建築協会
京都支部
共催：(公社)日本建築家協会
近畿支部京都地域会

令和元年セミナー第1回 「河川工学から みた日本の洪水 災害と課題」

昨年6月の大阪北部地震、7月の豪雨、9月の台風21号と近年地震の活性期及び異常気象も重なり、各地で大きな災害が次々発生しました。わが国日本列島の7割は山地であり、従って多くの河川を持ち川筋、谷筋に沿った街や集落も北から南まで数多くあります。今回は国土というマクロな視点に立ち、河川工学の権威 元京大防災研究所所長の井上博士に日本の国土の特徴と国土の安全化、強靱化の為の対策を教示願います。
(文責 日本建築協会京都支部長 長瀬 博一)

■概要

近年、都市において集中的な豪雨による内水的氾濫や、流域規模の大雨による中小河川の破堤氾濫がしばしば発生しています。このように、いくつかの時間・空間規模で生ずるわが国の洪水災害について、河川工学の立場から、現状や特徴をまとめるとともに、対策を考えることにします

■講師プロフィール

井上和也 (いのうえ かずや)
1941年京都市生まれ。京都大学工学部土木工学科卒、同大学院修士課程修了。京都大学工学部助手などを経て、1992年京都大学防災研究所教授、2003年同研究所長、2005年退職。名誉教授。工学博士。
専門は、水理学、河川工学、都市水害論。

■日時
2019年 7月12日(金)
18:30~20:00
(質疑含む)

■定員 25名(先着順)

■講師 井上和也 京都大学名誉教授(元京大防災研究所所長)

■参加費 会員1,000円(主催、共催者共)、一般1,500円、学生500円

■会場 京都建設会館 別館4階 会議室(京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町641)

■最寄駅 地下鉄東西線「市役所前」駅より徒歩7分、地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅より徒歩10分

■申込方法 ①講演会名「7/12セミナー」
②氏名
③勤務先または学校名
④当日連絡先
⑤E-mailアドレスまたはFAX番号
⑥会員・一般・学生の別
上記項目を明記しFAXで下記へお申し込みください。
※受付後連絡のため、FAX又はMailを必ずご記入ください。
■申込先 (一社)日本建築協会
京都支部事務局
FAX 075-255-6077

2000年 東海水害



(建設省)

1953年 宇治川の破堤



(建設省)

2018年 倉敷市真備町水害



【出典：国土交通省HP】

建築と社会

Architecture and Society

Journal of the Architectural Association of Japan

日本建築協会

2019 07

Vol.100 No.1168

■特集予告

● 8月号／建築の仮設性と恒久性

● 9月号／災害。逃げる

今月の表紙

「建築と社会」vol.20 1937年3月号口絵写真「大阪を中心とする交通に関する建物 電気科学館」より『外観（西南ヨリ望ム）』

会誌の建築計画の概要によると、電気科学館は昭和8年（1933年）、電灯市営10周年記念事業として計画された、と記載されている。

昭和9年（1934年）5月起工、昭和12年（1937年）1月竣工。

プラネタリウムは日本で初めての施設であり、装置が高額なことなどから、計画発表以来、非常に注目を集めたようである。

会誌では、写真と断面図・平面図のほか、プラネタリウムを含めた概要と設計についての記事をあわせて23頁紹介している。

戦災を乗り越え営業していたが、平成元年（1989年）老朽化により閉館、その後取り壊された。



特集 第66回 青年技術者

■設計・計画部門

石黒 紘介	●常葉大学静岡草薙キャンパス、ATグループ本社 北館・南館、竹中工務店名古屋支店	24
菊地 健作	●学校法人 関西大学 千里山東体育館、公益財団法人 浅香山病院一般科、社会医療法人 愛仁会 レジリエンスだいま	25
岸上 和樹	●ザ・パークハウス グラン 千鳥ヶ淵、麻布学園創立120周年記念体育館建築計画、新JA熊本県会館建設計画、大妻女子大学H棟新築工事	26
鬼頭 朋宏	●近畿産業信用組合本店【都市型高層ZEBの実現／伝統×革新】、アース環境サービス㈱ 彩都総合研究所T-CUBE【研究者と来訪者の交流を最大化するTWIN-CUBE】、ツムラ㈱静岡工場食堂棟【一つ屋根の下、大きな家のような食堂】、シミックファーマサイエンス㈱バイオリサーチセンター【森の中の研究所】	27
佐賀 淳一	●ダイビル本館、新ダイビル	28
柴崎 雅也	●ベジフルスタジアム（福岡市中央卸売市場青果卸売市場卸売場西棟）、唐津港湾合同庁舎	29
白井尚太郎	●関西外国語大学御殿山キャンパス、松山大学樋又キャンパス、関西外国語大学インターナショナルコミュニケーションセンター	30
末重 隼人	●春日部市立医療センター、光市立光総合病院	31
滝澤 創也	●広島修道大学付属鈴峯女子中学校・高等学校、履正社学園豊中学校、履正社高校	32
中村 篤史	●株式会社池戸製作所本社工場、悠旅（ホテル）、静鉄ホテルプレジオ京都烏丸御池	33
野中 広斗	●アリオ倉敷、大阪ビジネスパーク 道路空間活用社会実験、元立誠小学校跡地活用事業、讀賣テレビ新社屋新築計画、鈴蘭台駅前市街地再開発事業	34
花村 和也	●土岐市新庁舎～次世代へのメッセージとなる庁舎づくり～、亀山駅周辺2ブロック地区第一種市街地再開発事業～にぎわいを創出するまちづくり～、静岡県警察学校本館～警察学校の顔としてふさわしい本館～	35
広瀬 和也	●武庫川女子大学 学校教育館、宝塚市立文化芸術施設・庭園整備事業、（仮称）関東学院横浜都心キャンパスプロジェクト	36
広瀬 良太	●来訪者を導くホワイトスクリーン■大塚製薬工場鳴門工場 守衛所（2016）、交差点のシンボルタワー（2010）■京橋創生館増築工事、農業を核としたまちづくり拠点■K地域 地方創生プロジェクト（2018～）	37
村田 真悟	●伏見ミリオン座、Iビルディング	38
柳澤 隆	●名古屋プリンスホテル スカイタワー、某迎賓館、朝霧カントリークラブ クラブハウス	39
山口 佳孝	●大阪国際空港ターミナルビル再整備、ボルボ・カー 神戸	40
吉田 悠佑	●神宮会館講堂棟―神宮にふさわしい「和」をデザインモチーフとした講堂棟―、大阪ソーダ総合研究開発センター―中庭を核とした立体的な交流の仕掛け―、GSユアサ草津事業所―最先端の電池の開発・製造を担う新拠点―	41
吉本 一規	●大塚倉庫西日本ロジスティクスセンター、遠藤照明テクニカルセンター	42
余田 尚紀	●株式会社ダイセル iCube、イワタニ水素ステーション 関西国際空港、大阪第6 地方合同庁舎	43
渡邊 有祐	●明石駅前南地区第一種市街地再開発事業（施設棟）、上京区総合庁舎、エクセディ伊賀上野事業所	44

■構造部門

河井翔太郎	●引抜きを抑制した塔状比5.5の超高層免震集合住宅の設計	45
佐々木 淳一	●ダイナミックに浮遊する開放的な執務スペースを実現する架構の設計～日亜化学工業 諏訪技術センター～	46
正野 和司	●キューブユニット面で構成する構造 久光製薬ミュージアム	47
中嶋 拓	●木造屋根を浮遊させた混合構造免震オフィスの構造設計と極大地震対応	48
堀本 明伸	●ガラスダブルスキンを支えるホールトラスの構造デザイン 国立京都国際会館ニューホールの構造設計	49
三谷 淳	●傾斜した支持地盤に建つ大型免震物流倉庫	50

■設備部門

今吉 健	●GLP吹田プロジェクトの設備計画～BIM活用によるステークホルダーとの効率的な合意形成の取り組み～	51
古我 卓真	●BIMを活用した施工管理への取り組み	52
迫田 裕之	●ヤンマー本社ビル―思いの実現と挑戦―、岩国錦帯橋空港―建築・設備の融合―	53
永吉 敬行	●近畿産業信用組合本店～都市型高層ZEB Readyの実現～、A美術館における設備計画～文化財を守る空調システム～	54
宮崎亜由美	●大阪ガス北部事業所低炭素化改修工事―入居者の特性を考慮した設備システム―、広島県庁舎耐震補強工事・維持保全工事―LCD改修プロジェクトにおける取り組み―	55
吉田 淳	●ダイキンアレス青谷Ⅱ期における設備計画	56
吉田 裕紀	●京都四條南座における設備改修計画	57

■施工部門

赤尾 悟史	●建築生産における環境負荷低減と生産性向上への挑戦	58
荒木 秀樹	●働き方改革に向けた取り組み～小さなことからコツコツと～	59
熊田 健太	●本設躯体を利用する大深度の根切り山留め工事の施工計画について―アイランド工法に伴う鉄骨躯体の検証―	60
櫻井 勇輔	●廃棄物焼却施設解体に伴うダイオキシン除染工事の計画について	61
橋本 真彰	●伝統と革新を結び付ける～地下工事と外装工事～	62

会告

第5回建築セミナー	図解 問取りの処方箋	1
定時総会議決のお知らせ、通常理事会議決のお知らせ、臨時理事会議決のお知らせ、定時評議員会議決のお知らせ、平成30年度事業報告、平成30年度決算報告、令和元年度事業計画、令和元年度収支予算書、令和元年度日本建築協会役員会務分掌、令和元年度日本建築協会評議員名簿、令和元年度日本建築協会支部長、令和元年度日本建築協会委員		12
2019年度 第65回工高生デザインコンクール作品募集		13
第3回片岡安賞（日本建築協会論考コンクール）募集要項		14
第26回 会員作品特集号「私の空間作法」作品募集要項		15
第39回大阪市景観建築賞（大阪まちなみ賞）募集要項		16
主催：日本建築協会京都支部 令和元年セミナー第1回「河川工学からみた日本の洪水災害と課題」		16
作品作風	和泉市立総合医療センター アサヒファシリティズ蛭池寮 楓	18
gallery	まなざしに共鳴する芸術●野田睦美	22
法令コーナー	全国に先駆けて歴史的建造物委員会を設立●中村陽二	63
構造の頁	デザインエレメントとしての構造体 猪名川霊園礼拝堂・休憩棟●市川幸弘	64
再読 関西の建築	【特別インタビュー】神戸での西洋館保存とその頃―坂本勝比古先生に聴く（前編）	65
Member's Forum	＜第4回建築セミナー＞ 建築と設備の接点 トラブル予防のツボ	69
建築と社会を 考える	近隣住区の維持に寄与する障害者福祉「施設」 障害者の「働く」に着目して●松原茂樹	70
新製品レビュー	更なる機能付加で攻めるガラス建材 ●日本板硝子グループ 4 社合同企画	74
information	PIXARのひみつ展 いのちを生みだすサイエンス／特別展～国芳、広重、国貞、豊国、英泉…江戸・明治の浮世絵師たちが描く～ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展／太田喜二郎と藤井厚二―日本の光を追い求めた画家と建築家／富本憲吉入門―彼はなぜ日本近代陶芸の巨匠なのか／ヒグチユウコ展 CIRCUS／第26回 空間デザイン・コンペティション	81
月間の動き	2019年5月	84



北側外観 左手前にメインエントランス、中央に時間外入口、右手奥が救急入口*



エントランスホール

和泉市立総合医療センター

建 築 主 和泉市
基本設計・監理 内藤建築事務所
実施設計 清水建設関西支店一級建築士事務所
施 工 清水建設

昭和38年に開院した和泉市立総合医療センター（旧病院名：和泉市立病院）は、施設の老朽化や耐震性の問題、手狭な敷地での機能の増強が困難となり、近隣の市が所有する横尾川公園敷地内へ移転をした。

コンセプトは「HOSPITAL PARK」そして「和泉市らしい空間づくり」である。敷地の半分以上を公園として残し再整備しながら、病院との連続性を意識した外構計画とすることで緑があふれ自然に癒される療養環境づくりを目指した。さらに市民に愛される病院として「和泉市らしさ」にこだわり、市産材の「いずもく」、天然織物の「和泉木綿」、美しい人造真珠の「和泉真珠」の地場産材を院内の構成要素として盛り込み、ぬくもりと癒しの環境を提供した。

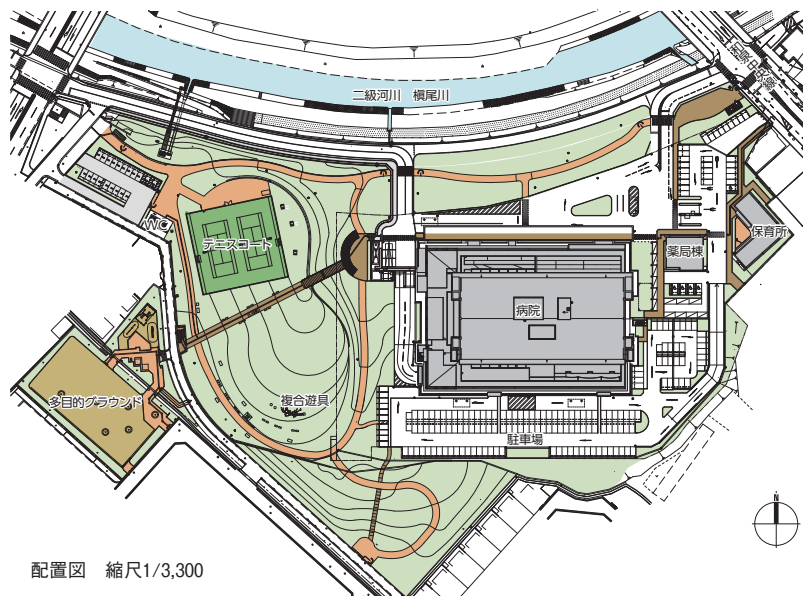
外観は健康のシンボルとして安心・安全・安定をイメージし、白いフレームとバルコニー・庇に対して、和泉木綿の日本的な濃藍色の外壁のコントラストにて、品格と重厚感を感じさせ、市立病院らしい病院としての姿を意図した。

診療機能としては大阪府がん診療拠点病院として、がん医療中心に高度専門医療の更なる向上と緩和ケアの充実を図り、さらに市民が24時間安心して医療提供を受けられるよう救急医療や小児科医療の強化も行った。

また東南海・南海地震の起こりうる地域性を鑑み、基礎免震構造、高圧2回線受電、非常用発電機、緊急排水槽、井水の利用等、インフラ途絶時でも一定の病院機能の継続が可能とし、被災者の受け入れや円滑な災害救護活動を行うために公園や建物にトリアーススペース、保管物資の備蓄・供給スペース、災害対策本部設置等、災害拠点病院になりうる機能を持たせた。

（椿祥一／内藤建築事務所、小原博之／清水建設）

所 在 地	大阪府和泉市和気町4-5-1	構造規模	RC造一部S造、Hy-Ecos（基礎免震構造）
敷地面積	21,476.15㎡		地上8階・塔屋1階
建築面積	6,822.64㎡	工 期	2016年4月～2018年3月
延床面積	32,396.68㎡	最 寄 駅	JR阪和線 和泉府中駅
		撮 影	近代建築社（清水向山）
			※印撮影（株）エスエス 大阪支店



配置図 縮尺1/3,300



全景空撮



ホスピタルストリート 外来受付



小児外来待合*



病棟スタッフステーション*



緩和ケア病室*



屋上庭園



西面外観



所在地 大阪府豊中市蛍池東町
 敷地面積 1,039.84㎡
 建築面積 433.15㎡
 延床面積 1,063.12㎡
 構造規模 鉄筋コンクリート組積造 地上3階
 工期 2018年5月～2019年3月
 最寄駅 阪急電鉄宝塚線 蛍池駅
 撮影 母倉知樹

中庭を見る

アサヒファシリティズ蛍池寮 楓

建 築 主 株式会社 アサヒ ファシリティズ
 設計・監理 竹中工務店 大阪一級建築士事務所
 施 工 竹中工務店 大阪本店

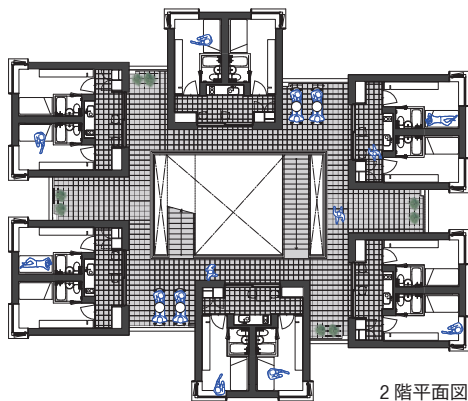
建物の維持管理を担う企業「アサヒファシリティズ」の独身寮。これからの会社を担う若手社員同士がひとつ屋根の下で暮らし、互いの顔が見えて自然に会話の生まれるような、風通しのよい独身寮を目指して計画をおこなった。

敷地は大阪府豊中市。阪急蛍池駅から徒歩10分ほどの利便性のよい古くからの住宅街に位置している。建物ボリュームは緑に囲まれ、周辺住宅のスケール感に馴染むように高さを抑えた3層構成とし、平面的にも6つに分割することで全体ボリュームの低減を図っている。また建物配置は、求心性のある中庭を中心にボリュームをつなぐ通路と階段を配置し、6つのボリューム間には「コモンスポット」と呼ぶ外部に開放された空間を設けている。パブリックスペースに光と風を届けるとともに、風通しのよい交流の場を生み出して、住まい手がすまいの一体感を感じられるよう計画している。

また、プライベート空間である寮室は一般的なワンルーム型にあるような均質で閉じられた居住空間ではなく、パブリックスペースに開かれた構成となるよう機能を再構築し、2室の「寮室」と2室で共有する「シェアキッチン」を組み合わせた、2戸1ユニットとしている。

パブリックスペースとプライベート空間の中間領域である「シェアキッチン」が交流の起点となり、緩やかでありながら親密な社員同士の関係性が築かれていくことを願っている。

(河合哲夫・合田靖・大松俊祐／竹中工務店)



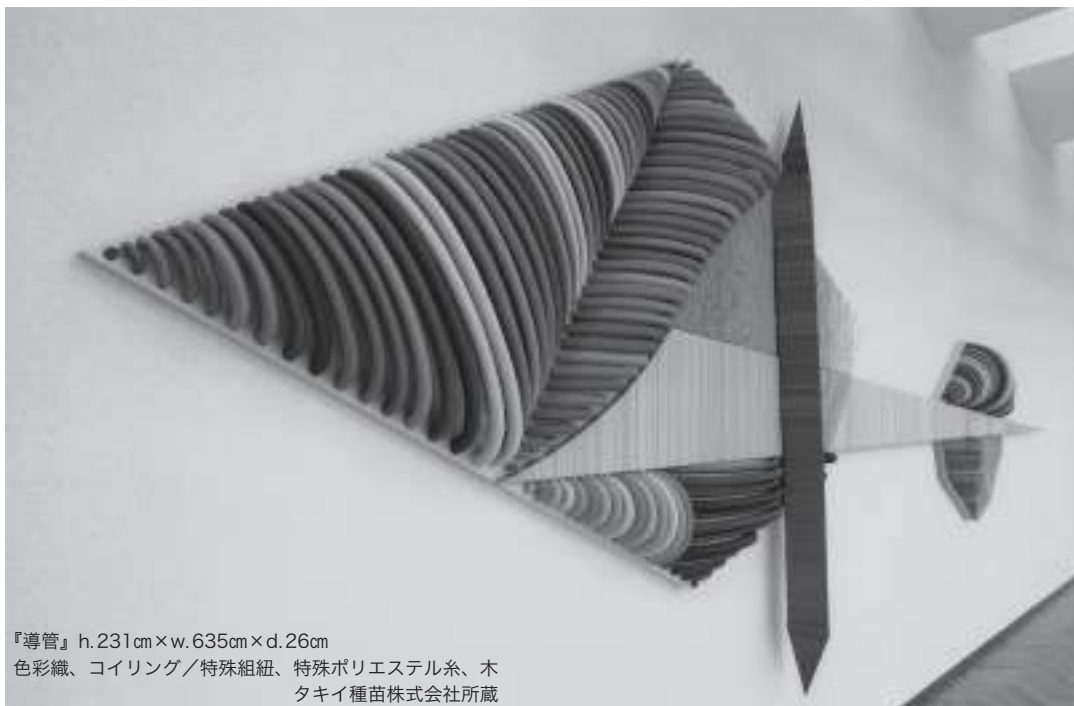
まなざしに共鳴する芸術

染 織 造 形

野 田 睦 美

京都府生まれ。京都、広島、フランスにて創作活動を行う。京都市立芸術大学美術学部、大学院美術研究科を修了し、博士（美術）取得。文化庁新進芸術家海外派遣研修員に推挙されフランスに1年間派遣。フランスではÉcole Nationale Supérieure des Beaux-Arts de Paris（パリ国立美術高等学校）とParis Ateliers-Tapisserie de hautelice（パリ市立工房堅機タピスリー）において、創作と作品発表を行う。

近年は「京都の染織1960年代から今日まで」（京都国立近代美術館）「第18回 DOMANI・明日」（国立新美術館/東京）DIGITAL WORLD FESTIVAL「FUTUR ENSEINE」（Le CENTQUATRE-PARIS/フランス）江陵芸術祭国際招待展（江陵市美術館/韓国）等の展覧会で作品が紹介された。伊丹市立工芸センター（兵庫）やアートライフみつはし（京都）で企画展、タキイ種苗株式会社（京都本社・福岡支店）、医療法人恕泉会リハビリテーション病院すこやかな杜（高知）等で恒久設置となっている。受賞、展覧会、タピスリや綴帳のデザイン及び監修など多数。広島市立大学・大学院芸術学研究科准教授

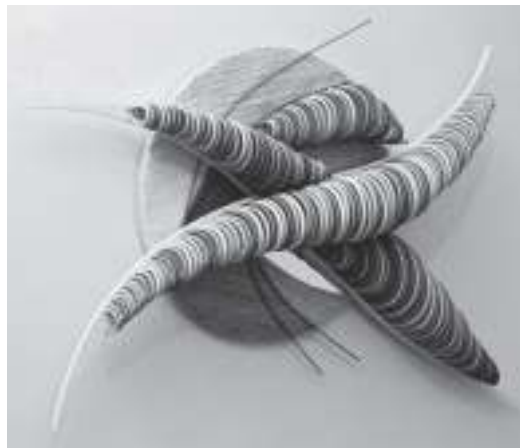


『導管』h.231cm×w.635cm×d.26cm
色彩織、コイリング／特殊組紐、特殊ポリエステル糸、木
タキイ種苗株式会社所蔵

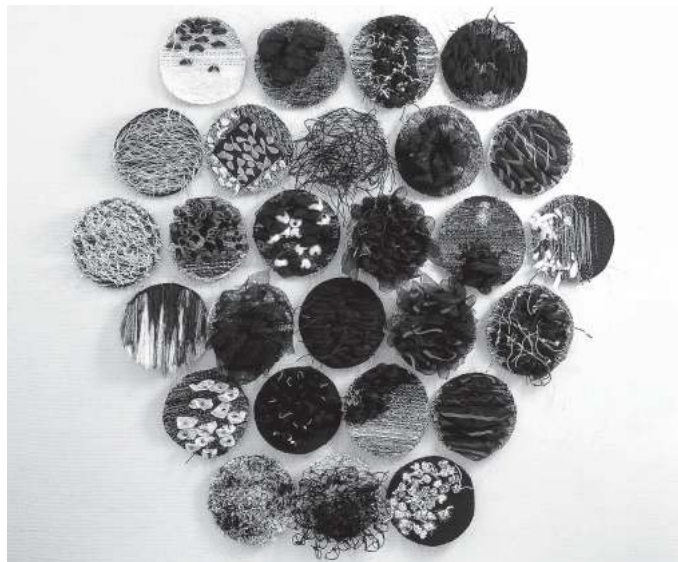
日本の染織およびテキスタイルデザインやスーパー繊維の開発による新しい繊維造形は、その独特な美意識によって世界から注目されています。その原点にある美術織物の綴織は、テーマ、構成、色彩、素材、染色技術、織技術が融合した芸術の醍醐味として、フランスや日本において最高芸術品とされてきました。繊維には、柔軟性があり軽く温もりがあるといった特質に加えて、微粒子の染料が繊維に染み込み発色することで現れる豊かな光彩があります。私は日本の伝統的な染めと織りの技術を基に新素材による繊維と染色について研究し、デザイン、染色、製織、作品設置までを一貫して行った染織造形を制作しています。そして、日本で製作されている素材と特殊な織技術と光を融合させ、染織造形の新しい展開として、「まなざしに共鳴する芸術－見る人と光と場を予測して－」を探究しています。



『南無不可思議光如来』h.195cm×w.275cm×d.28cm
医療法人恕泉会リハビリテーション病院すこやかな杜所蔵



『月遊び』h.107cm×w.145cm×d.16cm
社会福祉法人向日葵会特別養護老人ホーム
サンフラワーガーデン所蔵



『慈照寺 銀閣の月』h.270cm×w.290cm×d.25cm 新匠工芸会展・会友賞受賞



『常寂光土』h.250cm×w.360cm×d.15cm 新匠工芸会展・稲垣賞受賞
企画編集：倉渕奈千子（作品作風小委員会）

■設計・計画部門——

石黒 紘介	竹中工務店
菊地 健作	東畑建築事務所
岸上 和樹	三菱地所設計
鬼頭 朋宏	大成建設
佐賀 淳一	日建設計
柴崎 雅也	東畑建築事務所
白井尚太郎	日建設計
末重 隼人	昭和設計
滝澤 創也	日建設計
中村 篤史	高松建設
野中 広斗	竹中工務店
花村 和也	東畑建築事務所
広瀬 和也	東畑建築事務所
広瀬 良太	鹿島建設
村田 真悟	大林組
柳澤 隆	竹中工務店
山口 佳孝	安井建築設計事務所
吉田 悠佑	大林組
吉本 一規	竹中工務店
余田 尚紀	大林組
渡邊 有祐	東畑建築事務所

■構造部門——

河井翔太郎	鴻池組
佐々木淳一	竹中工務店
正野 和司	安井建築設計事務所
中嶋 拓	大林組
堀本 明伸	日建設計
三谷 淳	大林組

■設備部門——

今吉 健	竹中工務店
古我 卓真	竹中工務店
迫田 裕之	日建設計
永吉 敬行	大成建設
宮崎亜由美	日建設計
吉田 淳	竹中工務店
吉田 裕紀	大林組

■施工部門——

赤尾 悟史	竹中工務店
荒木 秀樹	鹿島建設
熊田 健太	西松建設
櫻井 勇輔	大林組
橋本 真彰	大成建設

部門別50音順

応募状況と結果

部門	応募数	入選数
設計・計画	24	21
構造	6	6
設備	7	7
施工	8	5
合計	45	39

第66回青年技術者選考委員

勝山 太郎	／株式会社日建設計設計部門 グループマネージャー
岸田 文夫	／株式会社竹中工務店開発設計画本部長 (西日本担当)
長尾 健	／長尾健建築研究所代表
橋本 修	／株式会社昭和設計執行役員プロジェクト 推進室室長
松原 茂樹	／大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻准教授
北尾 聡子	／大阪電気通信大学工学部 建築学科准教授
梶田 洋子	／南桃李舎代表取締役
井村 隆	／清水建設関西西支店設備設計部設計長
小倉 良友	／株式会社日建設計エンジニアリング部門設備 設計グループシニアダイレクター
山口 善史	／株式会社大林組大阪本店建築事業部 生産技術部長
青木 康造	／大成建設関西西支店建築部 品質管理室長

青年技術者選考委員会 講評

選考委員長 勝山太郎

昭和29年（1954年）から始まり、今回で第66回目となる青年技術者表彰は、若い技術者の仕事の成果や取り組み姿勢を審査・表彰し、建築を通して社会に貢献する人材を励まし育てることを目的とした、他の表彰制度にはないオリジナリティと社会的意義を持つ顕彰制度として、長い歴史を刻んできました。今年は昨年よりも3名多い45名の応募を頂きました。ここ数年、毎年応募者数が増えていまして、協会としても、選考に関わるメンバーにとっても大変嬉しく、有り難く思っております。忙しい中、資料を纏め上げて頂いた応募者の方々、そして、推薦や応募への働きかけをして頂いた方々など、当顕彰制度の意義にご賛同頂き、ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。このたび急な審査により39名が選出されました。講評は分野ごとの審査委員のコメントをご覧ください。この顕彰制度の特徴は応募者の関わられたプロジェクトそのものを評価するのではなく、応募者がその仕事で果たした本当の役割、その役割の中で達成した具体的な成果とそのレベル、技術の先進性・独自性、そして将来に対するビジョンを確認した上で、総合的に「人」を表彰しようというものです。応募資料はどれも力作揃いでしたが、昨年までの講評でも当落ポイントとして明確に記述されていた、応募者のプロジェクトへの「関与度」と「取り組み姿勢」等の記述の量・表現力の差が評価を分けていました。残念ながら今回選外となった方は、実績は申し分ないもののプロジェクト紹介に偏り、応募者個人の果たした役割や想いが見えにくいという惜しい方々が多くいらっしゃいました。可能な方は是非また再応募して頂きたいと思えますし、来年ご応募頂く方々にも審査で重視しているポイントは是非ご理解頂きたいと思えます。今年は再チャレンジをして頂き、見事入選された方もいらっしゃいました。審査する側にとっても、とても嬉しいことでした。また、今年はインテリア設計からもご応募を頂きましたが、建築の職能も多様化する中で、従来の枠組みにとらわれない高度で専門的な取り組みをされている方々も応募しやすい仕組みづくりが必要と感じました。今回、応募資料を拝見し、皆様がそれぞれの立場でプロジェクトを通して社会に貢献しようとする真摯にかつ情熱的に取り組んでいる姿を読み取ることができ、大いに刺激を受けました。応募して頂いた方々が、今後ますます活躍されることを期待いたします。

■設計・計画部門

今年は過去最多の24名の応募があり、インテリア設計でも1名の応募がありました。一方で計画分野での応募が1名のみに留まりました。都市再開発や公共空間の利活用、エリアマネジメント等まちづくりへの関心は益々高まっており、計画分野でも一層の応募が期待されます。今年の応募案には、多様なステークホルダーとの丁寧な「対話」を大切にしたい堅実で安定感のある設計実務が多くみられました。いずれも大変素晴らしい成果ですが、その一方で、SDGsや環境共生、木質建築等の先進的なテーマに挑戦した取り組みが少なかったように思います。プロジェクトの川上段階から関わるが多い設計・計画系の技術者には、複雑な社会ニーズの理解、高度で多様化した専門性への対応等が求められます。常に視野を広く持ち、未来志向での環境・社会と建築との関わりへ、深い思索と造詣を期待しています。今年は21名の方を入選としました。残念ながら選からもれた3名は、ご自身がどのような立場でそのプロジェクトに関与したのか、どのような想いで取り組んだのか等が十分に読み取ることができませんでした。今年は過去の落選者が再挑戦され、入選しています。再度の挑戦を期待しています。また、今後ともアトリエ系事務所や大学、官庁等の幅広い分野からのご応募を期待しています。

(岸田文夫)

■構造部門

今年の構造部門の応募数は6件でした。審査の結果、すべて入選としました。青年技術者顕彰・構造部門においてもA：業績資料（A3版5枚以内）で説明されるプロジェクト概要と、B：青年技術者の思い（A4版2枚以内）で示された「A資料・プロジェクトへの貢献と自身の活躍内容」「建築・都市・環境に対する考え方・取り組み姿勢・将来展望」について審査基準にのっとり審査いたしました。A資料からは、プロジェクトに対する構造設計者としての計画的思考や課題解決法、そしてその結果が読み取れました。プロジェクトは大きなものから比較的小さなものまで様々ですが、技術者の立ち位置を明確にした上で、テーマや目的を持って取り組んでいる様子が伝わってきました。B資料からは、次のキーワードがありました。「最適設計解への探求・強い防災意識・事業主の思いとその答えまでの道のり・兵庫県南部地震の経験と記憶・建築を楽しむ姿勢・失敗例から学ぶ勉強会・問いかけの継続・チームへの貢献・エンジニアとしての取組姿勢・安全性vs経済性+テーマ・建築の質向上・喜びのある建築・コンピュータからはじき出される数値と技術者判断」これらキーワードには、未来ある

若き創造者の建築構造設計への真摯な気持ちとおもいやりに溢れています。青年技術者の皆様の今後益々のご活躍を心より期待いたします。
(北尾聡子)

■設備部門

本年は、設計系5名、施工系2名の計7名の応募で、7名全員を入選とした。選考に際して、「本人の役割が明確か」「力量が活かされた部分の詳細な説明があり、創意工夫が感じられるか」「取組姿勢や将来展望が表現されているか」を評価した。応募内容は、省エネ・低炭素・ZEBに向けた取り組みとしてエネルギー実態調査・運用改善・要素技術提案・竣工後の性能検証の事例、BCPへの取り組みやBIMによる施工性の向上、フレキシビリティの追及、維持管理での改善等の取り組みがあり、幅広い審査となった。入選した7名とも、本人が直接携わったプロジェクトで、取り組んだ事例を明確に表現できており、その中での創意工夫が感じられた。今回の応募は省エネ・低炭素化手法をシミュレーション、計画、性能検証を行っている事例が多く、応募資料として取り組みやアピールポイントが明確でわかりやすく力作揃いだった。また新築の計画・設計だけでなく改修への取り組みもあり、青年技術者として業務領域を拡げており、今後の活躍が期待される。

(小倉良友)

■施工部門

今年度の施工部門では、8件の応募があった。応募内容を見ると、働き方改革をキーワードとするものが多くを占め、施工合理化・改善活動による生産性向上、BIMの活用などが報告されていた。また、各種条件の厳しい制約がある中での、技術検討・技術開発を行った事例も報告されていた。建設プロジェクトでは、多くの技術者等が、協同し議論し切磋琢磨して完成させ、建物利用と維持管理に繋げる。施工だけを考えても多くの技術者が携わっている。その中で、本人の貢献度や、力量が活かされているかを重点的に確認した。また、試行錯誤や検討・検証のプロセスを、いかに本人の言葉で表現されているか等から、取り組み姿勢を評価した。選考の結果、5件を入選とした。惜しくも選外となられた方は、応募書面に、本人の取り組み姿勢や将来展望など、技術者としての姿が伝わるように表現されていると入選したと思われる。また、BIMについては、もう採用は当たり前前の段階であり、更に一歩二歩踏込んだ活用を推進願う。皆様の、青年技術者としての、益々のご活躍と、良き先輩として後輩の目標となる姿を示されることを期待する。

(青木康造)



石黒 紘 介

生 年 月 1984年9月愛知県生まれ
 最終学歴 2009年京都大学大学院
 工学科研究科建築学専攻
 修了
 業務経歴 2009年㈱竹中工務店入社
 現在、名古屋支店設計部
 ●担当した主なプロジェクト
 2011年 松坂屋久屋南パークテラス
 2012年 竹中工務店名古屋支店
 (名古屋センタービル改修)
 2014年 ATグループ本社 北館
 2016年 ATグループ本社 南館
 2018年 常葉大学静岡草薙キャンパス

■青年技術者のことば

これまで、商業施設、事務所、自動車ショールーム、学校など様々な用途のプロジェクトに携わることが出来ました。建築主の要望、法的な制約、コスト条件など前提条件はプロジェクトごとに変わりますが、振り返ってみると、どのプロジェクトにおいてもその建築の「空間の豊かさ」をいかに最大化できるかを常に考えながら設計に取り組んできました。

「空間の豊かさ」を構成する要素は、外部空間とのつながり/自然光の取り込み/気積の大きな空間/余白の空間/人々の居場所となること/緑の風景など様々ですが、どれも建築空間に潜在するため図式化されることがなく法規、コスト、スケジュールなど様々な制約に縛られるプロジェクト進行を通じて様々な場面でその価値を問われることとなります。しかしながら、その豊かさを創出することが建築をつくる大きな意義であり、それは人々の豊かな活動、経験を支えるものとなります。

今後は、生産性向上、コスト合理化の必要性が高まることに対して、進化するコンピューショナルデザインやBIMを効果的に導入しながら設計に向き合い、人々の豊かな活動、経験を支える「空間の豊かさ」を探索し続けていきます。

■すいせん者

市川健二
 ㈱竹中工務店 名古屋支店
 設計部 設計部長

常葉大学静岡草薙キャンパス



自然・地域・交流の接点となる「地方中核都市型キャンパス」



自然環境を届ける媒体となる「キャンパスリビング」



学生の居場所を屋外へ拡張する「ステップテラス」

ATグループ本社 北館・南館



大通りの交差点に面する外観は「街を彩る木の器」となる



表しの木による空間に街路樹の緑の風景を取り込む



大通りに面した間口140mのカーモール

竹中工務店名古屋支店



来客ロビー：木と左官の「伝統」の表現と光とアートの「革新」



周囲の雑多な風景から柔らかな光を抽出するスクリーン



きく ち けん さく
菊地 健作

生年月 1983年9月山口県生まれ
最終学歴 2008年立命館大学大学院
理工学研究科創造理工学
専攻 修士課程修了

業務経歴 2008年(株)東畑建築事務所
入社、現在 同社設計室
主任技師

●担当した主なプロジェクト

2008年 西予市新庁舎
2009年 浅香山病院 一般科
2011年 関西大学北陽高中体育館
2012年 千船病院 移転新築
2014年 さくらの杜 千代田
2015年 関西大学カイザースペース
ボールフィールド
2015年 レジリエンスだいもつ
2016年 京阪病院 新病棟
2016年 関西大学千里山東体育館

■青年技術者のことば

建築設計とは「クライアントの思い」「敷地のポテンシャルと周辺環境」「施設の社会的背景や公共性」を読み解きカタチにしていることであると考えています。これまでの設計監理業務を振り返り、設計者として重要であると考えられることは以下の3つです。

1) 協働による付加価値の創出
クライアントを始め、様々な関係者との対話を積み重ね、協働し、「その建築物固有の付加価値」を見つけ出し、創出する。

2) 使いこなせる空間づくり
建物ユーザー目線に立った設計を行い、ユーザーがその場所を使いこなせる空間づくりを行う。

3) 公共財産としての建築
設計者として、地域や都市、社会に対して、「何かを寄与する建築物」の実現に貢献する。

建築物はクライアント固有の財産である一方、公共的かつ社会的な財産としての側面も持っています。クライアントと共に地域社会の中での建築の在り方を考え、エンドユーザーや地域住民に愛される建築物の実現に貢献できる設計者を目指したいと考えております。加えて、建物をつくりあげるプロセスの中で、関係者全員で協力し合い、楽しみながら、日々の設計に取り組んでいきたいと考えております。

■すいせん者

笹村 欽也
(株)東畑建築事務所
執行役員 本社オフィス大阪副代表

学校法人 関西大学 千里山東体育館



公益財団法人 浅香山病院一般科



社会医療法人 愛仁会 レジリエンスだいもつ





きし うえ かず き
岸 上 和 樹

生 年 月 1986年10月香川県生まれ
最終学歴 2011年明治大学大学院
理工学研究科建築学専攻
修了
業務経歴 2011年㈱三菱地所設計入社
現在 関西支店
●担当した主なプロジェクト
2011年 ザ・パークハウス グラン
千鳥ヶ淵
2013年 麻布学園創立120周年記念
体育館建築計画
2013年 新JA熊本県会館建設計画
2014年 大妻女子大学H棟新築工事
他

■青年技術者のことば

建築を設計する際、「環境」と「人」のつながりを大切に設計をしています。

建築はそれぞれ違った、その土地独自の「環境」に建つものです。歴史や気候、周辺とのつながりを含めたその土地独自の「環境」を大事に設計しています。

建物を新しく作ることは周辺に大きな影響を与える事になります。「環境」を大切に建築とすることにより、影響を小さくすることのみではなく、その土地の魅力や価値を最大限に高める建築となる設計を目指していきたいと考えています。

また、建築は「人」とのつながりが不可欠です。施主の思いを建築にしていくことはもちろんのこと、利用者に愛着をもって使われる価値ある建築としていき、さらには地域の人にも歓迎される、様々な「人」とつながる建築にしたいと考えています。

「環境」と「人」に結びついた建築とすることでその土地や人々、そして地域に貢献できる、愛され価値ある建築の設計を行いたいと考えております。これからも設計者として、「環境」と「人」を建築に強く結びつけられるよう、広く知識を深めていき未来に貢献できる価値ある建築を作れるよう、努力を続けていきたいと思ひます。

■すいせん者

山田俊紀
(株)三菱地所設計
関西支店 副支店長

ザ・パークハウス グラン 千鳥ヶ淵



麻布学園創立120周年記念体育館建築計画



新JA熊本県会館建設計画



大妻女子大学H棟新築工事





鬼頭 宏

生年月 1987年9月三重県生まれ
最終学歴 2012年名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻修了
業務経歴 2012年大成建設㈱入社
現在、関西支店設計部
●担当した主なプロジェクト
2013年 ツムラ㈱静岡工場食堂棟
2015年 アース環境サービス㈱ 彩都総合研究所T-CUBE
2016年 シミックファーマサイエンスバイオリサーチセンター
2017年 大成建設㈱関西支店リニューアル
2019年 近畿産業信用組合本店

■青年技術者のことば

「NARCHITECTURE 一本質的な価値のある建築をめざして」

NARCHITECTURE（ネイキテクチャー）とは「NATURE」と「ARCHITECTURE」を掛け合わせて私が考案した造語です。NATUREの語源には「自然、環境」といった意味の他に「本質的、本来あるべき姿」といった意味も含まれています。私は建築（ARCHITECTURE）を単なる建物と捉えるのではなく、本質的な価値を含んだ環境・空間だと捉えておりその実現を目指しています。

18世紀ドイツを代表する作家ゲーテは「市民の要求をかなえる第二の自然こそが良き建築だ。」と記しています。ここで言う自然とは、緑や生態系だけではなく、自然界を形成する原理そのものだと考えます。人間が本質的に求める環境を建築に求めています。ARCHITECTUREというスペルの中にはNATUREのスペルのうち「N」以外の全てが既に含まれています。私は設計においてプロジェクトごとにおける独自のアイデアである「N」をそっと添えてあげることで、ARCHITECTUREをNARCHITECTUREへと昇華し、「本質的な価値のある建築」の創造を目指して日々取り組んでいます。

■すいせん者

平井浩之
大成建設㈱ 関西支店 設計部
設計部長

近畿産業信用組合本店

【都市型高層ZEBの実現／伝統×革新】

本計画は、様々な省エネ技術を導入することでこれまで難しいとされてきた都市型高層建築におけるZEBを実現した最先端の環境建築です。金融機関が密集し大阪のウォール街と呼ばれる北浜には、石張りの重厚なデザインの建物が多く見られます。それらの伝統を引継ぎながらも革新的なイメージを重ね合わせることで全く新しいデザインを目指しました。外装は、石のグリッドフレームにガラススキンを纏わせたダブルスキンとして環境性能も高めています。



アース環境サービス㈱ 彩都総合研究所T-CUBE

【研究者と来訪者の交流を最大化するTWIN-CUBE】

本計画は、高度化・グローバル化する医薬品業界で様々な分野の研究者が交流し、そこで得られた知見を蓄積・応用させ新たなビジネスへと発展させる最先端の研究者交流拠点として位置づけることができます。研究者が利用する「ワーキングキューブ」と来訪者を迎える「ウェルカムキューブ」から構成されます。2つのキューブが交わる空間で両者のイノベティブな交流を最大化することを目指した建築です。



ツムラ㈱静岡工場食堂棟

【一つ屋根の下 大きな家のような食堂】

無機質な工場敷地内で働く従業員の皆様のためにあたたかい食事を提供するアットホームな食堂を計画しました。一枚屋根の下では様々な居場所を発見できます。



シミックファーマサイエンス㈱

バイオリサーチセンター

【森の中の研究所】

小淵沢に位置する森の中の研究所です。ハヶ岳南陵の緩やかな傾斜地になじむように、高さを抑え水平ラインを強調した伸びやかな端正な佇まいとしました。





さが じゅんいち
佐賀 淳一

生 年 月 1983年 6 月富山県生まれ
最終学歴 2008年京都大学大学院
修了
業務経歴 2008年日建設計入社
現在、エンジニアリング部門
監理グループ監理部
●担当した主なプロジェクト
2013年 ダイビル本館
2015年 新ダイビル
2020年 (予定) 京阪神虎ノ門ビル
2024年 (予定) 京都市新庁舎整備

■青年技術者のことば

建築物が立ち上がることがその周辺に与えるインパクトは計り知れないほど大きく、そのことは設計者にとって大きなプレッシャーとなります。一体、この場所においてこの建築のあるべき姿はいかなるものか、悩み始めたらきりがなく、しばしば検討の手を縛られ、立ちすくんでしまいます。歴史ある建物の再生・もしくは建て替えであったり、改修であったりと、これまで非常に強いコンテキストの下でのプロジェクトに携わる機会を多く頂きました。それらの経験で共通していたのは、当たり前ではありますが、「あるべきものが、あるべき姿で、あるべき場所に」ある状態を慎重に模索する作業であったと思います。結果、出来上がるものが設計者の作を超えて、まるで当たり前のようにその場所にある、そういった状態こそを目指して設計を続けていければと思います。そうして立ち上がった建築は、まちの良き資産となり、人々の記憶に根付いて、原風景となっていくものだと思っています。

■すいせん者

高山 眞
(株)日建設計 監理部
ダイレクター



新ダイビル





しば まさ や
柴 崎 雅 也

生 年 月 1984年11月山口県生まれ
最終学歴 京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科建築設計
学専攻修了

業務経歴 2009年(株)東畑建築事務所
入社
現在、同社九州オフィス
設計室主任技師

●担当した主なプロジェクト

2009年 横須賀地方合同庁舎

2010年 警視庁大塚警察署

2012年 ベジフルスタジアム

2015年 唐津港湾合同庁舎

●受賞

第1回すかまち景観デザイン賞
(市長特別賞)

第6回福岡県屋外広告景観賞
(屋外広告景観賞)

■青年技術者のことば

これまで公共施設を中心に多くのプロジェクトに携わってきましたが、建築がまちや人、社会に対していかに貢献できるかということに常に意識して設計を行ってきました。建築のプロジェクトに関わる人々の様々な思いがあります。私は、その思いを受けて関係者と対話を重ね、その対話の中から新しい発想を生み出すこと、そしてそこから設計者が具体的な空間、建築にするという一連の過程が大切だと感じています。人々の思い・新しい発想からつくられた建築は、その場所にふさわしい佇まいと個性を得ると考えます。その場にふさわしい佇まいは、長く人々に愛される建築として、親しみや、まちと人と建築との繋がりを生み出し、その場にふさわしい個性は、新しい価値感や空間の魅力をつくりだします。その両者がともにある、まちと人とつながり、豊かな関係性を育む建築の可能性を信じてこれからも設計を続けていきたいと思っています。

■すいせん者

三迫靖史

(株)東畑建築事務所

九州事務所 常務執行役員所長



ベジフルスタジアム（福岡市中央卸売市場青果卸売市場卸売場西棟）

福岡市内にあった旧青果部3市場を移転・統合し、アジアを視野に入れた九州の青果物流拠点として整備するプロジェクトである。明解で効率的な物流動線と高い品質管理のできる快適な作業環境を実現するとともに、卸売場の大半を定温卸売場として整備し、コールドチェーンの充実を図っている。



唐津港湾合同庁舎

唐津の海の玄関口に建つ、海の安全を見守る港湾合同庁舎の建て替えプロジェクトである。外観は唐津に残る歴史的な建物に倣い、レンガや縦長の窓など素材や形態の要素を取り入れ、唐津の歴史や文化を継承しながら町並みとの調和を図っている。またエントランスホールや軒下空間は地域のイベントなどに活用できるつくりとしている。



しら い しょう た ろう
白井尚太郎

生年月 1983年8月静岡県生まれ
最終学歴 2009年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了

業務経歴 2009年㈱日建設計入社
現在、設計部門アソシエイト

●担当した主なプロジェクト

2012年 関西外国語大学インターナショナルコミュニケーションセンター

2013年 関西外国語大学7号館

2016年 松山大学樋又キャンパス

2018年 関西外国語大学御殿山キャンパス

■青年技術者のことば

今まで担当したプロジェクトを通して、設計者として大切にしてきた思いは2つあります。

1つ目は関係者の存在です。ありがたいことに入社して以来、社内外の皆様に恵まれて現在に至ります。設計チームの皆様には技術的・精神的に多くを教えていただき、助けられながら前に進んでまいりました。今後も、出会う皆様との関係を大切に、共に設計を続けて行きたいです。

2つ目は、インプットと、アウトプットにつくことです。建築設計を続けて行く上で、必要とされる知識量は無限にあり、いまだに理解していないことの多さを自覚しております。これからも継続して知識を吸収し、基礎を固めていきたいです。

建物は求められた用途を超えて様々な社会との接点として役割をもつ、これは私が設計を通して実感したことです。であるならば、建築・空間の設計者としてこれから携わせていただく建物が、「まち」と「ひと」、「モノ」と「コト」、建築と社会とをつなぐ接点として機能し、クライアント、利用者、周辺社会が少しでも良い方向に向かえるものになるように、一つ一つ大切に日々自己研鑽を続けていく所存です。

■すいせん者

小谷陽次郎

㈱日建設計設計部門ディレクター



関西外国語大学御殿山キャンパス



松山大学樋又キャンパス



関西外国語大学インターナショナルコミュニケーションセンター



すえ しげ はや と
末重隼人

生年月 1985年11月大阪府生まれ
最終学歴 2011年大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻建築工学科目修了
業務経歴 2011年㈱昭和設計入社
現在、建築設計部主査
●担当した主なプロジェクト
2012年 春日部市立医療センター
2015年 光市立光総合病院
2017年 順心神戸病院

■青年技術者のことば

私は建築を考える時「最高のスタンダード」をつくるという感覚を大切にしている。

各プロジェクトにおいて建築の解は無限にある。その無限の可能性の中から紡ぎ出した解が普遍性をともなった唯一の解となり、使う人及びその地域にベストな解として調和していくことを願う。そのために大切なのが対話だと考える。建築主だけでなく、すべての関係者とのコミュニケーションやその土地の調査も自然との対話として重要だと思っている。対話のひとつひとつを大切にし、可能性の幅を極限に広げたい。建築化する時にはシンプルに丁寧につくる。これが「最高のスタンダード」のために心掛けてのことである。シンプルを極めた先の普遍的なものこそ建築を使う人、見る人に最も馴染みのいいものになっていく。私は人に寄り添うそんな建築をつくりたい。

これから設計者として、知識や技術だけでなく人としての総合力を高めたい。そのために日々学ぶことを怠らず何事にも素直に向き合い考えたい。

建築が持つ時間を意識し、長きにわたりその価値を発揮できる最高を追い求めていきたい。そこには設計者として未来への責任も感じている。この魅力的でやりがいのある仕事に程よい緊張感を持ち、自分の建築に誇りと責任を持てるよう日々向き合っていきたい。

■すいせん者

森 茂紀
㈱昭和設計 建築設計部 部長



春日部市立医療センター



光市立光総合病院



たき ざわ そう や
滝澤 創也

生 年 月 1983年 9 月新潟県生まれ
最終学歴 東京藝術大学大学院修了
業務経歴 2009年(株)日建設計入社
現在設計部門設計部

●担当した主なプロジェクト

2013年 大阪歯科大学創立100周年
記念館
2017年 履正社学園豊中中学校・
履正社高校
2019年 広島修道大学付属鈴峯女子
中学校・高等学校

■青年技術者のことば

私が設計者として大切にしていることは、人と空間と向き合い「対話」することです。これまでに幾度となく実際に空間を使うユーザーとヒアリングを重ねました。クライアント/ユーザーの想いを最大限に引き出し、そこから展開されるであろうアクティビティを想像し、図面に込めてそれを空間にします。試行錯誤の末に実現出来た喜びは設計者名利に尽きる一方で、対価としてユーザーの経験を豊かなものにするものでなくてはならない、と心に強く感じました。「空間とユーザーのアクティビティを手掛かりとし、人の経験を豊かにする建築」を社会に生み出すこと、それが今までの経験を通して得た私の想いです。

また、技術や知識を追求することの大切さも数々の失敗を通して痛感しました。設計者はエンジニアでもあり、新しい空間を生み出すにも、クライアントを納得させる説明をするにも、安全で機能的な建物を設計するにも徹底した技術や知識が必要です。建築の技術や知識は学び尽くせるものではなく、生涯をかけて取り組む設計者の使命だと思っています。線を引いたものが実社会の中に姿形を現し、自分がいなくなった後も残り続ける建築を設計することは、非常に責任の重い行為だと思う一方で、社会に対して自身の生きた証ともなります。これらの想いを胸に、常に目の前の設計に専心し、「社会に貢献できる自立した設計者」を目指して精進していきたいと思っています。

■すいせん者

勝山太郎
(株)日建設計
設計部門グループマネージャー

広島修道大学付属鈴峯女子中学校・高等学校

撮影：ブライズ 山崎浩治



履正社学園豊中中学校・履正社高校

撮影：ブライズ 山崎浩治





なか むら あつ し
中村 篤 史

生 年 月 1985年2月兵庫県生まれ
最終学歴 2007年関西大学工学部
建築学科卒業
業務経歴 2007年高松建設㈱入社
現在、大阪本店設計本部
課長代理

●担当した主なプロジェクト
2016年 グランジュテビュー岩園
2017年 ㈱池戸製作所本社工場
2017年 悠旅（ホテル）
2019年 静鉄ホテルプレジオ
京都烏丸御池

■青年技術者のことば

設計をする人間として、いつも念頭に置いている事は、いかに建物が親しまれながら年月を重ねられるかという事だ。

一過的なデザインや計画ではなく、人間が本能的に心地良いと感じる空間づくりをする事が出来ないものかと考えている。

例えば100年以上前の茶室や寺社仏閣の縁側など、当時丁寧に作り込まれたであろう空間は、自然との関わり方を丁寧に読み解き、現在でも非常に居心地が良くシンプルで美しい。

私は、各所において、環境との共生を考え、過度ではない小さな居心地の良さを積み重ね、一つの形にすることが基本ではないかと思う。

また、時に建築という行為は料理に近いのではないかと感じることもある。クライアントの要望や、敷地条件、コストなどの材料・条件をいかに整理し、手を加える事で美味しく豊かで健康的な料理にすることができるか。空腹を満たすだけの食事であれば、一口、口に入れただけで幸せな気持ちにさせてくれるようなものもある。同じ食事ではあるが、作り手の知恵や技能によって、違ったものが生み出される。いかに後者の食事を作ることができるかが、我々設計者に託された使命だと思い、今後も設計活動にあたりたい。

■すいせん者

嶋村邦彦
高松建設㈱ 大阪本店
執行役員 設計本部長



株式会社池戸製作所本社工場



悠旅（ホテル）



静鉄ホテルプレジオ京都烏丸御池



の なか ひろ と
野中 広斗

生 年 月 1983年 6 月岩手県生まれ
最終学歴 2008年東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻修了

業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
現在、竹中工務店開発計画本部主任、夢洲開発本部MICE/IR推進室兼務

●担当した主なプロジェクト

2009年～ アリオ倉敷
2011年～ 鈴蘭台駅前市街地再開発事業

2014年～ 大阪ビジネスパーク
エリアリノベーション計画

2015年～ 読売テレビ新社屋新築計画
2016年～ (仮称) 四条西洞院開発計画 (計画中)

2017年～ 元立誠小学校跡地活用事業 (計画中)

■青年技術者のことば

私の所属する開発計画本部は、都市計画や事業計画、用途企画等の専門性を活かし、大規模プロジェクトの構想段階から事業を構築・推進する役割を担っている。この構想段階においては、建築主だけでなく、幅広いステークホルダーへの働きかけにより、プロジェクトのポテンシャルを高めることが重要なミッションである。その中で私は、各プロジェクトと地域の連携を促し、不動産価値と社会的価値の両面でのシナジー効果の最大化を図ることを特に心掛けてきた。各プロジェクトに対しては、敷地固有のポテンシャルの活用を提案することで競合施設との差別化と地域への波及効果の創出を促し、地域のステークホルダーに対しては、プロジェクトへの参画・連携を提案することで地域のメリット創出やプロジェクトの価値創出・事業推進力の強化を促すよう努めてきた。今後も大型プロジェクトと地域の良き仲介役となれる都市開発技術者を目指し、より良いまちづくりに貢献できるよう努力していきたい。

■すいせん者

橋岡佳令

(株)竹中工務店 開発計画本部

西日本 3 グループグループリーダー

アリオ倉敷



大阪ビジネスパーク 道路空間活用社会実験



元立誠小学校跡地活用事業



読売テレビ新社屋新築計画



鈴蘭台駅前市街地再開発事業





はなむら かずや
花村和也

生年月日 1983年9月愛知県生まれ
最終学歴 2009年東北大学大学院
工学研究科都市建築学専攻修了

業務経歴 2009年(株)東畑建築事務所
入社
現在、名古屋オフィス設計室

●担当した主なプロジェクト
2012年 静岡県警察学校本館
2012年 東北大学（青葉山2）総合
研究棟（数学科）改修
2013年 東北大学（川内1）附属図
書館1号館改修
2014年 東北大学（片平）総合研究
棟（多元物質系）改修
現在 土岐市新庁舎
現在 亀山駅周辺2ブロック地区
第一種市街地再開発事業

■青年技術者のことば
「もの」「ひと」「こと」「まち」の四重奏

ものづくりはおもしろい。建築の設計には、単なる「もの」づくりにとどまらないおもしろさがある。立場の異なる様々な人と関わり、対話・協働する「ひと」づくり、建築に込められる機能（ソフト）や価値を新たに生み出す「こと」づくり、建築を介して都市に寄り添う「まち」づくりというように、「もの」「ひと」「こと」「まち」が建築をつくり上げていくプロセスの中で、重層的に関係あい、最終的に空間として具現化していくおもしろさである。

公共建築は、発注者との対話を通して、設計が進められることがほとんどである。設計者は、利用者の想いをどれだけみ取れるだろうか。たとえ公共建築であったとしてもワークショップなどを通じて、利用者の生の声を聞きとり、どんな活動ができるのか利用者とともに考えていくことが大切である。そこで出た将来像を設計者は、具体的なハードに落とし込んでいく。

また、公共建築はまちへの影響力が大きい。地域材や地域の技術を集結させて地元の方々とつくりあげる。そこでしかできない地域と密接した建築の実現。

今後も常に挑戦していきたい。

■すいせん者

瓦田信幸
(株)東畑建築事務所
常務執行役員名古屋オフィス代表

土岐市新庁舎

～次世代へのメッセージとなる庁舎づくり～

今後の土岐市のまちづくりの先導的役割を果たし未来へと受け継がれていくべき持続性のある質実の風景を創出することを追求した計画。



【北側外観】

～地元の材で地元の英知をつかい地元の汗で築きあげた庁舎～

土岐市は、美濃焼の産地である。地域にゆかりのある材料や工場で製作・加工し地域の方々と共に長年培われてきた地場技術を駆使しながら建設した。



～柔軟性・融通性のあるフレキシブルな庁舎～

ユニバーサルレイアウトの採用や木製格子戸による間仕切りやユニット化したカウンターなど機構改革や将来の人口・職員の減少、窓口のあり方の多様化を見据えてフレキシブルな計画を追求した。

【窓口廻り】



【議場】



【窓口カウンター廻り】

亀山駅周辺2ブロック地区第一種市街地再開発事業

～にぎわいを創出するまちづくり～

市立図書館、共同住宅及び商業施設の複合建築物の計画。



【南側外観・おもてなしプラザ】



【図書館一般開架廻り】



【東側外観・交流プラザ】

静岡県警察学校本館

～警察学校の顔としてふさわしい本館～

警察官として必要な能力を効果的・効率的に習得できる施設の計画。



【北側外観】



【講堂】



【玄関ホール】



ひろ せ かず や
広瀬 和也

生年月 1983年10月兵庫県生まれ
最終学歴 2009年大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻修了

業務経歴 2009年(株)東畑建築事務所入社

現在、本社オフィス設計室

●担当した主なプロジェクト

2009年 京都大学宇治地区先端イノベーション拠点施設

2010年 大阪市立大学理系学舎

2012年 愛媛県総合運動公園陸上競技場

2014年 武庫川女子大学学校教育館

2015年 帝塚山学園学園前6号館

2017年 宝塚市立文化芸術施設・庭園

2019年 関東学院横浜都心キャンパス

2019年 多田院の家（個人活動）

●受賞

「第7回日韓中若手建築家ワークショップ」優秀賞

■青年技術者のことば

「何度でも来なくなる風景」

建築が人々の生活の背景となり、人々の生活に長く寄り添う風景をつくりたいと思っています。

コーヒーを買って公園に訪れた際、景色のいい場所に座ろうか芝生で座ろうかとワクワクさせられることがあります。公園のような何度でも来なくなるような取捨選択性のある風景の連続が、豊かで居心地の良い空間を提供するものづくりであると信じています。

模型や3Dによる検証も大切ですが、この空間は面白いと思ってもらえるように関係者と共有できるか、また対話による最適解を導き出していくことが重要なポイントです。これまでも事業主等関係者とのものづくりはもちろんのこと、参加型ワークショップなども行ってきました。皆が全く同じゴールを目指すことは大変に難しいですが、皆で悩んで実現していく建築プロセスほどものづくり冥利に尽きるものはありません。

人々のいきいきとした日常生活、その背景に佇む建築を私たちはいかに提供できるか、これからも一つ一つを大切にものづくりを勤しんでいきたいです。

■すいせん者

笹村 欽也

(株)東畑建築事務所

執行役員 本社オフィス大阪副代表



武庫川女子大学 学校教育館



宝塚市立文化芸術施設・庭園整備事業



(仮称) 関東学院横浜都心キャンパスプロジェクト



ひろ せ りょう た
広瀬 良太

生 年 月 1983年10月埼玉県生まれ
最終学歴 2009年横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA修了
業務経歴 2009年鹿島建設㈱入社
現在、関西支店建築設計部
●担当した主なプロジェクト
2010年 京橋創生館増築工事
2016年 大塚製薬工場鳴門工場守衛所
2019年 K地域 地方創生プロジェクト

■青年技術者のことば

建築をつくることで何ができるのか。私にとってこの問いの先には、「未来」があります。用途規模は様々ですが建築をつくるということは、都市や環境、私たちの生活や社会を少しずつ変える力があると信じているからです。建築単体では点で終わってしまいますが、社会に対して「気づき」を与える建築をつくることで、外部に発信し面的に拡がり未来をつくる。そのような建築を、今後生み出していきたいです。

伝統と革新。私が設計者として、常に意識していることです。設計者にとっての伝統とは「人間性」、革新とは「挑戦」です。建築とは、施主、構造・設備、現場・業者、官公庁関係者など、人とのつながりによって初めて構築され、その関係性の中から建築が生まれます。その関係性を築くのに最も大事なことが人間性であり、設計者としての品格・資質が求められます。また、どのプロジェクトにおいても失敗を恐れずに、勇気を持って何か1つでも新しいことに挑戦する。無限の可能性がある建築という「ものづくり」に携われることを誇りに、そして楽しみながら邁進していきます。

■すいせん者

小松啓一
鹿島建設㈱ 関西支店
建築設計部長



来訪者を導くホワイトスクリーン

■大塚製薬工場鳴門工場 守衛所 (2016)

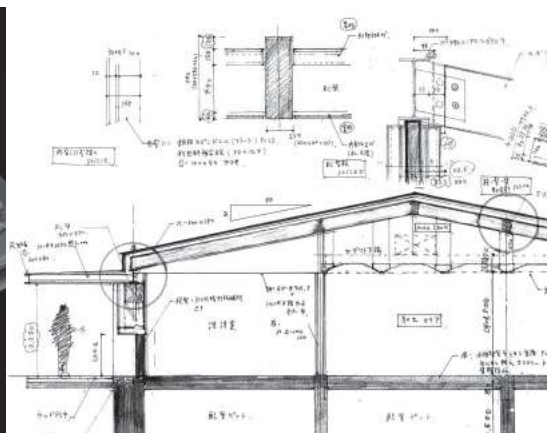
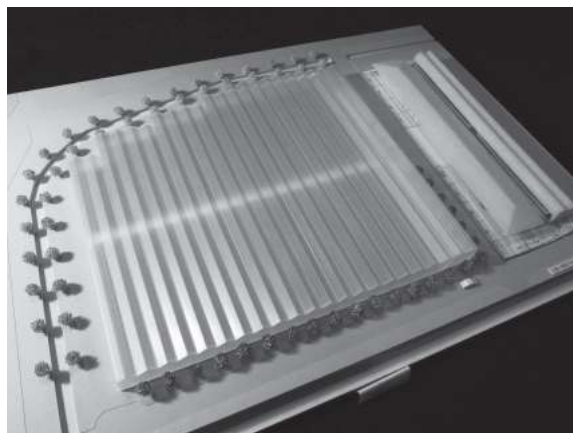
大塚グループ発祥の地である大塚製薬工場鳴門工場の新守衛所計画。緑色に塗られた古い既存工場群がみえる中で、工場の顔である守衛所をいかに計画するかという課題に対し、古い工場群を包み、訪れる人々を導く1枚の白い壁「ホワイトスクリーン」をコンセプトに展開した。高さ3.5mの白いアール壁とアクセントとなる底のみが表出し、事務室や更衣室、工場内の受水槽といった機能は壁の背後に隠した平面構成としている。



交差点のシンボルタワー (2010)

■京橋創生館増築工事

中央通りと鍛冶橋通りが交わる京橋交差点に建つ事務所、店舗、展示場からなる中規模複合ビルである。銀座・日本橋からの視線を受けとめるアイストップとしての役割が求められ、アルミパネルによる外皮を纏ったファサードとした。この外皮は環境負荷の低減だけでなく、上下方向の開閉率に変化をつけており、時間や見る角度により様々な表情を見せる。



農業を核としたまちづくり拠点

■K地域 地方創生プロジェクト (2018~)

「農業・流通・食」を伝える地方創生プロジェクト。農地（水田・畑）の購入や次世代型のビニルハウスの建設等、地域資源と最先端技術を活かしたまちづくりを通じて、100歳時代に向けた多世代が働ける地方の在り方を目指す。その中心となるプラットフォームとして、加工・販売・飲食の6次産業施設を計画。隣接するビニルハウスのモジュールに合わせた80m×13.5mの平屋建の建物は、RC・S、そしてこの地域産の木材による混構造。2020年夏の開業予定。



むら た しん ご
村田 真 悟

生 年 月 1987年4月米国イリノイ州生まれ
最終学歴 2014年京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了
業務経歴 2014年㈱大林組入社
現在、本社プロジェクト設計部主任
●担当した主なプロジェクト
2016年 A社研究施設
2017年 Iビルディング
2018年 TS社研究・試験施設
2019年 伏見ミリオン座

■青年技術者のことば

建築は、多くの人の共感を得ることが最も大切である。建築をつくることは、常に多くの要件やハードルが複雑に絡まりあう。それらを乗り越えるには、建築主、設計者、施工者、と様々な関係者が共感しあい、ひとつになることが不可欠である。共感を得てひとつになるためには、設計者として真摯かつ丁寧、そして素直に向き合う姿勢や、魅力的な人間性も重要であり、多様な与件を手がかりにわかりやすいテーマやコンセプトを掲げる必要がある。わかりやすいテーマやコンセプトによって共感しあい、ひとつになることで全ての関係者が当事者となり、自らの言葉と想いが詰まった建築が生まれると考えている。そうして生まれた建築は、多くの個人にとっての思い出となり、唯一無二の場所となる。

これまで、そしてこれから私が携わる建築が、関係者と共感しあいながらつくられ、都市に共感され、徐々に共感される領域を広げていくことで長くそこにあり続け、より多くの人びとの記憶の一頁になるような建築となることを願っている。

■すいせん者

近井 務
(株)大林組 名古屋支店
統括部長



伏見ミリオン座



Iビルディング



やなぎさわ たかし
柳澤 隆

生年月 1983年10月北海道生まれ
最終学歴 2009年法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士
業務経歴 2009年㈱竹中工務店入社
現在、名古屋支店設計部
●担当した主なプロジェクト
2011年 ココチホテル
2012年 ナゴヤドーム オープンデッキ
2012年 デンソー本社本館 役員エリア
2014年 熊野油脂本社ビル
2014年 瀬戸信用金庫中村支店
2015年 カトリック名古屋教区司教館
2016年 デンソー本社本館 役員室
2017年 朝霧カントリークラブ クラブハウス
2017年 名古屋プリンスホテルスカイタワー
2018年 豊田自動織機シャインズ三河湾
2019年 豊田自動織機シャインズ刈谷 中華某迎賓館

■青年技術者のことば

「建築は“機能と体験を備えた”唯一のアート」という考えを学生の頃から常に持ち続けています。私は大学で建築設計を学んできました。建築設計を学んできたからこそ、インテリアがより直接的に自身の考えを表現できると判断しインテリア設計の職を選択しました。実務を通じて、この考えに一本分岐した考えが現れています。それは「建築は“多大な条件により生まれる”唯一のアート」です。条件を持った箱の最適な仕上げ方、条件としてすでに存在するモノたちが一番喜ぶ手法を考えることが最も大切なことだと実感しています。空箱には良くも悪くも必ず特徴が潜んでおり、設計者はその箱の潜在的な力を初期の段階で見つけられるかどうかが大切であると考えます。例えば名古屋プリンスホテルの場合の潜在力は、30Mの吹抜けと一体となった客室廊下でした。大面積のガラス面を、廊下側と吹抜け側の双方から成立するデザインとし、さらに表情が時間軸で変化するという空間を創りました。この箱の潜在的な力である圧倒的な気積と内外・表裏で成立させるべきガラス面を最大限に尊重したデザインとしています。

インテリアの印象は利用者の感情に強く影響すると信じています。記憶に残り、感動としての体験を与えられるような建築をこれからも社会に残し続けていきたいと思っています。表面的な美しさよりもさらに深い位置での思考、試み、設計を行い、潜在的な力を見逃さないよう創作活動に励む所存です。

■すいせん者

市川健二
㈱竹中工務店 名古屋支店 設計部長



名古屋プリンスホテル スカイタワー



某迎賓館



朝霧カントリークラブ クラブハウス



やま ぐち よし たか
山口 佳孝

生年月 1983年6月愛知県生まれ
最終学歴 2008年大阪大学大学院
工学研究科建築工学科
業務経歴 2008年(株)安井建築設計事務所入社。現在、大阪事務所設計部主任

●担当した主なプロジェクト

2009年 伊丹産業(株) 三田工場
2010年 奈良警察署整備工事
2012年 某戸建住宅新築工事
2013年 伊丹産業(株) 京都工場
伊丹産業(株) ボルボ・カー神戸
2014年 大阪国際空港TB再整備

■青年技術者のことば

「使われることでつくられる建築」建築は多くの関係者によりつくられるが、利用者に使われることで真の完成を迎え、さらにその使われ方により変化し、成長していくべきものと考えている。その変化をいかに許容できるかが建物の奥深さにつながるのではない。2018年に先行オープンし、現在も改修工事が進む大阪国際空港ターミナルビルは空港機能、ホテル、商業施設等からなる複合施設であり、様々な利用者の意思・動きが組み合わされてダイナミックな空港の表情をつくりだしている。その動きを重要な要素として積極的に設計に取り込むことで、人々のアクティビティに応じて変化し続ける空港の表情を建築的に表現するよう意図して設計を行った。しかし当然使われ方も一定ではない。想定外の使われ方や、インフラや社会情勢の変化・用途変更など。建築には、それらの想定できない変化に対してもフレキシブルに対応し、許容できる柔軟性が求められる。そのためには、漠然とした表現ではあるが、「空間のおおらかさ」を丁寧にデザインすることが一つの鍵となるのではないかと考えている。少々想定外の使われ方など軽く乗り越えてしまう懐の深さを備え、利用者に愛され長く使い尽くされる「おおらかな建築」をつくることを目指して、日々研鑽に励んでいきたい。

■すいせん者

小林直紀
(株)安井建築設計事務所 執行役員
大阪事務所副所長兼設計部長

大阪国際空港ターミナルビル再整備



ボルボ・カー神戸





よし だ ゆう すけ
吉田 悠佑

生 年 月 1983年7月京都府生まれ
最終学歴 2009年立命館大学大学院
理工学研究科創造理工学
専攻修了

業務経歴 2009年㈱大林組入社
現在、大阪本店建築事業部
建築設計部副課長

●担当した主なプロジェクト

2012年 神宮会館講堂棟
2015年 日本合成化学工業先端研究棟
2016年 GSユアサ草津事業所
2017年 大阪ソーダ総合研究開発セ
ンター
2020年 GSユアサ京都事業所厚生棟
(予定)
2020年 ホソカワミクロン新大阪工場
(予定)

■青年技術者のことば

建築は、風土や環境と調和した社
会資産としての価値と人々が心地
よく感じるデザインの双方を備え
なければなりません。

設計する際、クライアントとの対
話やリサーチを通して、建築や空
間の使われ方、周辺環境との関係
性を大切にしています。

これまで公共性の高い建築のみな
らず工場や研究所など、建物内に
入れる生産設備や実験機器を稼働
させる為に必要な機能・性能に対
して設計が必要とされる建築に携
わる機会が幾つかありました。要
求された機能・性能を満足させる
だけの建物を「造る」のではなく、
日々そこを使う人々が活気や
魅力を感じ、環境とつながる心地
よい空間を想像して建物を「創
る」ことに努めてきました。

幸いにも担当したプロジェクトに
おいて、自分が思い描いた空間、
自分が創り込んだ建物が活き活き
と使われている情景を見ることが
出来ました。そのような豊かな体
験を数多く実現できるように、今
後も建築と真摯に向き合い、デ
ィテールまでの各部位一つ一つを
丁寧に創り込みたいと思います。建
築や空間を使う人々、建つ街に喜
ばれ愛されるような、「人や街の
豊かさに寄与できる建築」をこれ
からも目指します。

■すいせん者

児玉克史

(株)大林組 大阪本店 建築事業部
建築設計部 部長

神宮会館講堂棟 —神宮にふさわしい「和」をデザインモチーフとした講堂棟—



大阪ソーダ総合研究開発センター —中庭を核とした立体的な交流の仕掛け—



GSユアサ草津事業所 —最先端の電池の開発・製造を担う新拠点—





よし もと いつ き
吉本 一規

生年月 1984年1月兵庫県生まれ
最終学歴 2008年大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻修了

業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
現在、大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト

2011年 TOTO滋賀工場新西棟
2012年 遠藤照明テクニカルセンター
2014年 ダイキン オー・ド・シエル蓼科セミナーハウス
2015年 大塚倉庫西日本ロジスティクスセンター
2018年 某社医薬品工場

■青年技術者のことば

「異なる価値観・意見があった時、妥協して間を見つけるのではなく、それらを統合した概念や提案を模索せよ」—学生の頃、あるワークショップで言われた言葉が、仕事をしていると、よく頭を過ります。

これまで担当した工場や物流倉庫は、一般的にはデザイン要素の少ない建物だと思われがちですが、実はデザイン要素にあふれたビルディングタイプだと感じます。お客様＝ユーザーだからこそ、それぞれの思想・哲学の裏に、普通は見つけれない本質的なニーズや、建築から発掘すべき新しい価値が隠されています。それらを、技術をマッチアップさせカタチにしていくことが、こういう建築の本質的なデザインだと感じています。表面は機能重視で、建築的な要素は最小限でまとめるからこそ、中身の本質的なデザイン＝美しさが表出してくるはずなのです。入社して10年、運よく多くの、そして様々なプロジェクトに関わることができました。建築・構造・設備・施工・そして“機能”。プロジェクトに関わるあらゆる要素を“止揚”させ、これからも、美しく、そしてお客様や社会に新しい価値をもたらす建築を創っていききたいと思います。

■すいせん者

小幡剛也
㈱竹中工務店 大阪本店
設計部 第3設計部門長



大塚倉庫西日本ロジスティクスセンター



遠藤照明テクニカルセンター





よ だ なお き
余 田 尚 紀

生 年 月 1985年10月生まれ
最終学歴 2010年立命館大学大学院
理工学研究科創造理工学
専攻修了
業務経歴 2010年㈱大林組入社
現在、大阪本店建築事業部
建築設計部主任
●担当した主なプロジェクト
2015年 イワタニ水素ステーション
関西国際空港
2016年 イワタニ水素ステーション
森之宮
イワタニ水素ステーション
住之江
2017年 ㈱ダイセル iCube
イワタニ水素ステーション
FCフォークリフト
2019年 イワタニ水素ステーション
伊丹空港
2022年 大阪第6地方合同庁舎 竣
工予定
*共同設計：㈱日本設計

●受賞歴

㈱ダイセル iCube
・第30回日経ニューオフィス賞/
近畿ニューオフィス推進賞
・第11回姫路市都市景観賞/
都市景観賞特別賞

■青年技術者のことば

「対話」で創りこむ建築
私は設計において、「対話」する
ことを大切にしている。
対話には大きく3つあると考えて
いる。1つ目は人（建築主やプ
ロジェクトに係る人々）との「対
話」、2つ目はコンテキストとの
「対話」、3つ目は素材（スケッ
チ、図面、マテリアル、ディテ
ールなど）との「対話」である。
人との「対話」では、プロジェ
クトに関わる人の「想い」を汲み
取り、本質を見出し、共有を図
る。コンテキストとの「対話」で
は、「歴史性」、「ポテンシャル」
などを引き出し、人や社会との繋
がりを探る。素材との「対話」で
は、人やコンテキストなどとの
「対話」により導きだしたコンセ
プト・建築構成が内外空間の細
部まで具現化できるようにマテ
リアル・ディテールとの「対話」も
重ねて、様々な角度から検討し、
図面に織り込む。
これらの「対話」を通して、重ね
合わせて創りこむ建築は、そのプ
ロジェクトでしか成しえない固有
の建築になると考えている。
プロジェクトに関わる人の想い、
コンテキストなどを建築として代
弁できる設計は、遣り甲斐を感じる
反面、重責を担うが、「対話」で
創りこむ建築は、その場所に根付
き、人や社会と繋がる建築となり、
輝きを放ち続けると信じている。

■すいせん者

東井嘉信
㈱大林組 大阪本店 建築事業部
建築設計部 部長



外観



2階吹抜け



コミュニケーションステップ



カフェテリア

イワタニ水素ステーション 関西国際空港



外観



ディスペンサー廻り



アプローチ部



イベントスペース

大阪第6地方合同庁舎



外観



エントランスホール



エコテラス



わた なべ ゆう すけ
渡 邊 有 祐

生 年 月 1983年6月長野県生まれ
最終学歴 2009年日本大学大学院
理工学研究科建築学専攻
修了

業務経歴 2009年(株)東畑建築事務所
入社
現在、本社オフィス東京
設計室 主任技師

●担当した主なプロジェクト

2012年 堺市人権ふれあいセンター

2013年 上京区総合庁舎

2014年～ 明石駅前南地区第一種

2017年 市街地再開発事業

2015年 エクセディ伊賀上野事業所

2016年～ 堺市原池公園野球場

2019年

■青年技術者のことは

公共施設から民間施設まで、用途も様々ですが、これまで多くのプロジェクトに携わってきました。建築（建物）はその建築（建物）のみで完結するのではなく、都市（社会）に対して、または利用者、はたまた私が設計した建物を通りすがった街行く人々に何が提案できて、何が具現化できるのかを追及してきたと思っています。

建設地へ訪れた際、その場所にあった歴史や文化といったものを大事にしたいと思っています。今まで慣れ親しまれていたものが新しく生まれ変わる際、何か今まで蓄積されていたものに新しい息吹を与え、違うかたちで次世代へ継承できないかと思っています。デザインひとつとっても、一過性の時流に沿った意匠ではなく、将来にわたって利用者や街行く人々に親しまれる永続性のある普遍的なものを提案していくことで、建築の価値を高め、都市（社会）に対して貢献できると思っています。今後、人口減少や超高齢化社会に向けて「陰」のイメージが強い日本社会ですが、TOKYO2020や万博といった明るいニュースも多々あります。その都度、古い概念に囚われず、新たな可能性を模索し、50年後のあるべく姿を思い描きながら、設計を心掛けたいと思います。今回、青年技術者選考資料を作成するにあたり、過去の私とも向き合うことができました。また、当時の施主（担当者）の笑顔も沢山思い出ことができました。これからも沢山の笑顔を増やせるよう、日々研鑽に励みたいと思います。

■すいせん者

阿蘇品尚士

(株)東畑建築事務所

執行役員 本社オフィス 東京代表

明石駅前南地区第一種市街地再開発事業（施設棟）



2階公共広場全景



明石駅前広場より公共広場入口を望む



施設棟屋上を望む

上京区総合庁舎



前面通りより、庁舎全景を望む



エントランス階段

エクセディ伊賀上野事業所



エントランスホール



建物全景を望む



かわい しょうた ろう
河井 翔太郎

生年月 1986年1月大阪府生まれ
最終学歴 大阪大学大学院工学研究
科地球総合工学専攻
業務経歴 2011年㈱鴻池組入社
2011年～本社設計本部
●担当した主なプロジェクト
2011年 JR高槻駅前集合住宅
2012年 鶴見6丁目マンション計画
2014年 武蔵浦和駅第1街区B3-1
2014年 京都造形芸術大学創々館
2015年 ユニバーサルシティ駅前PJ
2015年 日本福祉大学美浜キャンパス
スポーツ科学部棟
2017年 御堂筋北久宝寺町4丁目
2018年 大阪市中央区谷町2丁目PRJ

■青年技術者のことば

私は、構造設計において流れを読み取る力が大事だと考えている。地球上の重力と稀に発生する水平力に対して、建物全体の構造的なバランスを考えながら、部材に力を割り当てて地盤へ流していく。さらに、建築主、意匠設計、設備設計との対話の中で創造性を膨らませていき、工夫を重ねていく。柱位置や梁成が人の流れや空間に影響を与えることも意識しなければいけない。これらは設計者としての感性が試される。近年の解析技術の発達により、構造計算は比較的簡便になってきているが、それはあくまで構造計算であって構造設計ではない。たとえば、応力図や変形状が想定通りかを常に意識し、不適切な結果に対しては手計算により確認する。この繰返しが感性を磨き、より良い空間を創出する。構造設計職に就いて8年が経過した。1995年、小学3年生の時に父親と見た阪神大震災後の長田地区が昨日のように思い出される。あのような惨事を防ぎたい思いでこの道を選んだ。この思いが根底にあるからこそ、防災に対する意識は強い。これまで様々な用途の建物に携わり、経験と感性を磨いてきた。これからも技術者として力を蓄えていくことはもちろん、その技術をどのように社会の防災に繋げていけるかを考えていきたい。

■すいせん者

神澤宏明
(株)鴻池組 本社 設計本部
建築設計第1部長

引抜力を抑制した塔状比5.5の超高層免震集合住宅の設計

1. 建築概要

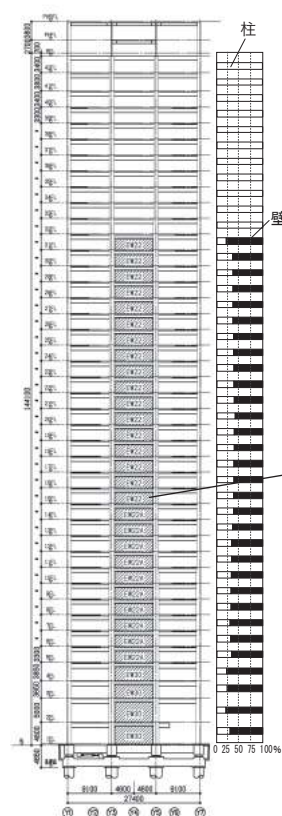
本建物は、大阪市内に計画された地上42階建ての店舗付集合住宅で、一辺27.4m×27.7m、建物高さ151.05mのスレンダーな建物である。建物の中央西側に立体駐車場を内蔵し、31階まで吹き抜けとなっている。

2. 構造計画

上部構造はRC造（一部鉄骨造）とし、架構形式はX方向に純ラーメン架構、Y方向に1～32階まで連層耐震壁を有する耐震壁付きラーメン架構とした。



■外観パース



■軸組図と水平力分担率

大地震への安全性を高めるために、基礎免震構造を採用している。免震層は、内周部に低摩擦系と中摩擦系の弾性すべり支承、外周部に高減衰ゴム系積層ゴム、減衰材にオイルダンパーで構成した。

すべり支承は、低摩擦系弾性すべり支承を基本としたが、風荷重が地震荷重に匹敵するほど大きくなる超高層免震建物に対して、中摩擦系の弾性すべり支承を用いて風荷重に対しても配慮した。

基礎構造は、当初基礎梁で計画していたが、マットスラブとすることで、基礎を浅くでき、仮設工事費抑制や工期短縮に貢献した。

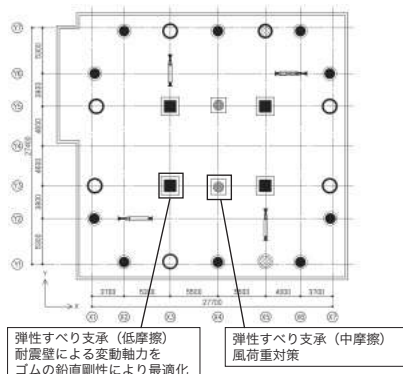
3. 課題と解決策

塔状比が大きい本建物は、大地震時、免震装置に引抜耐力を上回る引抜力が生じていた。その力を抑制するために、以下の工夫を行った。

3.1 連層耐震壁の採用

中央コア部Y方向に2枚の耐震壁を入れることで、耐震壁フレームの剛性を向上させ、地震力を積極的に負担させた。各階（1～32階）の地震力の61～80%を壁で負担しており、耐震壁の有用性を確認した。各階の水平力分担率を軸組図の右横に示す。耐震壁設置により、Y方向にしか剛性を持たない柱4本を無くすることで、免震装置に軸力を集中し、長周期化を図った。

弾性すべり支承				高減衰ゴム系積層ゴム			
形状	径	摩擦係数	ゴム厚	形状	径	種別	
□1400		0.014	低摩擦	○φ1400		X4R	
●φ1200		0.081	中摩擦	○φ1300		X4R	
				●φ1200		X4R	



弾性すべり支承（低摩擦）
耐震壁による変動軸力を
ゴムの鉛直剛性により最適化

弾性すべり支承（中摩擦）
風荷重対策

連層耐震壁（1～32階）

柱4本無くすることで免震層を長周期化

免震伏図、基準階伏図

免震伏図、基準階伏図

免震伏図、基準階伏図

免震伏図、基準階伏図

免震伏図、基準階伏図

それに伴い、大地震時（500mm変形時）の固有周期がX方向で17%、Y方向は10%上昇したため、上町断層帯地震時に隅角部に発生が予想される引抜力を抑制した。

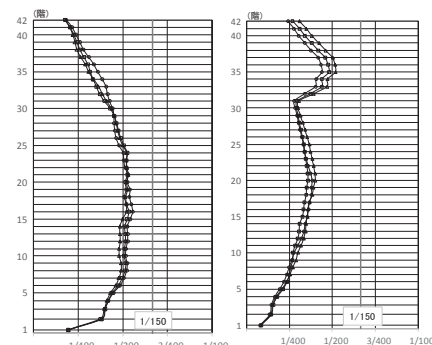
3.2 耐震壁の回転剛性を最適化

弾性すべり支承は、引抜耐力を全く期待できない。連層耐震壁直下の免震装置には、耐震壁架構の転倒モーメントによる変動軸力を抑制する必要がある。本物件では、建物の曲げ変形による耐震壁の負担率低下と変動軸力とのバランスを鑑みて32階までの設置に留めたが、それだけではすべり支承への引抜きを抑制することができなかった。この問題に対して、弾性すべり支承のゴム厚が厚いタイプを採用することで壁の回転剛性を最適化し、耐震壁の水平力分担率を低下させずに変動軸力を抑える計画とした。静的解析のY方向加力時に約8%変動軸力が低下したことがわかり、すべり支承にも引抜きが生じないことを確認した。

■固有周期の変化（秒）

柱本数	基礎固定	250mm	500mm
28本		変形時	変形時
X	4.10	6.06	6.56
Y	4.22	6.13	6.88

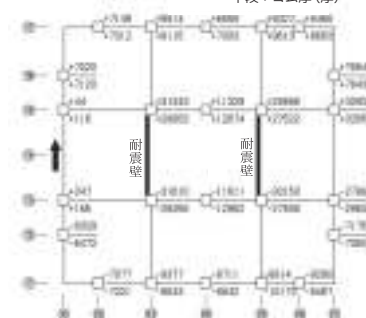
柱本数	基礎固定	250mm	500mm
24本		変形時	変形時
X	4.65	6.55	7.68
Y	4.39	6.37	7.53



■層間変形角（上町断層帯地震3A）

（左：ラーメン方向、右：耐震壁方向）

図中の数字は kN を示す
上段：ゴム厚（薄）
下段：ゴム厚（厚）



■支点反力図



さ き じゅんいち
佐々木 淳一

生年月 1985年2月広島県生まれ
最終学歴 2009年神戸大学大学院
工学研究科 建築学専攻
修士課程修了

業務経歴 2009年㈱竹中工務店入社
2011年～大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト

2011年 関西国際空港第2ターミナルビル
2012年 京都ハトヤホテル
2013年 日亜化学工業新K-1棟
セントラルスクエア森ノ宮
アーチ高槻ビル
2014年 日亜化学工業諏訪技術センター
2015年 某社医薬品工場
2016年 大鵬薬品工業北島工場
厚生・事務棟
2017年 京都スタジアム
2018年 某社大型物流倉庫

■青年技術者のことば

建築物の設計において構造技術者に求められることは、建物の安全性、経済性の追求が第一である。それに加えて、良い建築物を実現する為には、他職能の職域まで踏み込み、プランやデザイン、施工性についても、構造技術者ならではのアイデアを謙虚に提案していくことが大切であると考えている。

宮大工になりたいと思い、私は建築の道を志した。宮大工は自ら木の組み方を考え、それを実際に形にしていく。そこには意匠・構造・施工の職能の隔たりはない。今は構造技術者の道を歩んでいるが、構造の専門的な技術力の向上、建築全体の知識・技術の会得だけではなく、技術者として他分野へも幅広く興味を持ち、多種多様な技術や情報に触れ続けることが求められていると考える。そうして初めて、建築主、設計者、施工者、その他多くの関係者との対話ができ、建築主の求める良い建築物の実現に繋がると考える。

構造設計の実務に携わって8年、周囲の方々の多大なご協力を得て成長させて頂き、何とかやってこれた。今後も技術に対して謙虚な姿勢で挑み、人の命に係わる仕事という意識を常に念頭に置いて、良い建築物の設計を行っていきたい。

■すいせん者

上田博之
㈱竹中工務店 大阪本店
設計部構造部長

ダイナミックに浮遊する開放的な執務スペースを実現する架構の設計 ～日亜化学工業諏訪技術センター～

1. 建築概要

諏訪湖を一望できる魅力的な執務空間を有する技術センターである。開放的な執務室を構造躯体で構築した人工大地で浮遊させることで、周囲の豊かな自然環境を室内に取り入れると同時に、先進的な企業イメージをアピールできる外観デザインとしている。(図1・写真1)

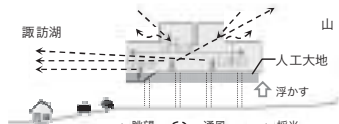


図1 コンセプト図

2. 構造設計概要

建物のメイン機能である執務スペースを2階に集約して開放的な空間とする建築計画に合わせて、適材適所に構造種別を組み合わせた。下部躯体はRC造、上部躯体はS造とし、RC躯体には部位やスパンによってPCa造、PCaPC造を組合せた。(図2) B1階および1階は最小限の建築用途として東西2つのコアで構成している。各コアはそれぞれ8本のPCaRC柱とPCaPC大梁による純ラーメン構造とすることで、構造部材数も最小限とし、フレキシビリティと耐力・剛性を同時に確保した。PCa柱、PCaPC梁の採用により、積雪や労務職不足の影響も最小限とする計画とした。2階S造部分はブレース付きラーメン構造とすることで、部材断面の最小化と軽量化により下部躯体の負担荷重低減を図っている。

3. 人工大地の構築

執務スペースを支える人工大地は東西のRCコアとロングスパンS梁で構築した。建物長手方向の柱スパンは、執務スペースの柱配置や人工大地に生じる応力状態を考慮して、コア部分を16m、コア間を28.8mとし、柱本数を最小限とした。コア部分の16mスパンはPCaPC梁を採用することで梁成を最小化した。PCaPC梁はコアから両側に跳出しており最長21.4mであるが、3分割したPCa部材をPC緊張時に圧着することで、全てPCa化できる計画とした。PC緊張時はPCa柱と梁の縁を切り、PC緊張後に柱梁をグラウトで一体化することで、PC緊張による不静定応力の影響を受けない施工手順を考案した。コア間の28.8mスパンはPCaPC梁の跳出し梁とS梁を組合せたゲルバー梁とし、ラーメン架構の長期応力をバランスさせた。(図3)

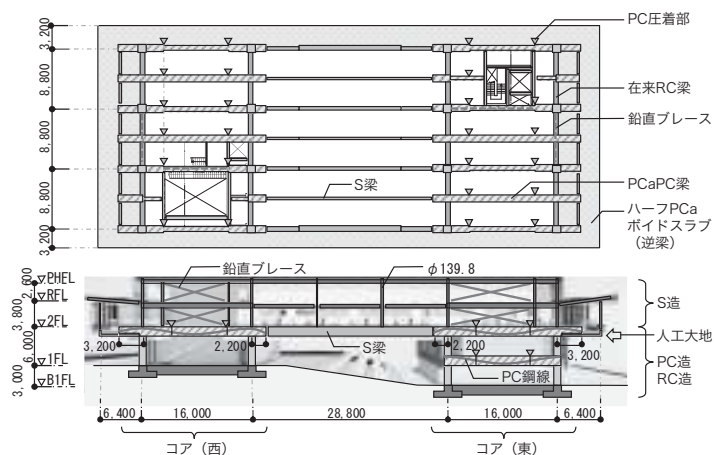


図2 架構計画

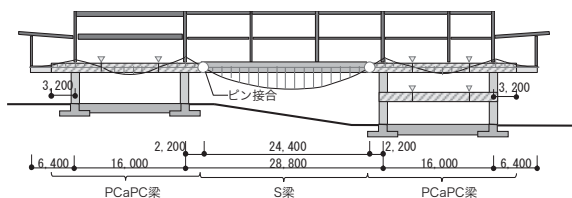


図3 長期応力図と架構計画図



写真1 建物全景

ロングスパン端部のPCaPC梁の剛性により執務スペースの居住性を向上させつつ、S梁で軽量化を図った。2階外周部は全てハーフPCaボイドスラブによる跳出し構造とし、東西面はPCaPC梁とスラブを逆梁として組み合わせることで、6.4mの跳出し構造を実現した。(写真2)

4. 開放的な執務スペース

開放的な執務スペースを実現する為に、可能な限り柱が目立たない計画とした。水平ブレースで屋根面水平剛性を確保し、下部コア位置に合わせて壁内に配置した鉛直ブレースに水平力を集約することで、執務スペースの柱径をφ139.8mmに統一している。(写真3) 外周部の屋根を支持する間柱は、サッシュの見付け幅に合わせたFB-70×100として存在感を消し、諏訪湖の眺望を最大限に執務スペースに取り入れられる架構計画とした。



写真2 6.4m跳出し見上げ



写真3 執務室内観



しょうの かず し
正野和司

生年月 1983年10月福岡県生まれ
最終学歴 鹿児島大学大学院理工学
研究科建築学専攻
業務経歴 2008年㈱安井建築設計事
務所入社
現在、大阪事務所構造部
主任

●担当した主なプロジェクト
◎国際医療福祉大学 三田病院
◎国立科学博物館 自然史標本棟
・西武鉄道 西武立川駅
・相生会 福岡みらい病院
◎山辺広域行政事務組合天理消防署
・九州セキスイハイム工業 新工場
・大阪ガーデンパレス (耐震補強)
・淡路佐野運動公園 屋内練習場
・久光製薬ミュージアム
・那覇空港国際線TB増築 (施工中)
※○印付きは免震構造建物

■青年技術者のことば

構造設計者として自信をもつことは大切なことだが、「戒慎」つまり「調子に乗らない」「驕らない」精神も重要である。その心を失うと、自分の価値観に閉ざされてしまい、新たな発想や柔軟な考えを生み出せない状況に陥るからだ。建築に合理性や経済性が最優先で求められる中で、いかに構造安全性や構造デザインを見出せるかがカギであり、それは各プロジェクトへのモチベーションへ繋がる。そのカギが、結果的に良い建物の竣工へつながると感じている。この程、上司らの「失敗に学ぶ構造設計学」を聞くことができた。構造設計は過去の経験が活かせることを実感した。

あるプロジェクトでは、壁バランスやガラスの納まりなど、要となる点を押さえて構造計画まとめた。また、応力や変形状を感覚的に把握できるシンプルなものとして捉えようと努めた。結果的によくできたと感じているが、将来何が起るかわからない。今後も初心に戻る気持ちで各プロジェクトに取り組み、成長を続けていきたい。

■すいせん者

山浦晋弘
(株)安井建築設計事務所
理事 大阪事務所構造部長

キューブユニット面で構成する構造 久光製薬ミュージアム

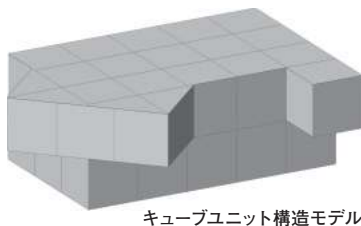


1. 建物概要

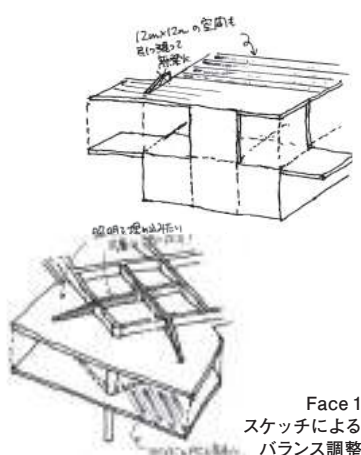
本建物は、創業170周年を記念して久光製薬の歴史や経営理念を未来へ継承することを目的として計画された。意匠コンセプトは、ガラスの箱が飛び出す浮遊感と御影石の外壁による重厚感の対比である。基本デザインには、イタリア人彫刻家のチェッコ・ボナノッテ氏が携わっており、彼のイメージした「彫刻」に居住性・機能性を与えた建築とすることが前提条件であった。

2. 構造計画概要

チェッコ氏の初期イメージを見た際、立方体の集合体であるキューブユニットを思い浮かべた。基本グリッドも4m×4mで構成したため、建物全体にユニットをあてはめ、それぞれの面 (Face) をどのような要素に構成していくかをコンセプトとして構造計画を進めた。展示施設という特性上、壁は十分に確保できたため、構造種別をRC造と定めたあとは、壁・床スラブ・ガラスなどの各面の構成要素について詳細を詰めていった。



キューブユニット構造モデル



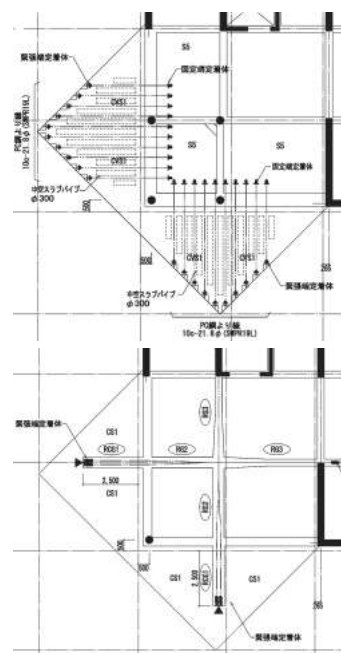
Face 1
スケッチによる
バランス調整

Face 1 壁

当初のプランは壁が偏在したバランスの悪い計画となっていた。打ち合わせを重ね、壁の配置や開口部位置の調整を行い、チェッコ氏の同意を得ながら平面計画をまとめていった。立面バランスも同様で、無理のない壁配置へ調整した。壁厚は300mmで統一し、耐震要素としての確保はもちろんのこと、PC鋼線端部の定着具を納める余地を確保した。構造計算ルート1ではあるが、跳ね出しの多い重量バランスが重要な建物であることを考慮して、剛性率、偏心率はおさえようと決めていた。

Face 2 床

特徴は、最大4.5m跳ね出しを持つ多目的ギャラリーと12m×12mの展示ルームである。多目的ギャラリーでは、2階とR階で片持ちスラブの支持方法を変えている。2階床は、下面が屋外に面するため梁型を出さないよう450mm厚のアンボンドPCスラブとした。また鋼線間には、中空ボイドを配置し、躯体軽量化を図った。



Face 2 2階・R階床伏図

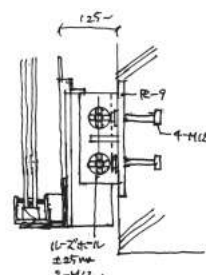
R階については、設備類を配しない直天井にして、スラブに直接照明を埋め込んだフラットな屋内面を要求された。PC鋼線やボイドと照明設備との干渉が懸念されたため、スラブ自体は250mm厚の在来スラブとし、逆梁形式で屋上部にPRC梁を設けて支持した。その逆梁もできるだけ周囲から見えないよう、可能な限りセットバックさせている。

Face 3 ガラス

窓面は、全面嵌め殺し窓とするため、スラブのたわみや変形差がガラスに与える悪影響の回避が課題であった。そのため、計画の初期段階からガラスメーカーと打ち合わせを重ねた。多目的ギャラリーの跳ね出し部では上下のスラブ間のみでガラスの支持部材を留めている。ここでは、FEM要素によりスラブのたわみ・変形量を把握し、サッシ部のクリアランスを精緻に決めていった。また、ガラスの支持部材と躯体とは、ルーズホールによるボルト接合とすることで十分な逃げを用意した。その効果は、数年～数十年と時間を経てあらためて実感できるだろう。

3. おわりに

壁・床・ガラス、これらの要素を組み合わせ、キューブを積み重ね、構成していくことでこの建物は完成した。建築主、施工者との協働で、チェッコ氏のイメージを具現化することができ、庭園と自然が眺望できる開放的な空間を実現した。屋上には太陽光発電を設置し、Low-eガラスやBEMSを採用するなど、佐賀県初のZEB (ゼロエネルギービル) 認証を取得した。前述のガラスの支持部の今後とあわせ、未永く見守りたい建物となった。



Face 3 ガラスサッシ部詳細



なか しま たく 拓

生 年 月 1986年6月3重県生まれ
最終学歴 京都大学大学院 建築学専攻
業務経歴 2011年(株)大林組入社
2012年大阪本店構造設計部
2014年本社構造設計部
2016年大阪本店構造設計部

●担当した主なプロジェクト
・淡路町3丁目マンション計画
・吹田市青葉丘南マンション計画
・北区同心地点計画
・北九州空港格納庫新築工事
・印西2データセンター新築工事
・ディスコ九州支店新築工事

■青年技術者のことば

建築の設計に携わるようになって以来、構造設計者として常に「問い」を持つことを大切にしています。「問い」を持つことは、慎重な判断に繋がります。構造設計は様々な外力により部材に生じる応力・変形を把握し必要な剛性・強度や靱性を確保することが求められます。想定する条件が適切か、剛床仮定や平面保持仮定等の計算仮定が成立するか、確認しながら注意深く設計する必要があります。また「問い」を持つことで、技術に対する理解を深めていきたいとも考えています。科学技術は日々進歩を続けており、建築技術も同様であると感じます。社内での意見交換にとどまることなく、学会や社外委員会を通して新しい技術の理解・習得に励み続けなければならないと考えています。さらに「問い」をもつことで、新しいアイデアへのチャレンジに繋がります。先人の優れた設計から多くを学ぶことは重要ですが、それにとらわれることなく、理論に基づいて柔軟に思考するよう心掛けています。「問い」から得られた確かな技術的根拠に基づいて、自由な発想で空間をデザインできる構造設計者を理想として、今後も日々研鑽していきます。

■すいせん者

大住和正
(株)大林組 大阪本店 建築事業部
構造設計部 部長

木造屋根を浮遊させた混合構造免震オフィスの構造設計と極大地震対応

●建築計画

本建物は、精密機械メーカーの営業・サービス拠点で、市街地のオフィスビルから自然豊かな郊外への移転事業として計画された。二つの片流れ大屋根を雁行させてつなげた2階建て建物である。エントランスに隣接するポリウムは1層吹き抜けの大空間で、自社製品による試作品の製作や加工サービスを提供できるスペースとしている。奥は2層となっており、2階には食堂を中心とする休憩スペースを配置している。敷地の南東側には10mを優に超える自然保護林が残されており、いずれの部屋からも大きなガラス面を通して自然を感じることができる。

●構造計画

スパン14.3mの木造梁が架けられた木屋根直下は全周ガラス開口部であり、耐震要素を配置する余地が無い。木部材の剛接合は難しいことから、鉄骨コラム柱の柱頭をピン接合とした片持ち柱で水平力を負担する計画とした。ピン接合は支承部から細い鋼材を突き出して木造梁を支持するデザインとし、屋根の浮遊感を表現した。ピン

接合部の鋳造金物は上下方向の地震動・風荷重時の浮き上りに対応した形状とした。木大梁には「オメガウッド」を採用し、高剛性単板積層材(LVL)を用いた。両端ピンの木大梁は曲げモーメントの大きさに合わせて、梁せいを膨らませたデザインとし、鋼板挿入型の継手を設けて輸送による長さ制限(12m)に対応した。木屋根の下部(1階)の構造はRC耐震壁付ラーメン架構として剛性を確保し木屋根への地震力増幅を抑えた。

●免震層の計画

設計当初は耐震構造であったが、確認申請直前の2016年4月に熊本地震が発生し、計画地付近で震度7の揺れが2回観測された。計画地周辺では目立った建物被害は見受けられなかったが、このような極大地震にも耐える構造を目指して免震構造に変更された。低層かつ木屋根を採用しており上部構造の重量が小さいため、水平剛性の小さい直動転がり支承(CLB)を主体とする免震層とするとともに、外周部には鉛プラグ入り積層ゴム支承(LRB)を配置して免震層のねじり剛性を高めた。CLBの採用により免震層を長周期

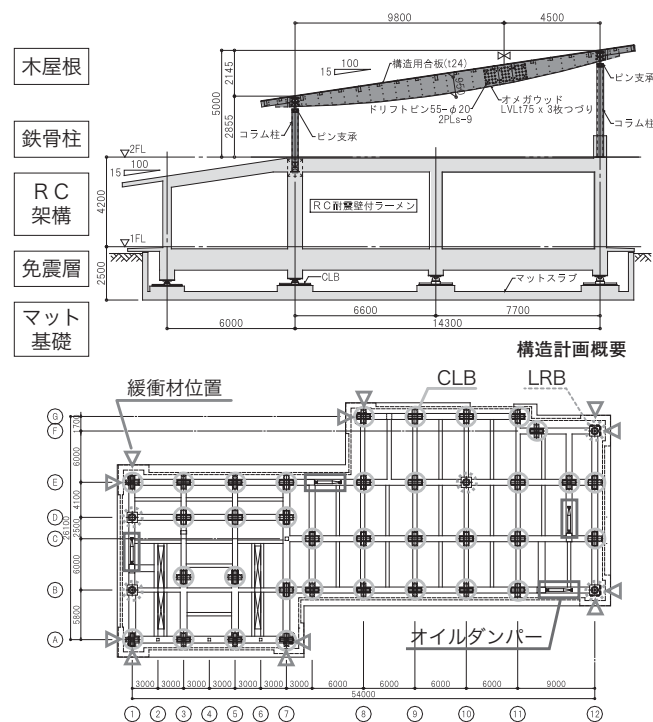
化(L2地震時の等価周期4.3秒)し、片持ち柱による屋根の振動を抑える計画とした。熊本地震のようなレベル2を超える極大地震時には免震層の変形が非常に大きくなるため、免震層の剛性を高める必要がある。一方で免震層の剛性増加はレベル1・レベル2地震動に対する免震効果が損なわれてしまう。そこで、レベル2を超える極大地震に対して上部構造を擁壁に衝突させる計画とした。衝突による衝撃力は、高減衰ゴム製緩衝装置「免震フェンダー」を免震層上部のフーチングに設置し、高減衰ゴムの圧縮変形により吸収させる計画とした。検討地震波は、震度7を観測した本震のKMMH16益城における地中観測波を基盤波とし、計画地の表層地盤特性を考慮して作成した。熊本地震と同様の地震が計画地直下で発生した場合の、免震フェンダーの効果を確認するため、免震フェンダー設置時と擁壁のみの2ケースについて衝突解析を行った。免震フェンダーを設置することで最大加速度は1/5以下となり、擁壁衝突による衝撃力が低減されることを確認した。



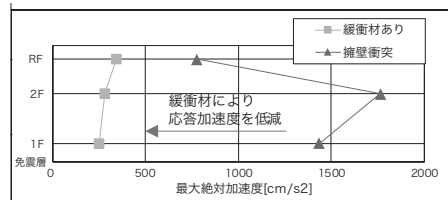
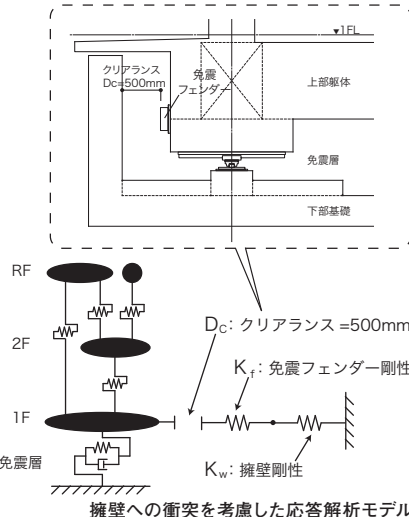
建物外観パース



大スパン木大梁による吹き抜け空間



免震層配置計画



熊本地震に対する応答解析結果



ほり もと あき のぶ
堀 本 明 伸

生 年 月 1984年6月大阪府生まれ
最終学歴 2009年大阪大学大学院
工学部地球総合工学科
建築工学科目

業務経歴 2009年日建設計入社
東京事務所
2010年大阪事務所
2017年名古屋事務所
現在 大阪事務所
構造設計部

- 担当した主なプロジェクト
- ・阿波銀行鳴島支店
- ・関西外国語大学穂谷キャンパス第二セミナーハウス
- ・ザ・リッツ・カールトン京都
- ・グランフロント大阪駅前広場
- ・YANMAR FLYING-Y BUILDING
- ・山陰中央テレビジョン放送株式会社新本社ビル
- ・高松サンポート合同（南館）
- ・国立京都国際会館ニューホール
- ・岡山県警察本部庁舎

■青年技術者のことば

私は建物を設計する際に、いかに安全性の高いシステムを経済的に実現するかということを念頭には置っていますが、それだけでは良い建築は作れず、何かひとつのテーマを持って設計チームで協働して設計することが構造設計者として必要な姿勢だと考えています。新素材・新提案のような目新しい構造技術を提案することも大事であると思いますが、建築の質を高めるためにはエンジニアとして、地道に知識・経験を積み重ね、建物にとって最適な構造計画を提案することが重要だと思います。最適な構造計画を提案するための裏付けとなる知識・経験は、構造設計に関わるものだけでなく、意匠設備に関連することや、建築に関係しないことから得られると感じています。これからより良い建物を設計し、社会に貢献するために自分ができることを考え社内外にアンテナを張り、構造設計者として研鑽していきたいと思っています。

■すいせん者

田代靖彦
株式会社 日建設計 構造設計部長

ガラスダブルスキンを支えるホールトラスの構造デザイン

国立京都国際会館ニューホールの構造設計

建物概要

本建物は日本初の国際会議場であり、京都議定書が採択された歴史ある建築物である国立京都国際会館に展示施設であるニューホールを増築する計画である。ニューホールは47.6mスパンの展示ホールをもつ建物で、展示ホールを鉄骨トラスで構成しているが、天井が必要なため、内部空間からは鉄骨トラスは確認できない。トラスを使ったダイナミックな構造デザインを感じさせるため、下記の断面図に示すようにトラス端部をガラスのダブルスキンとし、トラスを外部に魅せることを考えた。

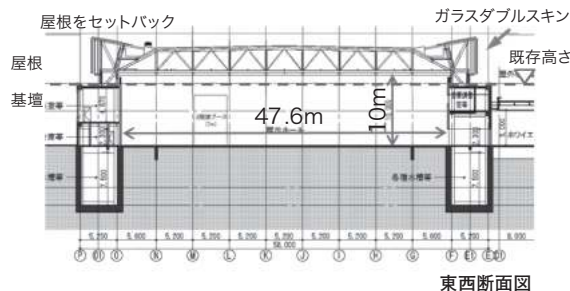
ガラスダブルスキン

ガラスダブルスキンは、意匠的には周囲の景観を、ガラスを使って視線を透かすことや景色を映り込ませる機能が

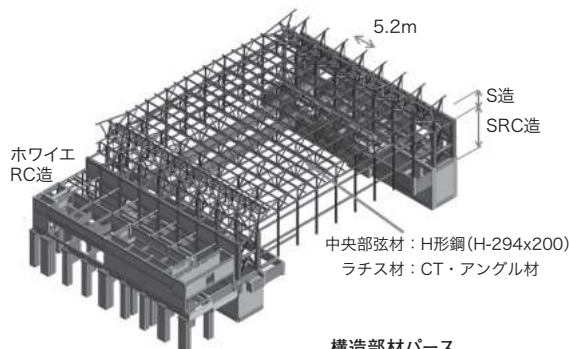
あり、設備的にはダブルスキンとなった空間で空気・熱を循環させ環境装置としての機能を持つ。ガラスダブルスキンを、意匠・構造・設備が三位一体となった本建物の見せ場として表現することを考えた。

構造計画概要

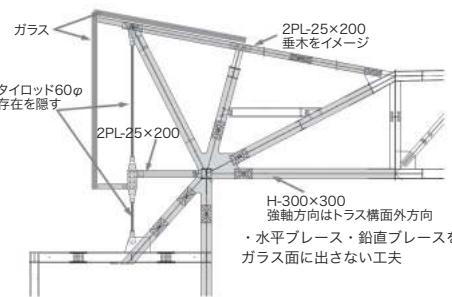
ニューホールは下図の構造部材パースに示すように、建物基壇の部分を耐震壁付きのSRC造とし、屋根はスパンが47.6mのS造トラスとした。47.6mスパンのトラスは、スペーシングが5.2mでトラスせいが3.25mの一方平行弦トラスで計画した。トラスの中央部は、ホール内部からは天井に隠れて見えないため、経済性を重視してH形鋼・CT・アングル材を組み合わせで構成した。トラスの端部のデザインは、ガラスの納め方を中心に意匠設計者と密に連携して取り組んだ。



東西断面図



構造部材パース



トラス端部軸組図

ガラスダブルスキン

- ・意匠：ガラスで視線を透かし、周囲の景観に溶け込ませる
- ・設備：ダブルスキンを利用して環境技術を導入する
- ・構造：トラス端部を透かして魅せる



トラス端部接合部写真



上部：ガラスダブルスキン、下部：エントランスの鉄骨無垢細柱



み た に
三 谷 あつし
淳

生 年 月 1984年4月大阪府生まれ
最終学歴 2010年大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学
専攻

業務経歴 2010年大林組入社
2011年大阪本店構造設計部
2014年東京本社構造設計部
2016年大阪本店構造設計部

●担当した主なプロジェクト
・神鋼加古川新溶銑処理工場
・博労町3丁目プロジェクト
・KDDI大阪第2ビル
・三井倉庫駒西城南第1倉庫
・THKビルディング
・摂津工場新施設構築プロジェクト
209棟
・三菱倉庫神戸支店西神配送セン
ター

■青年技術者のことば

約10年で様々な規模の建築を設計する機会を頂きました。設計した建物を使用されることの喜びを感じるとともに、設計者としてより価値のある建物を後世に残していく責務があると感じています。構造設計者として、建物に関わるすべての人と創る喜びを共有できるようにしたいです。建物を創り上げ供用される中で、建築主はもちろんのこと、設計者、施工者、利用者および社会すべてに喜んでもらえることを目標とします。そのために、相手が何を求めているのかを適切に把握し、すべての関係者が満足できるよう最善の努力をします。皆に喜ばれる建物を創出し、それを自らの喜びとしてまた自己研鑽に励む、これを繰り返し構造設計者として一人前になれるよう精進していきます。

■すいせん者

嶋崎敦志
(株)大林組 大阪本店
建築事業部構造設計第三部 部長

傾斜した支持地盤に建つ大型免震物流倉庫

●はじめに

本建物は、兵庫県神戸市須磨区に位置する免震構造の地上4階建て営業倉庫（一類倉庫）、事務所である。建物形状は、東西方向を長辺とした160m×190mの長方形形状で両側にランプウェイが取り付け形状となっている。1期工事では東側の倉庫、トラックパース、車路および両側のランプウェイを建設し、建物を使用しながら西側の倉庫およびトラックパースを一体増築する計画となっている。南側に上り専用、北側に下り専用のランプウェイを設置し、それらを南北に接続する車路を各階に配置している。各階車路の両側にトラックパースを配置し、倉庫部分とトラックパース部分は1.1mの段差を設けている。ランプウェイと本体倉庫との間にはEXP. Jを設けずに構造的に一体として計画した。傾斜した支持地盤からの地震入力の評価について力学的、工学的検討を行い、設計を進めた。

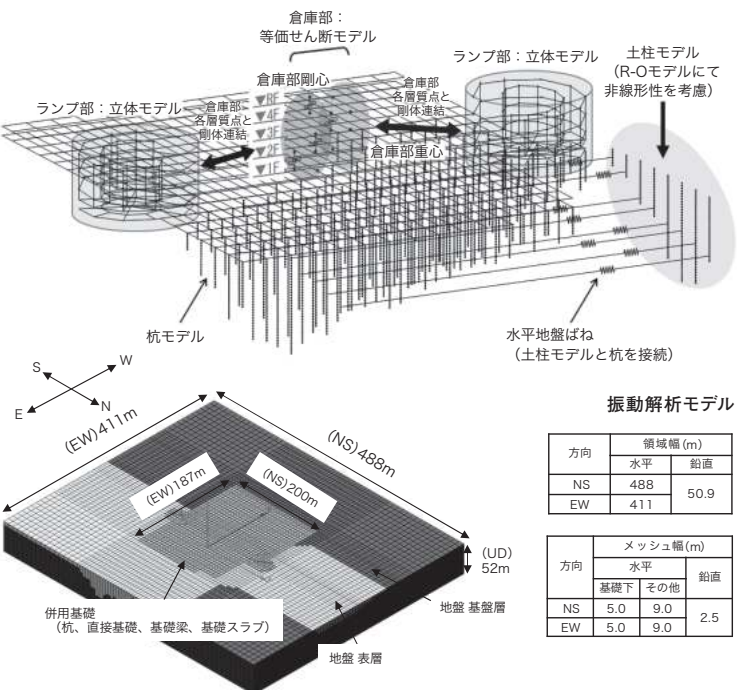
●傾斜地盤を考慮した解析モデル

工学的基盤が傾斜していること、異種基礎であること、建物長さが100mを超えることなどの影響による地震波の位相差によるねじれを適切に評価するために建物一杭一地盤連成モデルとした。上部構造のモデル化については、ランプウェイ部分はらせん状の架構の振動性状を適切に把握するため部材レベルでモデル化し、倉庫部分は各階床を1質点に集約した5質点の等価せん断型モデルとした。倉庫部分とランプウェイ部分は、剛体連結することで相互の影響を振動解析に考慮した。また、上部構造のねじれを適切に評価するため、各階の剛心に回転慣性およびねじり剛性を考慮し、各層倉庫部の質量中心(重心)を別に設けるモデル化を行った。免震層のモデル化は、免震材料を平面的に配置し、1階床を剛床とすることにより免震層全体の剛性および復元力特性を考慮できるモデルとした。

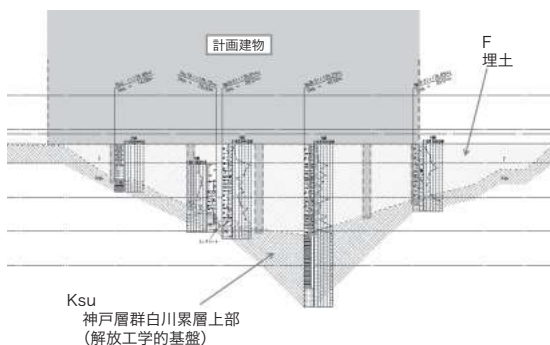
下部構造は、支持地盤レベル(地震動の入力位置)が各杭により異なるため、杭長ごとに地盤(土柱)モデルを作成し、地盤深さに応じた地盤特性を考慮した。土柱モデルは地盤の非線形性を考慮し、R-Oモデルを採用した。土柱モデルと杭を水平地盤ばねで接続することにより建物一杭一地盤連成モデルとした。



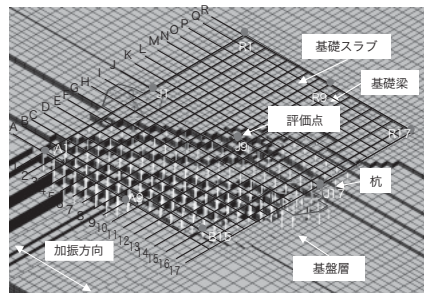
外観パース



振動解析モデル(三次元FEMモデル)



地盤概要



振動解析モデル(三次元FEMモデル)



いま 吉 たくし
今 好 健

生年月 1985年6月大阪府生まれ
最終学歴 2010年京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
機械システム工学専攻修了

業務経歴 2010年株式会社工務店入社
2011年同京都支店設備部
2015年同大阪本店設計部
2016年同大阪本店設備部

●担当した主なプロジェクト

2011年 龍谷大学深草学舎22号館
2013年 龍谷大学深草学舎和顔館
2013年 尾池工業上鳥羽西館
2015年 ヴォーリス学園新体育館
2015年 立命館茨木キャンパス
2015年 西武八尾特高改修
2016年 GLP吹田倉庫
2017年 デサントR&Dセンター
2017年 GLP寝屋川物流センター
2018年 日経大阪放出版工場
2018年 大阪電気通信大学
寝屋川キャンパス整備

■青年技術者のことば

今回のプロジェクトでは、新しいBIMの活用を設計・施工を一貫して行った。建築主のニーズに応えた設備計画を実施していくのは設備技術者として当然の役割であるが、加えて建設業界全体の作業員不足という問題が顕在化していく中で、今後一層求められる快適で知的生産性の高い空間をどう提供していくかという課題に、BIM活用による効率的な合意形成という一つの答えを出すことができた。今後の設備技術者としてのキャリアの中で非常に貴重な経験であった。建築設備は日進月歩で進化し、その内容は複雑化・高度化・専門化の一途を辿る。その技術の中から、建築主のニーズに合ったものを選択し、品質を確保し、建築主に満足してもらえる建物を提供することのできる設備技術者として、さらには、建設業界全体の生産性についても寄与できる設備技術者として、私は成長し続けたい。

■すいせん者

田中 努
(株)竹中工務店
設備部 グループリーダー

GLP吹田プロジェクトの設備計画 ～BIM活用によるステークホルダーとの効率的な合意形成の取り組み～

近年増加している大型マルチ物流施設において、事業主はテナント誘致のために、コンセプトを持って建物を計画している。今回担当した「GLP吹田プロジェクト」において新築工事着工時に、入居者であるカスタマーが決定し1社専用施設としてのBTS (Build to Suit) 化を行い、大規模な変更を約束した。それに伴い、建築計画の変更及び設備計画の変更が必須となった。さらに、カスタマーの事業を成立させるために、物流施設稼働時期の繰り上げ＝カスタマー工事の着手の前倒しを図りたいとの強い要望が上がった。私は設計施工を一貫通貫して双方のニーズの実現を目指した。



写真1 建物外観

I. 建築主及びカスタマーニーズの実現 「物流施設稼働時期の繰り上げ＝カスタマー工事の着手前倒しの実現」

今回プロジェクトにおいて、建築主のニーズはカスタマーのニーズに対応し、かつ工期の順守であった。カスタマーの一番のニーズは事業収支にも大きく影響する物流拠点の早期稼働である。そのニーズについては建築主も同様であった。今回建物はカスタマーの一棟専用施設として大規模な搬送設備であるマテリアルハンドリング機器(以下、マテハン)が設置される計画となった。それに伴い、建築・構造・設備の大規模な変更を行う必要が生じたこととなった。また、マテハンの設置工事は約9か月必要であり、建築主ニーズとは約4か月の開きがあった。これを実現するためには、新築工事中のマテハン設置工事の着手が必須条件であり、従来、建物竣工後に行ってきたマテハン設置工事を新築工事に行うための問題点の洗い出し、解決策を検討した。

II. 「各ステークホルダーとの合意形成」

1. 消防設備変更対応

従来竣工後のマテハン設置工事を行い、それに伴う各消防設備の適法化の工事(改修工事)を行い、消防検査を受け建物使用開始可能となる。しかしながら、マテハン工事の先行乗り込みを行えば、新築工事の消防検査もマテハン工事完了まで受検できず、建築主ニーズである工期順守を達成できないことになる。マテハンとは平面的にも断面的にも重なりあった複雑形状のた

め、2次元図面で立体的に形状を理解することは、専門工事会社でも難しい(図1)。



図1 マテリアルハンドリング機器(3Dベース)

さらに設計者、施工者への理解、そして関係諸官庁への承認を得ることはさらに困難である。複雑形状であるマテハン設置後の改修工事は非常に手間がかかるため、新築工事時点から、このような竣工後の改修を前提とした施工を行うことは、建築主及び施工者にとってメリットを生まない。省人・省力化も踏まえマテハン設置工事前にマテハン設置を考慮した消防設備の設置工事を完了させ、消防検査を受検、引渡しを行う計画を立案した。双方のニーズ及び省力化を実現するためには、新築工事時点において、マテハン設備の最終的な設置状況を諸官庁等のステークホルダーに説明し、了承を得る必要があった。

所轄消防署との合意形成の手段で着目したのが、近年普及が拡大してきているBIMであった。まず、マテハンのBIMモデルをカスタマーから受領し、BIMを用い建築、設備、構造、マテハンを設置の重ね合わせを行った。そのことにより建築設備との物理的な干渉の確認も可能となり、事前にマテハン設

置による建築設備工事の対応が可能となった。重ね合わせ確認により、消防設備のうち屋内消火栓、連結送水管及び誘導灯についてマテハン設置による移設及び追加設置が必要となることが分かった。

検討した屋内消火栓と誘導灯の配置は、所轄消防署においてBIMモデルを確認しながら、合意形成を図った(写真2)。消防協議ではBIMモデルをプロジェクターに投影し、見える化を行った。モデルで切断面を高さ方向に移動させながら説明することで、マテハン機器の空間的な把握を容易に行うことができた。BIMモデル内を歩行することで、屋内消火栓までの動線の確認と、誘導灯の視認性の確認を行った。消防隊員質疑は2次元平面図では説明し難いものが多く、3Dモデルを用いた説明を行うことで、空間把握が容易となり、合意形成が迅速かつ活発に行えた。さらに高さや有効寸法の質疑に対してその場で解答することが可能となり合意形成が迅速かつ活発に行えた。

2. 建築確認申請変更対応

建築確認申請の変更においてもマテハン設備の設置に伴う防火区画免除や異種用途区画の説明にBIMモデルを用い効率的な合意形成を図った。さらに新築計画におけるBIMモデルの確認申請上の優位性について理解を深めた(写真3)。

上記の協議により、4か月の工事着手の前倒しの達成及びマテハン設置後を考慮したテナントB工事を新築工事にすべて完了させ検査済証を受領し、建築主及びカスタマーのニーズに答えることができた。



写真2 消防協議の様子(吹田市消防局にて)



写真3 建築確認申請協議の様子(ERI京都にて)



こが たく ま 古我 卓 真

生 年 月 1984年 3 月滋賀県生まれ
最終学歴 京都大学大学院工学部
都市環境工学専攻修了
業務経歴 2009年㈱竹中工務店入社
2010年大阪本店設計部
2013年神戸支店設備施工
管理グループ
●担当した主なプロジェクト
2014年 ヒューリック神戸空調改修
2014年 三井倉庫神戸西倉庫 2 期
2015年 シスメックスR&Dタワー
7 階改修工事
2015年 キュービー神戸工場
2017年 建隆磯上オフィスビル
2018年 シスメックス新診断薬拠点

■青年技術者のことば

私はスローガンとして「思いやり」を掲げている。建築主に対してはもちろん、各職種の協力会社、作業員、その家族、竣工後の利用者に至るまで、「思いやり」をもった施工管理ができる技術者を目指している。建築主、設計者の想い、社会のニーズを的確に把握し、かたちにしていくことが施工管理者の責任であると考えている。今回、新たにBIMを活用した施工管理方法を検討、実施することができた経験は、技術者として大変有意義であった。BIMを活用することで、関係者にわかりやすく説明することにより、生産性向上を達成した。

また、建築設備システムもより高度で複雑化している。そのような複雑なシステムを関係者にわかりやすく説明し、共通認識をもって施工していくことが設備技術者にとって非常に重要である。今後も新しい技術、試みを憶することなく活用し、「思いやり」の詰まった建物を造れるように設備技術者として一層の自己研鑽を図っていきたいと考えている。

■すいせん者

中村 泰介
㈱竹中工務店 神戸支店
設備施工管理グループリーダー

BIMを活用した施工管理への取り組み

1. はじめに

近年、作業員をはじめ建築業界の人員不足が顕著であり、労働環境についても大きな問題となっている。生産性向上が強く求められる中、BIMの活用が様々な場面で検討されている。今回、私が担当した某食品工場新築工事において、実践したBIMを活用した施工管理について報告する。

2. 天井内設備の納まり検討

私が担当した食品工場ではクリーンルーム内の清掃性の向上のため、空調、衛生、電気の建築設備だけでなく生産設備も天井内としたいとの要望を期中に受けた。建築物の構造上、天井内のスペースは狭く、建築設備と生産設備との細部にわたっての取り扱い調整が必要となった。2Dの図面（図1）では各設備が縦横無尽にあるため、干渉しているかのチェックさえ、多大な労力が必要である。

そこで、図面内の配管に大きさや、高さなどの情報を入力し、3D化して調整を行った。（図2）BIMを活用することで、配管類の情報が図面内にすべて取り込めているため、干渉部が自動的に判定できるようになり、干渉チェックにかかる時間が大幅に削減することができた。また、関係者が集まり3D画像を見ながら調整することで、対応方法をその場ですぐに決定することが可能になった。実際の施工においても、作業員に完成形のイメージをわかりやすく伝えることができ、手戻り作業がなくなり施工時の生産性を向上することができた。

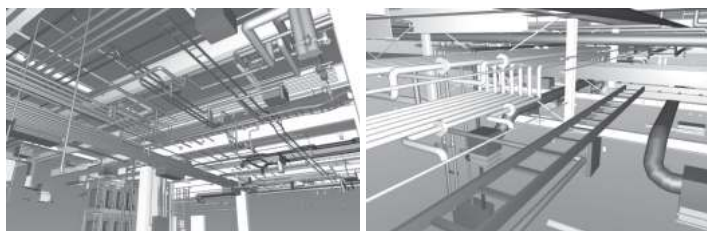


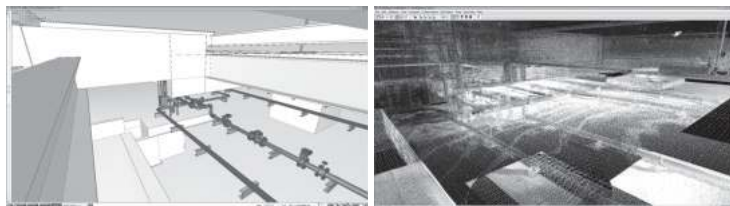
図2

3. 免震クリアランスの品質確保

本建物においては免震構造が採用されており、免震クリアランスの確保が重要であった。しかしながら、設備配管類が複雑に入り組んでおり、また、構造体に段差が多く、計画段階、施工段階でのチェック箇所が多いため、見落としが発生し、手戻りが多くなるリスクが高いことが懸念された。そこで、計画段階と施工段階でBIMを活用し、免震クリアランス確保のチェック業務を実施した。



図3



計画データ

3D スキャナデータ

重ね合わせ



図4

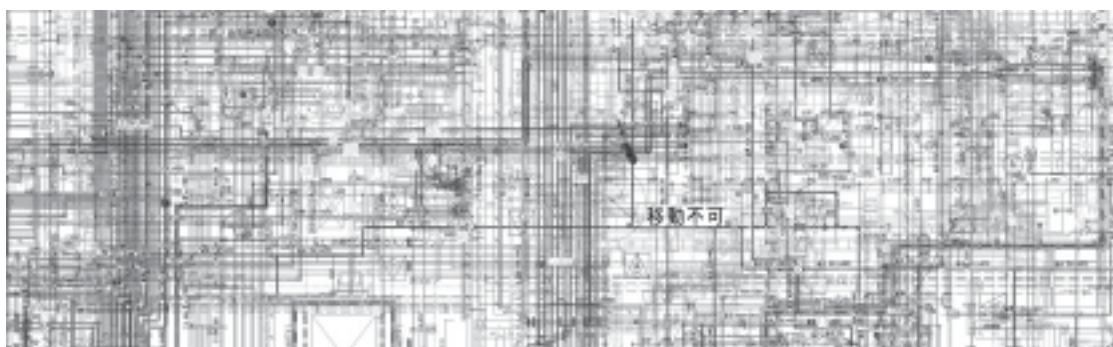


図1



さこ だ ひろ ゆき
迫田 裕之

生年月 1984年7月兵庫県生まれ
最終学歴 神戸大学大学院海事科学研究科海事科学専攻修了
業務経歴 2009年㈱日建設計入社
エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部
2016年
設計部門LCD設計部
2018年
エンジニアリング部門設
備設計グループ
設備設計部所属

●担当した主なプロジェクト

2010年 阪南大学/50周年記念館
2010年 岩国錦帯橋空港
2010年 関西国際空港改修
2012年 観音寺市/新市民会館
2013年 松山赤十字病院
2013年 ヤンマー本社ビル
2014年 周南市/市庁舎
2015年 梅田ダイビル改修
2015年 茶屋町17番地計画
2016年 ダイビル秋葉原計画
2016年 エクイニクスTY5Ⅱ期・Ⅲ期
2017年 HSBC日本橋ビル改修
2018年 建築学会/建築会館改修
2019年 (仮称) ヤンマー東京ビル

■青年技術者のことば

建築設備とは、建物の機能を左右する重要な役割を担っている。その設備設計を行うにあたっては、クライアントの「思い」のさらに奥にある要望を見つけ出し、最適解を提案していくことが重要である。このような視点で分析する思考力が設備設計者に求められていると常々考え、円滑なコミュニケーションや自由な発想で提案を行い、建築物に新たな価値を創造することを心掛けている。これからも着実に、積極的に新しい価値を実現できる設計者を目指したい。

■すいせん者

向井文悟
(株)日建設計
エンジニアリング部門
設備設計グループディレクター

ヤンマー本社ビル — 思いの実現と挑戦 —



建物外観



基準階執務エリア



基準階執務室を貫通する螺旋階段

■複数の常用発電機を持つ電源系統と制御システムの開発

本プロジェクトでは、クライアントと共に長期的な視点でZEBの実現を目指すロードマップを策定した。従来の技術に加えて、新技術の導入や将来設置機器への対応など詳細に協議を重ね、設計方針をまとめた。クライアントの要望に加えて、新たな価値創造について検討を行い実現した。ZEBに向けた主力技術と位置付けた、ガスエンジン発電機、バイオディーゼル発電機、太陽光発電、風力発電機を電源系統に連系し、これまでにない多種の常用発電機を組み合わせる様々な運転パターンが可能のように構築した。常に変化する受電容量に応じて柔軟に発電量を制御する必要があると考え、発電出力制御機能として受電電力を「ゼロ」にする「受電電力ゼロ制御」モード、自然エネルギーを利用する発電装置の出力変動を内燃機関発電機の発電出力を調整することで、発電設備の出力合計を一定に制御する「一定発電電力制御」モード、熱の需要と供給状況を把握し、廃熱が余剰となる場合は発電機の出力を下げて、廃熱を減らすことで総合効率を高く維持する「熱主電従」モードを構築した。電力・ガスの供給事情の変化が目目される中で、オンサイトCGSがその有効性を最大限発揮するためには、運転モードを柔軟に選択できることが重要との課題認識に立った対応である。

■高いBCP性能

商用停電発生時には常用発電機を自立運転させることにより重要・保安負荷へ無停電で電源供給を可能としている。一般的に復電時は通常一時停電を伴うが、常用及び非常用発電機を商用電源と同期させて瞬時並列運転し、その後発電機を切り離すことで重要・保安負荷は無停電で商用電源に復電可能とした。また常用・非常用発電機を同期運転させればオンサイト発電により建物全体の負荷に電源を供給可能な高いBCP性能を確保している。通常時の電源供給状況、無停電復電時の電源供給状況を以下に示す。

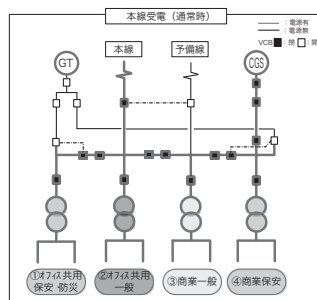


図1 電源供給（通常時）

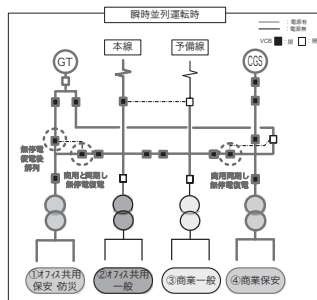


図2 電源供給（無停電復電時）

岩国錦帯橋空港 — 建築・設備の融合 —



建物外観



ロビーラウンジ

■らせん大屋根を利用した照明計画

旅客エリアは光庭を中心に動線がシンプルで見通しがよく、出発客、到着客、送迎者の誰もが迷うことなく利用できるわかりやすさに加えて、全体をらせん状の大屋根で覆う開放的な空間に合わせて間接照明を多用することで、照度を抑えて省エネルギーを図りつつ、明るさ感の高い視環境を提供している。らせん状の大屋根に対する間接照明の効果の想定は、従来の知見では容易に想定することができないため、設計時にはフルモデルシミュレーションにより照度や明るさ感の効果について検討を行い、機器仕様及び台数・配置を決定した。施工後には実測を通して効果を検証した。



照度シミュレーション



バゲージクレイム写真



バゲージクレイム輝度写真



なが よし たか ゆき
永吉 敬行

生年月 1984年9月埼玉県生まれ
最終学歴 芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学専攻修了
業務経歴 2009年大成建設㈱入社
2009年設計本部設備設計第一部
2016年～現在 関西支店設計部設計室（設備）

●担当した主なプロジェクト

2010年 京都水族館
2011年 医療法人博仁会共済病院
2011年 千葉メディカルセンター
2012年 コクーン2商業棟・駐車場棟
2013年 神田外語学院本館・アネックス棟改修
2013年 電気通信大学100周年キャンパス
2015年 豊島岡女子学園百周年記念館改修
2016年 近畿産業信用組合本店
2017年 神戸製鋼所加古川工場スケール乾燥設備操作室
2017年 日本精工石部工場食堂棟改修
2017年 都市クリエイト新社屋
2017年 京都駅南ホテル
2017年 A美術館

■青年技術者のことば

私は、施主のニーズは同用途の建築でも、建築ごとに時代や運用により異なるため、状況に合わせたニーズや使い勝手を想定した対話を行い、具現化することを意識している。施主のニーズに適合することで長く利用して頂ける建築に繋がると考える。技術の多岐・高度化が進む中、ニーズに対する解を出す上で、一つの技術だけでなく、建築部材や他の技術と組み合わせ、建築計画と融合した最適解を導くことを意識している。私はまず、建築設備には、特に温冷感、臭い、騒音、結露などにより利用者に不快を意識させない空間づくりをすることで建物本来の価値をしっかりと引き出す役割があると考えている。建築環境工学における基本的な役割を果たした上で、さらに各案件には、特に環境負荷低減、省エネルギー、安心・安全、BCP、健康・快適性技術等の施主のニーズに対して、+1の付加価値を創造し、永く地図に残る建築づくりに挑戦していきたい。

■すいせん者

平井浩之
大成建設㈱ 関西支店 設計部
設計部長

近畿産業信用組合本店 ～都市型高層ZEB Readyの実現～

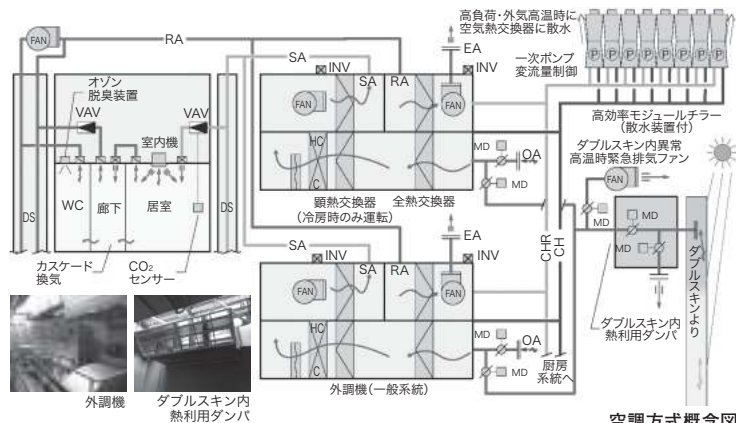


建物外観



ダブルスキン概念図

持続可能な都市型高層ZEBの実現をコンセプトに、具体的な取り組みとして、
(1) ファサードの高機能化と外気導入の最適化
(2) 設備の高効率化による快適性と省エネルギーの両立
(3) 自然エネルギーの有効活用
を計画テーマとした。



空調方式概念図

■ファサードの高機能化と外気導入の最適化

外乱の対策として、①ダブルスキン構造によるファサードの高機能化、②インナースキンにLow-e複層ガラスの採用、③キャビティ内に太陽追尾型電動ブラインドの設置等を行った。さらにCO₂センサーとVAV（変風量制御）による最小外気量制御等を導入し、外気負荷の低減を図った。

■設備の高効率化による快適性と省エネルギーの両立

高効率モジュールチラー、潜熱分離空調方式（外調機+高顕熱型ビルマル、顕熱交換器による再熱等）、人検知センサー・照明制御（当社技術：T-Zone Saver）等の高効率設備を積極的に採用した。

■自然エネルギーの有効活用

ダブルスキン内の熱利用を行うため、ダブルスキン内熱利用ダンパを開発した。冬の冷たい外気をダブルスキン内で太陽光により加温し、外調機外気取入れの予熱に利用することで外気負荷の低減により省エネルギーを図った。

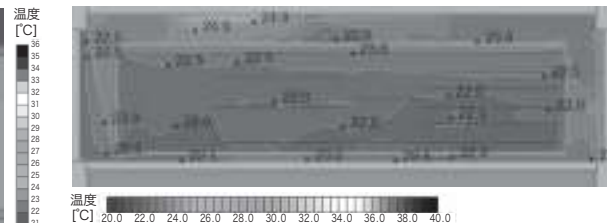
■ZEBの実現と性能検証

従来の事務所ビルに比べて約61%のエネルギーを削減し、金融機関本店ビルで、国内初のZEB Readyを実現した。これにより発注者は（一社）環境共創イニシアチブによるZEBリーディング・オーナーの登録を行うことができた。今後は運用段階でのZEB実現のために継続的にフォローを行うことで、ZEB化向上を目指していく。

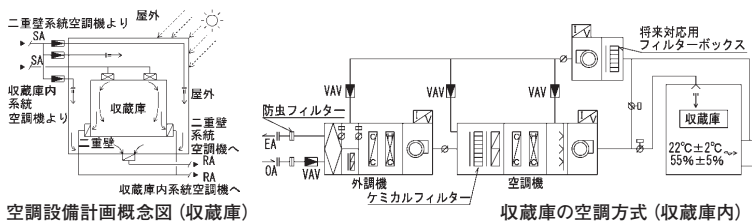
A美術館における設備計画 ～文化財を守る空調システム～



エントランス広場の自然換気シミュレーション



収蔵庫内の温熱シミュレーション



空調設備計画概念図（収蔵庫）

収蔵庫の空調方式（収蔵庫内）

安心・安全な建物環境の中で、文化財をしっかりと守りつつ、省エネルギー、維持管理性等に配慮した計画を行った。計画にあたり、完成後に公開承認施設として承認を受けることを見据えた建築・設備計画としている。

■外乱の防止と自然エネルギーの有効利用

エントランス広場は、中間期に空調機を停止して自然換気での運用が可能のように計画している。屋外では打ち水による気化熱利用を取り入れた自然換

気が可能なように計画を行った。自然換気は外部扉とハイサイドライトの開閉により行う計画とし、熱・気流シミュレーションにより開口部の配置や寸法等の計画を行った。さらに室内・室外のエンタルピー差等により自然換気が有効であることを照明等にて知らせる機構を設けることで運用に配慮した。また、日射による空調負荷を抑えるため、建屋周囲には庇を設けた。日射遮蔽に十分な効果を期待した庇形状を検討し、日射シミュレーションを踏まえ、庇の有効性を確認した。



日射シミュレーション（夏期午前10時）

■最適空調風量の検討

収蔵庫内は室全体を淀みなく22±2℃の恒温恒湿空調とするため、制気口配置および換気回数の検討を行った。熱・気流シミュレーションでは再現性を高めるため美術品を並べた収蔵棚を配置した。制気口は室に均等に分散配置し、気流による美術品への影響に配慮して、吹出口はパンチング形状とし、収納棚上を避けて配置した。吸込口は収納棚を避けた壁面下部に配置した。22±2℃の範囲内となる換気回数を確認し、この結果を考慮した上で、適正な風量等の設定を行った。



みやざき あゆみ
宮崎 亜由美

生年月 1984年3月岡山県生まれ
最終学歴 神戸大学大学院
自然科学研究科
建設学専攻修士
業務経歴 2008年㈱日建アクトデザイン入社
2014年㈱日建設計入社
エンジニアリング部門
設備設計グループ
●担当した主なプロジェクト
2009年 六甲学院新校舎整備計画
2011年 大阪市城東区複合施設
2011年 土佐病院改築工事
2012年 大阪ガス北部事務所低炭素化改修
2013年 羽衣学園新校舎計画
2014年 山陰中央テレビ新社屋
2016年 三井住友銀行大阪銀行会館

■青年技術者のことば

設備設計者としてまず、利用者の特性にあった空間・設備を提供したいと思っている。そのためにはできるだけ利用者「個」の特性に基づいて「可変」性を持った設備システムが必要である。「可変」性は設定・操作の自由度に限らず、一度作りあげたシステムに対しては可能な限り後から設定変更・追加・修正ができるようなものにするにより、多様な使われ方に対応していけると考える。もうひとつは、建物の建設～解体までの生涯を通じて最適化を目指すライフサイクルデザイン(LCD)の視点を持った設計を通じて環境負荷低減に貢献したいと思っている。保全計画のみならず、時代に合ったバリューアップを加え、建物の魅力を維持させる。その結果として建物の生涯を通じた環境負荷低減に貢献していくことに、設計者として尽力せねばならないと考えている。

以上の視点から右記2件の改修プロジェクトに取り組んだ。既存建物とその運用状況と向き合うことにより得られた多くの知見を今後新築プロジェクトにも活かしていきたいと思う。

■すいせん者

田中宏昌
(株)日建設計エンジニアリング部門
設備設計グループ
ディレクター

大阪ガス北部事業所低炭素化改修工事－入居者の特性を考慮した設備システム－

現状分析と改修方針

設計にあたってまずは既存の用途別エネルギー使用量を分析し、大きな割合を占める熱源を中心とした手法と、「行動観察」を用いて入居者の特性を反映できる手法の採用を大きなテーマとした。

上記により改修項目については、比較的大きな効果が期待でき、実績も多い「ベースとなる省エネ手法」、入居者の日常行動から省エネ行動を阻害する要因を明確化し、快適性とバランスの上で省エネ・低炭素化を図る「行動観察に基づく手法」、熱利用や発電設備の導入による「オンサイト発電設備を有効に利用した電力・熱エネルギーシステム」を柱とした。(図1)

改修項目概要

■在室検知による温度設定制御

入居者の行動観察により得た在室率や在室者の属性の特徴を設定温度に変更する仕組みとして、温度設定変更制御を導入した。

1つ目は既存インフラであるIP電話を利用し、アンテナで検知した入室情報とあらかじめ登録しておいた所有者の属性情報を集計し、各制御ゾーン内に属性ごとの人数を算出し、VAV設定温度を変更するシステムとした。(図2)

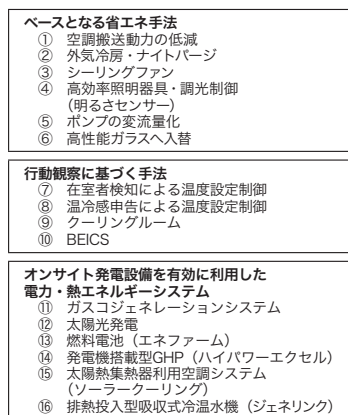


図1 改修項目

■温冷感申告による温度設定制御

前述が在席者に応じて自動的に設定温度が決定される受動的な制御であったのに対し、もう一つの制御として、居住者からの温冷感などを申告できる機能を持ち、その集計値(申告値)を提示することで納得感を持ちながら温度設定を行うシステムを導入した。(図2)

■BEICS(拡張型クラウドBEMS)

BEICSはクラウドBEMSの機能を拡張させ、前述の2つの温度設定制御に関するデータ取得・演算・設定までの一連の制御を実行する機能を併せ持つ。また、省エネ行動への誘導を目的とした入居者へ省エネに関する様々な情報を提供する専用のweb画面を付加し、入居者のコミュニケーションツールとした。(図4)

■クーリングルーム

クーリングルームは外勤者が帰社した際に入室し体内蓄熱を効率的に除去することで、執務室での生理的な定常状態に早く近づけることを目的とした。(図2)



図2 行動観察に基づく手法 概念図

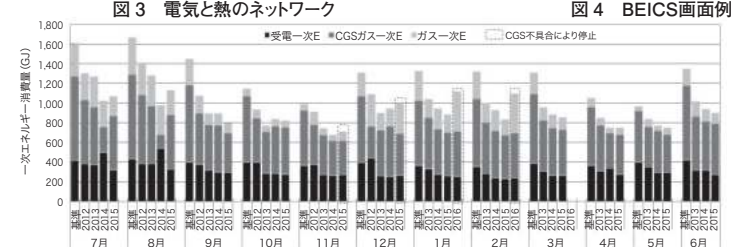
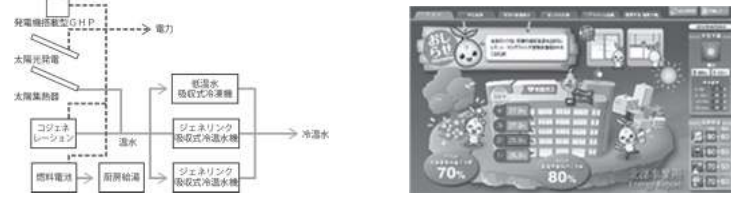


図5 月別一次エネルギー消費量(基準/実績)

広島県庁舎耐震補強工事・維持保全工事－LCD改修プロジェクトにおける取り組み－

プロジェクト概要

本プロジェクトは、県庁耐震化支援業務(H24)において決定された耐震補強方針に基づき、適切な耐震改修工法を選定するとともに、津波等による浸水対策や地盤の液状化による建物への影響を想定しこれらの対策も合わせて検討した。

さらに、中長期保全計画に基づき、建物外装や設備幹線など修繕実施が必要なものに加え、バリューアップの観点から大部屋化改修・給水方式改修等、耐震化工事と同時に施工することが望ましい工事を計画した。

3Dスキャンの活用

耐震補強の検討は既存図面をベースとして行うこととなっていたが、既存図面及び改修履歴が十分に残っておらず、部分改修を繰り返した既存配管・ダクトの状況の把握は非常に困難を極めた。また、配管類が多重になっており目視調査のみでは現状の把握に限界があった。そこで、3Dスキャンを用いた3次元データを用いて耐震補強箇所の検討に活用した。耐震補強の検討のみならず、既存図面で不足している情報を補足するのに非常に有効であり、今後も同様改修プロジェクトでの活用を期待できる。



機械室：配管・ダクト状況



機械室：3Dスキャン(断面)



よし だ
吉 田 淳

生 年 月 1983年4月兵庫県生まれ
最終学歴 2008年広島大学大学院
工学研究科社会環境システム専攻卒

業務経歴 2008年藤竹中工務店入社
2009年大阪本店設計部
2014年大阪本店設備部
2016年大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト

2010年 神戸トヨペット御影店
2010年 吉野石青神戸研修センター
2011年 ケントク本社ビル
2011年 明治安田生命京都空調改修
2012年 アマダ小野第一工場
2013年 三社電機滋賀工場3期棟増築
2014年 ダイキンオードシエル蓼科Ⅱ期増築
2017年 明星産商高知本社第二工場
2018年 ダイキンアレス青谷Ⅱ期

■青年技術者のことば

私は、設備設計者として建物を計画するに当たり、建築主の想いを代弁するものとして、建物の利便性や快適性のみではなく、その建物に求められる企業のニーズや社会的ニーズを抽出し、設備の視点からできる解を探索している。またその解が他にはない、『個別解』となるよう、常にチャレンジ精神をもち、関係者とともに新しい技術の導入などを通じて、建築主の想いに向き合っている。本計画に取り組むにあたり、建築主が置かれる社会的なポジションや、この建物の持つ発信性の強さに着目し、既往技術を応用したアイデア商品や、社会のニーズであるグローバル化・IT化に対応する設備計画を行い、利用する社員の『気づきの場』となるよう計画を行った。今後もその時代の流れや建物のニーズに合った、省エネルギーシステムや快適な空間を創造して、建築主の想いに答えていくとともに、目まぐるしく発展していくIT技術などを関係者と協業しながら建築設備に取り入れ、技術開発を通じて設備技術の発展に臨んでゆきたい。

■すいせん者

椎葉隆代
(株)竹中工務店 大阪本店
設計部 設備部長

ダイキンアレス青谷Ⅱ期における設備計画

1. 設備計画のコンセプト

本計画は、周辺環境を生かした施設として、塩害地における『環境との融合・調和』というテーマにチャレンジしたプロジェクトである。さらに、グローバル研修所という施設特性に配慮した“多様性に適合する空間づくり”を目指している。設備計画は下記を主要な基本コンセプトとした。

- ①寒冷地・塩害地における空調設備の機能性と省エネルギー性の両立
- ②半外部における空間の多様性を創出する設備計画
- ③宿泊室の快適性を向上する設備計画
- ④施設FM管理へのBIM利用



建物外観

2. 具体的な取り組み

2.1 寒冷地・塩害地における空調設備の機能性と省エネルギー性の両立

寒冷地・塩害地である厳しい外部環境に曝される機器を最小限とし、安定した継続運転を図るため、水冷式パッケージエアコンを主体とした個別空調方式とし、熱源水の冷熱源を密閉式冷却塔フリークーリング、温熱源を高効率空冷ヒートポンプチャラーとし、水蓄熱槽を組み合わせることで運転時間帯の選択を可能としつつ、チャラーの冷房バックアップ運転により、システムの安定化を図った。さらには建物の用途別による空調吸放熱や、研修用コンプレッサー廃熱、井水熱利用などにより建物内の熱循環を行い、環境にやさしい高効率なシステムを導入した。(図1)

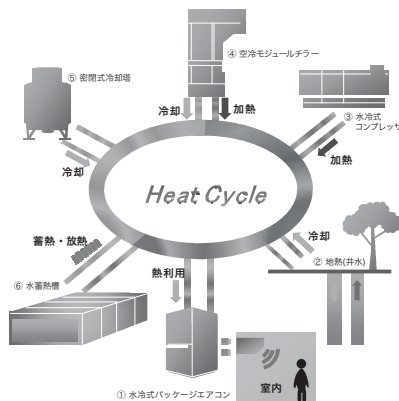


図1 熱幹線概念図

2.2 半外部における空間の多様性を創出する設備計画

宿泊棟と研修棟を結ぶブリッジ空間であるホワイエを、自然の香りを感じ、多様な空間を創出する半外部と位置づけ、様々な工夫を行った。

2.2.1 自然換気システム

各種センサーに連動して自律駆動する自然換気システムを導入した。当該システムは屋内外のエンタルピー差及び外部風向風速などの情報により、塩害などのリスクを排除して選択的に外気を取り込むことを可能にした。

2.2.2 照明制御システム

照明は自然との調和を意識して日の出から日の入りまでの太陽光色温度時刻変化に合わせた、ダウンライトの調光調色シーン制御を行っている。また、日照シミュレーションにより計画した軒の深い庇で直射光を抑制し、落ち着いた空間を演出している。

2.2.3 スポット空調システム

温冷感の異なる多国籍の研修者が好みの空間を選択できるよう、個人感覚に対応して変化するスポット空調を内蔵した家具を開発して各所に配置し、多様な空間を形成する空気空間作りを目指した。具体例を以下に示す。

2.2.3-1: 研修後の発汗した体を急速冷却するクーリングスポット

研修後の急速冷却を目的としてクーリングスポットを導入した。表面の3つのボタンにより、個人の発汗状態に対応可能な3段階のモードを選択し、冷風と循環気流の出力を変更し、急速冷却するシステムである。(図2)

2.2.3-2 個別の温冷感に対応した円形空調ベンチ

気流につつまれ、安らぐ空間づくりを目的として製作した円形空調ベンチを導入した。通気性を高めて内部をチャンバー化した穴あきウレタンベンチに、隠蔽ダクト型エアコンと循環ファンの気流を吹込み、空気が均一に漏れ出す仕組みである。2ユニットで構成され、座面及び背面から包み込むように吹き出し、還気を中央の床面スリットによって循環させることで、スポット空調を成立させて冷却効果を高めている。(図3)

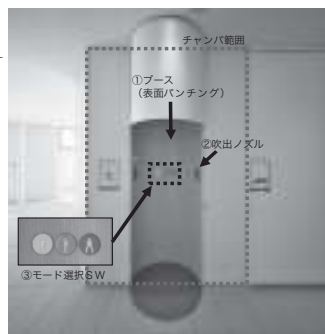


図2 クーリングスポット

2.3 宿泊室の快適性を向上する設備計画

シングルルームで構成される宿泊室において、個人の趣味嗜好及び使用シーンに応じて空間が調整できるように、照明調光調色・空調モード変更・アロマ選択など多機能化を図った。また、これらを一括制御するルームコントロールユニットを導入し、開発したアプリをインストールしたタブレットで制御することで多言語化を図るなど、使いやすさに配慮した。また、利用シーンに応じた適切な環境を提供することを目的に、推奨シーン設定を複数登録し、利用者自身が求める利用シーンを選択できるようにしている。また、そのシーンからの変更操作履歴(差分データ)を蓄積し、シーン設定づくりの基礎研究に活かす統計データを提供できる仕組みとしている。

2.4 施設FM管理へのBIM利用

今回、設計・施工を通じて構築された建物情報モデル(BIM-FMモデル)を活用した施設の運営・管理を行う取り組みを行った。BIM-FMモデルとは、設計施工モデルにメンテナンスに必要な、属性情報・故障履歴等を入力したモデルである。有効なモデルとするため、以下4点に着目して、開発を行い、運用時の利便性の向上を図った。(図4)

- (1) 空調設備系統毎の見える化
- (2) 取扱説明書・完成図のリンク
- (3) 設備機器台帳とBIMモデルのリンク
- (4) タブレットによる現地での見える化

この取り組みは建築主・設計施工・ビル管理の3者で協業し、運用しながらスパイラルアップを継続している。

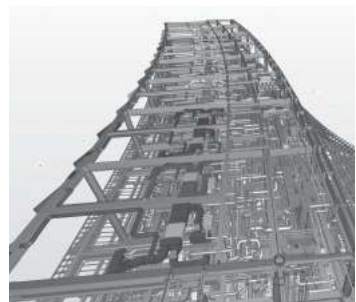


図4 BIM-FMモデル
(空調系統見える化)

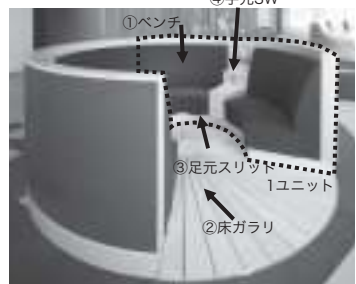


図3 円形空調ベンチ



よし だ ひろ き
吉田 裕 紀

生年月 1983年11月奈良県生まれ
最終学歴 九州大学芸術工学府
音響工学専攻修了
業務経歴 2009年㈱大林組入社
大阪本店設備設計部
所属

●担当した主なプロジェクト
2010 シティタワー宇都宮新築
2011 アステラス製薬研究所改修
2012 本田技術研究所震災復旧
2012 オリックス錦ビル新築
2015 祥水園新築
2016 大林組大阪機械工場新築
2016 長浜キヤノンA棟建屋再編
2017 済生会吹田病院改修
2018 京都四條南座耐震改修工事
2019 元清水小学校跡地活用計画

■青年技術者のことば

近年、社会のニーズが、スクラップアンドビルドから既存ストックの活用に移る中、入社以来、多くのリニューアル物件に携わってきた。リニューアル物件は、新築物件と違い施設を実際に使用している人から生の声を聞けるメリットがある。また、時代の流れにより、災害対策（BCP）や長寿命化、省エネルギー化及びIoTの導入等の新たな設備の要求も求められてきている。

リニューアル物件は、先人たちが築き上げてきた設備技術に触れる機会が多く、そこに新たな要求や新技術を盛り込み、発展させていく検討が必要になってくる。これは、①設備的な技術力、②創造力、③建築的な知識、④経験が必要となることで、設備設計者としての醍醐味が増すと考える。

これからも新築、リニューアルに関わらず、様々な視点から物事を捉え、施主に寄り添った設計を行っていきたい。

■すいせん者

西脇 里志
㈱大林組 大阪本店
建築事業部設備工事部 部長

京都四條南座における設備改修計画

昭和4年（1929年）に竣工し、歌舞伎発祥の地である京都四條河原に建つ南座（写真1）の耐震工事の基本設計から竣工まで空調衛生設備設計者として携わった。改修のコンセプトは建物の強度を高めるとともに、脈々と引き継がれてきた「桃山風の外観」と、古来の伝統を受け継いだ内装により「華麗で典雅な内部空間」を保存再生することであった。

設備計画のアプローチは、平成3年（1991年）に大改修工事が実施された時に、設備機器が更新されていたため、既存設備システムを踏襲することから始めた。しかし、改修から約30年が経過しており、様々な検討事項や要望事項が提示され、これらの項目を解決するために、空調システムの変更や客席空間の快適性向上を目指した設備計画の提案を行った。

●空調計画

南座は創建当時、空調設備は設置されておらず、これまでのリニューアル工事に段階的に空調設備を導入してきた。そのため、ダクトの納まりが非常に厳しく、各所のダクトルートを確保する必要があった。特に、大空間である客席（写真2）の空調機は、興行場法により50,000m³/h以上の風量が通過するダクトを納める必要があった。そこで、近年の劇場で多く採用されている快適性に優れた床吹出空調の検討を行った。しかし、納まりに難しく、既設と同様に単一ダクト方式（天井吹出、壁床吸込）を最終的に採用した。



写真2 舞台から客席を望む

●点群データを利用した空調気流解析

今回、リニューアル前の状態を保存、鉄骨補強の施工検討するため、3次元スキャナーを使用し、3次元座標及び点群データの計測を行った。（図1）点群データは、近年リニューアル工事の現場調査によく利用されており、現況を正確に把握することができ、リニューアル計画や仮設計画に活かされている。南座は創建当時の図面が実在せず、平成3年に行ったりリニューアル工事時に実施した実測を基に作成した図面しか残っていなかった。そのため、建築では鉄骨部材製作のため、点群データに実測図面を重ね合わせ、現状とのずれを確認し、無駄な手戻りがないように検討した。今回、この点群データを設備計画でも利用できないかと主体的に検討を進め、点群データから取得したBIM3Dモデル（図2）を利用し、客席空間の気流解析を行った。（図3）その結果、より実態に近い解析結果を得ることができ、制気口の配置や適正な風量設定の検討に使用した。



写真1 建物外観

●舞台部へ置換空調の導入

舞台は歌舞伎役者が非常に重い衣装を身にまとい、スポットライトの中を縦横無尽に動き回るため、常時冷房が必要な空間となる。一方で、緞帳の揺れや演出による紙ふぶき、ドライアイスの乱れ等を懸念し、気流を発生させる機器の使用が難しい場所でもある。また、舞台は高さ15mを超える大空間のため、通常の空調機では空調効率が悪くなってしまう。既設では、舞台袖で舞台役者に直接気流を当てるスポット空調機を設置していたが、舞台中央部に対する空調機は設置していなかった。今回、舞台中央部分に対しても何か空調設備を設置できないかという要望があり、過去の物件において導入し、竣工時に温度測定を行い、一定の評価を得た置換空調システム（写真3）の導入を検討した。



図1 取得した点群データ

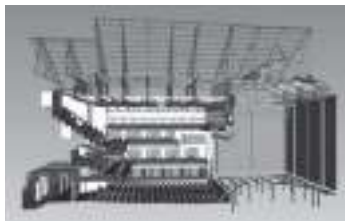


図2 点群データ3Dモデル

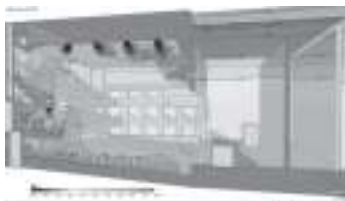


図3 3Dモデルを利用した気流解析結果

置換空調システムは、室内の発熱物体から発生する熱上昇気流を利用することにより、室内温度よりやや低い温度の空気を低速で吹出すことで、気流を感じさせず、居住域に良好な空気質を提供する換気・空調システムである。低速で吹出すため、緞帳の揺れや演出に悪影響を及ぼすことなく、舞台全体を効率的に空調することができる。また、居住域のみを空調の対象としているため、空調機の風量が抑えることができ、一般システムより吹出温度を高く設定できるため、省エネルギー性が高いシステムである。

今回は、気流解析の結果（図4）から、スポットライト等による舞台上の輻射熱により、温度成層が形成されることを、上手下手の舞台袖に2台置換空調吹出口を設置することとした。熱源は客席用のGHPチラーを流用し、空調機はファンコイルユニットによる二方弁制御での温度管理とした。この置換空調システムを導入することで、演出の邪魔をせずに、舞台を空調し快適空間を形成することができた。



写真3 置換空調吹出口



図4 舞台空調気流解析



あかし けんじ
赤尾 悟史

生 年 月 1983年 8 月大阪府生まれ
最終学歴 2008年京都大学大学院
工学研究科都市環境工学
専攻修了

業務履歴 2008年㈱竹中工務店入社
2009年大阪本店作業所
2011年大阪本店設計部
プロダクト建築
施工グループ
2011年大阪本店作業所
2018年大阪本店技術部
計画 2 グループ

●担当した主なプロジェクト
2009年 アクティ大阪増築
2011年 灘中高校校舎
2013年 ヤンマー新本社ビル
2015年 河合塾大阪校区進館
2015年 ダイキン工業淀川TIC
2015年 塩野義杭瀬CMC研究棟
2016年 GLP吹田倉庫
2018年 GLP寝屋川物流センター

■青年技術者のことば

建築における環境配慮設計はその技術革新が著しく、それらを実現するためには施工分野においても新工法の開発が必須である。私はどのような設計に対しても、課題を解決しながらそれらを実現できる高い施工技術力を持つことが施工技術者としてのあるべき姿だと考えている。

また、行政による「働き方改革」により、建設業においても完全週休二日制の導入を目指しており、これまで以上に生産性を向上させることが強く求められている。私はこれまでの経験で身に付けた専門知識・技術・ノウハウを最大限に活用すると共に、デジタルコンストラクションなどの推進によりさらなる生産性向上を目指した工事計画の立案、実施に強い意志を持って挑戦し、今後の未来を担う若年層が建設業に携わりやすい環境づくりを行い、魅力のある建設業の実現を目指す。

■すいせん者

永野浩一
㈱竹中工務店 大阪本店
技術部 部長

建築生産における環境負荷低減と生産性向上への挑戦

●外装アルミパイプルーバーを利用した高層壁面緑化への挑戦

・工事概要と課題

本建物は、建築物の環境性能の総合評価指標「CASBEE」の大阪市版である「CASBEE 大阪みらい」において最高ランクとなるSランクの取得のための取り組みの一つとして、幅23.7m、高さ52mの壁面緑化による環境性能向上が計画されており、高層かつ建物の外装を形成するアルミパイプルーバーと調和した壁面緑化の実現が求められていた。原設計では、直径100φのアルミパイプルーバーの中にプランターを配した水耕栽培による壁面緑化が計画されていたが、水耕栽培では細菌や根腐れによる枯木や漏水による第三者被



写真1 全体竣工写真

害のリスクが非常に高く、土耕栽培への変更が必須であった。また土耕栽培を採用する上では、高層特有の強風による客土や植栽の飛散、溜水による根腐れ、植栽の夏季・冬季の温度変動への耐久性に課題があった。

・計画と実施

私は生産設計のグループリーダーとして課題解決を図るため、設計者及び社内技術研究所の専門家、専門工事会社による定例会議を主催し、以下の対策を行い新しい壁面緑化システム（緑化ルーバー）を考案した。

①強風対策：軽量土を不織布の防草シートで包んだ植栽ユニットを考案し、プレファブ化した植栽ユニットを屋外にて育成し、十分に根を張らせることで客土や植栽の飛散を防止した。
②根腐れ対策：溜水による根腐れを防止するため、アルミパイプルーバー

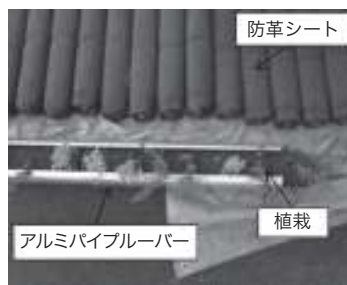


写真2 緑化ルーバー

と植栽ユニットの間に排水層・空気層を設ける工夫を行った。

③温度変動による耐久性確認：空気層による温度変動を最小限に抑えると共に、新築建物と条件の近い建物の屋上にてモックアップを製作し、夏季・冬季を通じた温度変動や生育状況の確認を行い、実現性を確認した。

・成果

本取り組みにおいて、関係者と協力し外装アルミパイプルーバーを利用した新しい壁面緑化システムを考案することで、高層での壁面緑化を実現し、環境性能の向上に大きく貢献することができた。当建物は「CASBEE 大阪みらい」Sランクを取得し、環境性能の高い建物竣工引き渡しから4年以上が経過した現在も壁面緑化は良好な生育状況を保っている。



写真3 緑化ルーバー外観

●短工期大型物流倉庫における生産性向上の取り組み

・工事概要と課題

本工事は建築面積約40,000㎡、延床面積約160,000㎡という広大かつ全工期18カ月の短工期プロジェクトであり、以下の大きな課題があった。
①期中の作業人員不足が懸念されており、限られた人員の中で膨大な工事を消化する必要がある。②工事期間中に建築主の直営工事であるマテリアルハンドリング機器工事や自動ラック機器工事が予定されており、倉庫稼働に向けて少しでも早く直営工事に作業エリアを引き渡すことが建築主の強い要望であった。



写真4 全体竣工写真



図1 PC化・ユニット化部材（基礎）

・計画と実施

私は躯体工事及び内装工事のリーダーとして施工管理業務を行い、課題を解決するため、

①躯体工事における鉄筋コンクリートのプレキャスト化、鉄筋、型枠、デッキ工事のユニット化を可能な限り多くの部位で実施し省人化を図った。
②防火区画工事の内、シャッター工事についてユニット化を行い、仕上げ工事を効率的に行った。



写真5 基礎大梁のPC化



写真6 スラブ筋のユニット化

・成果

本取り組みによって限られた作業員で作業の平準化を図ることができ、大幅な省人化を達成することができた。また、安全確保、品質確保、工期短縮にも大きく貢献することができた。また、仕上工事のうち防火区画工事を効率的に行うことで直営工事の乗り込みを竣工引き渡し前に建築主の要望通り行うことができ、建築主の高評価を得た。



写真7 シャッターユニット工場組立



写真8 シャッターユニット現場付付



あら き ひで き
荒木 秀樹

生年月 1983年6月大阪府生まれ
最終学歴 2002年大阪府立西野田工業高校卒業
業務経歴 2002年鹿島クレス㈱入社
2018年鹿島建設㈱入社
●担当した主なプロジェクト
2002年 住之江スポーツビレッジ新築工事
2004年 阪神春日野道駅改良工事
2005年 ボルシェセンター西宮新築工事
2007年 住友ゴム工業新技術棟関連工事
2010年 小松製作所開発棟他新築工事
2011年 エクセディ本社ビル新築工事
2013年 カン研究所PI新築工事
2015年 阿波銀行神戸支店新築工事
2016年 大室整形外科入院棟増築工事
2017年 ホテルモントレ姫路新築工事
2018年 ヨドバシ本社ビル新築工事

■青年技術者のことば

子供の頃から建物を作る事に憧れ建設の道に進んだ。職人さん一人一人が手間暇をかけ建物を作る技術はやはり日本ならではの職人技と言える。
昨今、ICT化やロボット化の進歩により、生産性が向上した反面、職人の技が減ってきたようにも思われる。労務不足という大きな問題を抱えている今、機械に頼らざるを得ない状況ではあるが、日本伝統の技術、職人さんの手先、指先に込められた想いを継承していく義務を我々は担っている。これから何十年と物づくりに携わっていく中、技術の伝承と働き方の改革を青年技術者として努めていきたい。

■すいせん者

河原慎治
鹿島建設㈱ 関西支店 建築部
建築工事管理部長

働き方改革に向けた取り組み～小さな事からコツコツと～

●工事概要と課題

建設業界の現場で活躍が期待される30～40歳代の労働者人口が不足している現在、我々世代の建設技術者が先輩からの教えを基に「受け継ぐ技術」、そして我々自身が生み出す「新しい技術」、の双方を習得することは一人、一企業だけでなく建設業界全体の課題だと捉えている。また、建設工事は殆どが請負業であることから、求められた建物でなければ造ることのない単品生産であり、我々建設技術者は自らの好みで工事を選ぶチャンスは少ない。ランドマークとなったり、高度な技術力や解析を必要とする工事を担当する機会のごく限られた技術者に与えられると言っても過言ではない。
今回私が担当した工事は、建物規模、工期、技術的難易度において言うならば一般的なものである。しかし、この一般的な工事こそ、青年技術者が最も多く携わる工事でもある。一般的と言われる工事で、改善や工夫の眼を養うことが建設業全体の技術レベルを向上させる事に繋がる。工事の規模が小さいことから、一つ一つの効果は数値として現れ難いが、建設技術のレベルアップや地球環境保護に対して取り組んだ事例を報告する。

●防音パネルを用いた騒音対策と採光確保

病院の増築工事であることから、既設病棟への騒音対策として防音パネルを採用した。一般的に用いられる防音シートとの大きな違いは採光と衝撃の吸収である。元からある環境に建設工事が与える影響（ストレス）を最小限に抑える環境配慮も建設技術である。入院患者へのストレスリスクを着工前に抽出し新築工事着手前に仮設防音壁を設置することで工事期間中の苦情をいただくことなく竣工させた。



防音パネル取付後全景

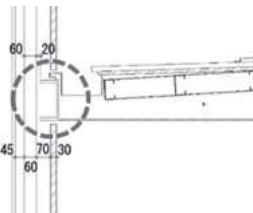
●工程短縮に向けた鉄骨建方計画の立案

完成した建物の形は同じであっても、造る過程・工法は千差万別であるところが我々現場施工に携わる者にとっての醍醐味である。1節2層の鉄骨建方計画として、移動式クレーンを使用する建方工法とした。1階床躯体工事を早期に着手させるため、建屋内にクレーンを配置しない計画を模索した。これらの条件を優先させると予定していた能力のクレーンでは揚重できない柱がある。施工方法は幾通りも検討したが、鉄骨柱を分割して建てることで、揚重能力をカバーし、1階床の躯体工程を計画通り早期に着手した。設計変更に係る協議、工法比較に係るコスト検証、一つの設計図から、複数の施工方法を検討し、最適な選択を積み重ねる経験が得られた。

●品質（納まり・改善）

■BIMの活用

着工初期の段階からBIMを最大限に活用し、外壁止水ラインと干渉していた底鉄骨の納まりを改善した。BIMは、今ある情報を正確に組み立て、色々な角度から見せてくれる大変便利なツールではあるが、見つけ出した干渉ポイントなどをどう解決するかを決めるのは我々建設技術者である。便利なツールに頼ってばかりいては技術力の向上は望めない。時間を掛けていた作業を短時間でしかも正確にやってくれるツールであることを認識し、さらに技術レベルを高める努力を続けたい。



検討図-1



検討図-2

■RC外壁をサイトPCa化

決して広いとは言えない敷地の一角を利用して、RC外壁の一部をサイトPCa化した。工程短縮や労務削減の効果を期待しての挑戦であったが、垂直方向の部材を水平方向に変えて施工する事は、より精度の高い（精度を確保しやすい）施工方法と言える。当初期待していた型枠工、鉄筋工の労務についても5割の削減を達成した。



PCa材（コンクリート打設前）



PCa材（吊込み、設置）



PCa材（設置後全景）

●安全訓練とフェールセーフ

ひと度発生すると重症度の高い墜落災害を当現場では絶対に出さない対策として新規入場者への安全帯使用訓練を実施した。敢えてバランスの悪い仮設通路を設置し、安全帯を使用する重要性を再認識させた。また二丁掛け安全帯の訓練をさせるために安全帯の掛け替えが必要となる手摺を設け、朝礼時に実施した。訓練を終えた作業員には、ヘルメットに貼る現場独自のステッカーを配布し達成感も持たせることで安全意識の向上も計った。



安全帯訓練場

また万一の場合も想定して、車輛の荷台から転落しても重大災害に繋がらない様、衝撃吸収マットを設置した。荷台上で親綱を張り安全帯を使用して作業していても安全帯が利くまでに着床してしまう場合があるリスクをも排除するため、フェールセーフとして採用したものである。写真は設置状況である。この取り組みもあり、工事期間中の無事故無災害を達成した。墜落災害防止に係る安全設備を整備していても、そこで作業する者が安全ルールを守らなければ意味を成さない。そこで安全設備を充実させるとともに作業員の行動心理（ヒューマンエラーの防止）に訴える手段に出ることとした。これらの取り組みを通して作業員の安全意識が高めることが無事故無災害を達成させることに大きく貢献した。



荷台作業転落災害対策マット

●まとめ

今回の取り組みを通して、周辺環境やその背景までも考慮した施工方法を選択することは、生産性の向上、工程の短縮、そしてコストの縮減に繋がり、施工サイクルを好循環させる非常に大切な要素であると体感した。我々青年技術者のこれからの課題は、働き方改革による時短への取り組みと、短い時間でより精度の高い成果を要求される時代となる。いかにBIMなどのITを活用し一人の力で今までの二人三人分の働きができるか現場の規模に関係なく問われることとなる。働き方改革に向けた取り組みは今後も大きな課題となることは間違いなく、我々技術者に課せられた試練だと捉え、先駆的な働き方を示す建設技術者として邁進し続ける。



くま だ けん た
熊田 健太

生年月 1992年12月埼玉県生まれ
最終学歴 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了
業務経歴 2017年西松建設㈱入社
2017年本社 建築設計部
2018年関東建築支社
麹町五丁目工事事務所
2019年本社 技術研究所
●担当した主なプロジェクト
2017年 恵比寿南二丁目計画
2018年 麹町五丁目新築計画

■青年技術者のことば

近年、都市部では隣地に近接した条件下で山留め工事を行う場合が多く、周辺環境に与える影響に対して適切な設計・施工管理が必要であり、技術者の責任は大きいと考えられる。

私は、入社1年目で建築設計部の構造課に配属され、2年目で現場に配属された。現場は、既存躯体の解体や鉄骨建方工事など様々な工事が行われている状況であった。今回、構造検討を含めた山留め工事の計画から実際の施工管理までを行う貴重な経験をした。その中で、山留め計画には、構造的な条件だけでなく材料や施工重機の選定等の施工的な条件を踏まえた総合的な判断が必要であることを実感した。また山留めは仮設構造物なので建築設計に関わる制限に比べて山留めの設計に関わる制限は少ないため、柔軟な発想で計画する必要があることを実感した。今後は、研究職として技術開発に携わる予定である。現場で経験したことを活かして技術開発を行い、そこで得られた成果やノウハウを現場に還元して役立てる取り組みを続けていくことが自身の役割であると考えている。

■すいせん者

橋佐古敬次
西松建設株式会社
関東建築支社 支社長代理

本設躯体を利用する大深度の根切り山留め工事の施工計画について —アイランド工法に伴う鉄骨躯体の検証—

●工事概要と課題

計画建物は、地上22階、最高高さ130mの事務所ビル（S造、柱CFT造）である。計画敷地は崖地であり、地盤は既存建物の一部を利用して支持されていた。本工事では、崖地の地盤を支持しながら約19mの根切り工が必要であり、山留め支保工は偏土圧が作用するため主に地盤アンカー工法で計画した。しかし、計画敷地の東側では、山留め壁と隣地躯体が近接しており、山留め背面側に地盤アンカーの必要な定着長を確保できない課題があった。一方で、西側には残置された既存躯体があり、東西方向に切梁を架設することができないため、山留め計画は困難を極めた。私は、建築設計部の構造課から本現場へ異動して、主に山留め工事の施工計画とそれに伴う構造検討に携わった。本稿では、本工事の山留め工事の施工計画と私が担当した構造検討について報告する。

●アイランド工法の計画

上述の課題に対し、施工範囲を先行・後行工区に分け、図1に示すアイランド工法による根切り山留め工事とすることで解決した。図2に、施工ステッ

プを示す。

STEP-1：山留め壁を二重に設けて地盤アンカーを打設できるだけ地盤を残し、先行工区を掘削。
STEP-2：先行工区の鉄骨建方および地盤アンカーの撤去。
STEP-3：切梁を本設躯体に架設して山留め壁を支持しながら、後行工区の掘削。
STEP-4：床付け後、擁壁躯体工事を進めながら切梁を解体して、後行工区の鉄骨建方を行い完了。

地盤の高低差が約19mと大きいため、大きな土圧が作用することが想定され、山留め支保工の安全を確保するには、本設躯体に確実に反力を負担させる必要があった。そこで切梁3段を本設スラブと同じレベルに設置することで、スラブに作用する切梁反力を鉄骨架構全体に負担させた。図3に山留め支保工計画図の一例を示す。本設スラブと腹起しの間に仮スラブを設けることで、荷重を本設スラブに直接作用させずに分散させる計画とした。また1段目支保工の最も南側の切梁については、山留め壁からスラブまでの距離（31.9m）が長い集中切梁とした。

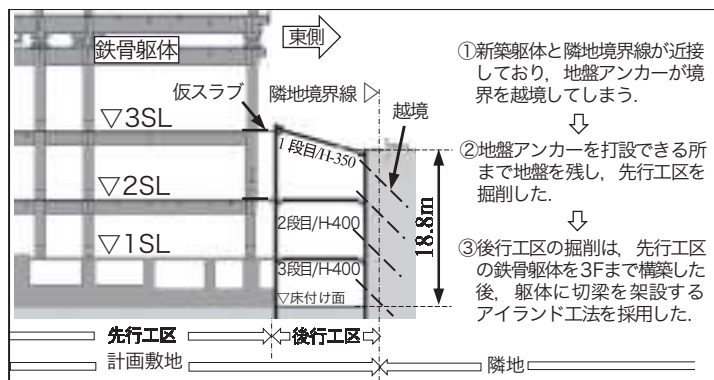


図1 計画上の課題とアイランド工法の概要

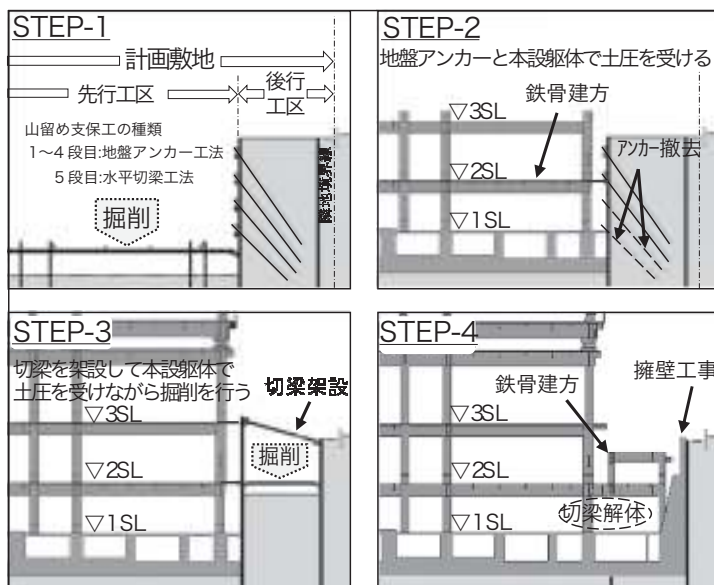


図2 施工ステップ

●本設躯体の構造解析

切梁反力を本設躯体に作用させるため、構造解析を実施して施工時の安全を確認した。現場で行われた「山留め施工検討会」で提案された切梁の位置や荷重に基づいて、汎用構造解析プログラムを用いて解析モデルを作成して、応力を算出した。切梁反力は、計画部門と連携して山留め弾塑性解析プログラムを用いて計算した値を、水平方向の等分布荷重として設定した（図4）。解析結果に基づき、柱・大梁・スラブに発生する応力は、部材の長期許容応力度以下であり、切梁反力を本設躯体が負担できることを確認した。

●まとめ

本工事では、アイランド工法を採用することで、根切り平面の全長に渡り水平切梁を架設する場合と比較して、切梁数を削減することができた。また構造解析を実施することで事前に安全を確認して工事を進めることができた。

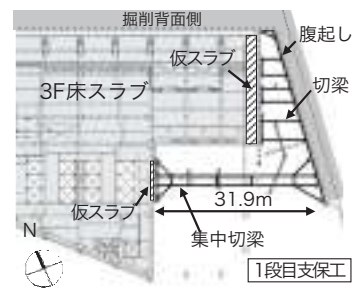


図3 山留め支保工計画図

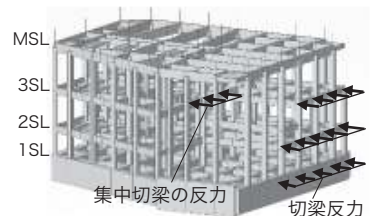


図4 解析モデルの概要



写真1 本設躯体と切梁

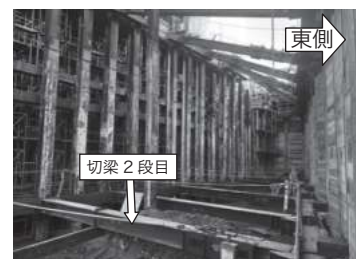


写真2 切梁架設状況



さくら い ゆう すけ
櫻井 勇 輔

生 年 月 1986年3月生まれ
最終学歴 2009年名古屋大学工学部
社会環境学科建築学コース修了
業務経歴 2009年㈱大林組入社
同年東京本社東京建築事業部
2015年大阪本店建築事業部
生産技術部計画第三課
現在に至る
●担当した主なプロジェクト
2010年 (仮称) 赤羽2丁目計画新築工事
2011年 (仮称) 毎日放送本社新館建設工事
2013年 (仮称) 大阪市中央区博労町3丁目開発プロジェクト新築工事

■青年技術者のことば

昨今、建設業界は都心の再開発やオリンピック関連施設建設をはじめとして建設投資が拡大している。大阪でも2025年に万博開催が決定し、加えてIRの誘致が実現すれば、大規模建設投資がさらに期待できる。一方で、労務人口は減少傾向を辿っている、かつ働き方改革の推進ということで、元請者は「いかに限られた労務の中で生産性を上げるか」という課題に対し、頭を悩ませている。

この様な状況下で本案件は「ダイオキシン除染」といった特殊要因がプラスされた工事であるが、私は当初計画から参画し、現場の方々と「作業効率の向上と作業員の安全」を第一に考えながら様々な提案を行った。ダイオキシン除染は実績や経験が少なく、関係行政も確実な見解を持っていない、手探り状態の中であったが、関係法令を読み解き、その内容を関係者に展開した上で、個々が持っている知識を結集、提案することで困難な課題を1つずつクリアすることができた。私にとって非常に有益な経験であったし、さらに飛躍していく上で間違いなく必要なスキルであると考えているので、今後もこの経験を活かし、どんな課題にも挑戦していきたいと思う。

■すいせん者

山口紀宏
㈱大林組大阪本店
建築事業部生産技術部
計画第三課 課長

廃棄物焼却施設解体に伴うダイオキシン除染工事の計画について

●概要

本稿は、ごみ処理施設整備事業に伴う既存ごみ焼却施設解体工事の内、ダイオキシン除染工事計画に関する報告である。焼却施設は2棟(旧ごみ焼却施設：旧ごみ、現ごみ焼却施設：現ごみ)あり、調査結果で比較的高いダイオキシン類濃度が検出された。大規模なダイオキシン除染工事は初めて携わる工事内容であるため、調査計画や施工計画など関係行政や監理者にどう立案すべきか手探りの状態であった。また、監理者の高い要求もあり苦心したが、関係法令を読み解いた上で下記の項目において、「作業効率向上を目指した合理的かつ安全な除染計画」を提案・実施した。

◆解体対象設備の事前調査

◆解体エリアの作業前計画

◆除染計画

なお、案件の建物概要は下記による。(既存建屋写真：図1)

工事名称：某ごみ処理施設整備事業に伴うダイオキシン除染工事

住所：兵庫県某市

元請：某プラントメーカー

2次：㈱大林組

●解体対象設備の事前調査

調査項目は大気中及び付着物等のダイオキシン類濃度測定である。今回は「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策について」という要綱及び厚生労働省通達の内容を用いて調査項目・測定箇所を適切に抽出した。結果、大気中は両施設共、再測定をする必要がなくなり、付着物等は旧ごみで半数以上測定箇所を削減した計画を労働基準監督署に提案し、了承を得ることができたため調査期間短縮及び調査コストの削減を図ることができた。

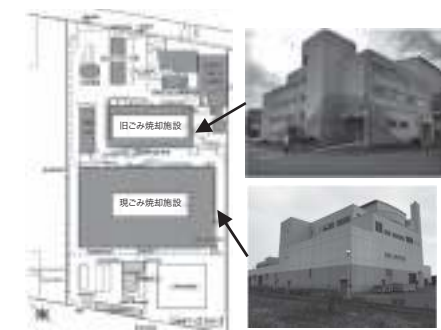


図1 既存建屋



図2 除染水流出防止状況

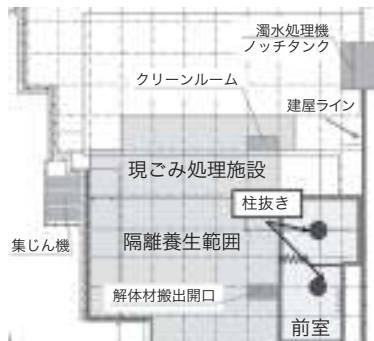


図4 現ごみ前室計画

●解体エリアの作業前計画

除染工事前計画として、「飛散リスクの確実な排除」「作業環境改善と作業員の安全確保」に重点を置き、下記提案を行った。

地下ピット流用：1階床に仮設排水溝を設置し、除染に使用した汚染水を地下ピットで集約。汚染水流出防止として床面のクラック調査を行い、適時補修・防水材を先行塗布することで仮設コスト削減及びリスク排除を図った。(図2)

作業足場：既設床等を使用し、必要に応じて枠組・単管足場を敷設。敷設作業時の保護具レベルは事前調査結果により、エアラインマスクを使用したレベル3となっていたが、ばく露防止対策要綱の特例措置を用いてレベル2とする提案を行い、作業効率向上を図った。

●除染計画

本案件は一次除染後、完全に除染不可能とされる機器及び継手・ボルト等の除染として二次除染をする必要があった。二次除染は機器細部の除染であり、機器の小払いが必須かつ工程に多大な影響を及ぼすため、負圧状態を保持しつつ解体重機を稼働しながら除染・搬出ができる様、前室を設ける計画を提案し、工期短縮を図った。(旧ごみ前室計画) 建屋内部にスペースがなく、建屋外部に枠組足場下地の仮設テント(10m×15m)を設置。0.7m3BHが動く大空間で、自立3段を越す高さとなり、壁繋ぎで風荷重に耐えることが不可能なため、テント入口を除く2方向に枠組足場をバトレス形状で補強する計画とした。(図3)(現ごみ前室計画) 隔離エリア手前に風除室があり、コスト・工期を考慮し、既存利用する計画とした。構造的

なプラン上、重機稼動範囲にSRC柱が2本配置されていたため、仮設補強を行い、当該柱を抜く提案をした。(図4) これらの提案により、解体重機を利用した合理的な計画となったが、風除室流用の現ごみでは、投入できる重機サイズが限定されてしまい、機器全てを重機解体できない問題が発生した。重機解体不可部分は手払解体となり、大きく作業効率が低下する可能性があるため、その対策として、機器配置状況を把握した上で、溶断作業下部及び除染ヤードにパトランプを設置し、人払いをしつつ機器内部に解体材を直接投下して1階にて回収する方法を提案。直接機器内部に投下できない解体材は仮設で門型レールを作成後、ホイストを設置して解体材を投下可能な機器まで水平移動できる提案をした。(図5)

●まとめ

関係法令を読み解きながら、様々な計画提案を行った。その中でも外郭躯体を残し、隔離空間を確保しながら、構造的な根拠を持ちつつ本体構造を撤去し、いかに重機を稼働させ、作業効率を向上させるかが非常に苦心した。仮設等のコスト・工程を考慮すると既設建屋利用計画がベターであると推測したが、現場の規模や機器の配置等に起因する部分もあるので、一概に正解と判断するのも難しいと考えられる。同様案件の計画の一助となる様、本案件計画の水平展開と実績の収集・分析による計画の深度化に努めていきたいと考えている。また、実施から、過酷な作業であることが十分認識できたので、AIやIoTを用いた省力化対策にも尽力していきたいと考えている。

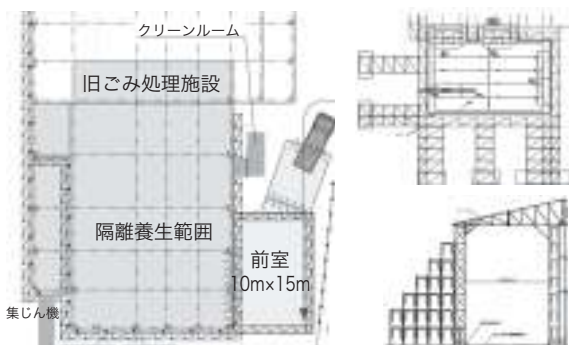


図3 旧ごみ前室計画

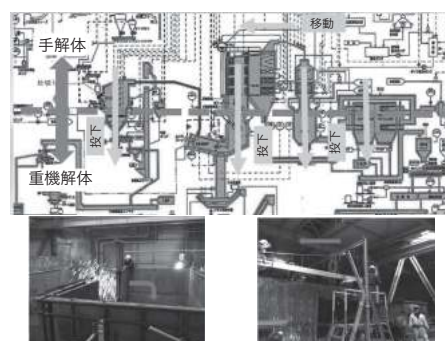


図5 手払解体計画



はし もと まさ あき
橋本 真 彰

生 年 月 1984年 8 月兵庫県生まれ
最終学歴 2007年大阪芸術大学
芸術学部建築学科卒業
業務経歴 2007年大成建設㈱入社
2007年関西支店建築部
●担当した主なプロジェクト
2007年 キリンガーデンシティ新築工事
2010年 東中学校改築工事
2011年 大津駅西地区再開発事業新築工事
2014年 学校法人龍谷大学瀬田学舎
農学部新棟建設工事
2015年 日東電工茨木事業所建設工事
2016年 京都経済センター整備事業
工事

■青年技術者のことば

私は幼い頃に阪神淡路大震災で被災した経験がある。本来、人を守るべき建物が変貌する姿を目の当たりにし、半壊した自らの家に恐怖で入ることができなかったことを鮮明に覚えている。

そのことから建物とは何だろうと考えるようになり、父親と一緒に自宅を修繕し、同時に街が復興していく姿を目の当たりにし「人」と「建築」に強い関心を持つようになった。今では「建築」を学ぶことがライフワークである。その建築への考え方の根幹には常に「人を魅了し、人を守る存在」としての建築を意識している。技術者として品質を確保し、より良いデザインを実現すべく日々モノづくりに挑戦している。

私の生涯の目標は「新しいことを創造し人に感動を与える」である。建築は創意工夫の集合体であり、多くの人の思いをつめこみながら、多くの人の力で作り上げる。このプロセスの中で技術者として固定観念にとらわれることなく柔軟に様々なアイデアを複合的にまとめる役割を担い、新しいことを創造していきたいと考えている。これからも人に感動を与える技術者としてさらなる高みを目指し挑戦を続けたい。

■すいせん者

西本伸男
大成建設㈱ 関西支店
副支店長

伝統と革新を結び付ける ～地下工事と外装工事～



完成写真

●工事概要

京都経済センター建設工事の発注者は、地元の経済・産業団体などで構成される。「京都経済百年の計」を掲げて地元経済及び中小企業支援の拠点の創設、及び四条室町エリアのさらなる魅了向上と活性化を図ることを目的として計画された工事である。建設工事は、2016年 4 月に旧京都産業会館（SRC造）と市営駐車場（RC造）の解体工事から始まり、地下既存躯体の一部を残し新築建物を施工し2019年 1 月に竣工した。

設計プロポーザルで入手した物件であり、設計施工の特性を生かし計画初期段階から詳細の納まり検討や解体工事から建設工事まで一貫した工事計画を行ったプロジェクトである。内外装工事のチームリーダーとして全てのプロセスに参画し、作業所の牽引役としてプロジェクトに携わった。

●外装工事の課題と施策

・課題

意匠性の高い外装デザインを実現するための、意匠性、施工性、耐久性、コストのバランス

・施策

(1) 縦格子の特徴把握と技術上の検討項目のリスト化

原設計はスチール製のT型部材に杉の集成材を取り付ける納まりであった。構造的にはサッシとは縁が切れておりh3. 88mの部材が上部吊り支持、下部振れ止め支持という納まりであった。

～検討項目～

1. 下地の種類
スチール製、アルミ製、木製
2. 台形の形状
下地部、木材部
3. 下地の二次部材の有無
ピースの数、製作手順
4. 木材の厚み
コスト、耐久性
5. ピス頭の処理
施工手順、意匠性
6. 木材の接着
全面接着、小口接着
7. 木材の耐久性
水対策、劣色対策
8. コストとのバランス
工場製作、現場施工

●地下工事の課題と施策

・課題

市街地での大規模な既設建物の解体工事から地下工事の合理化や安全確保

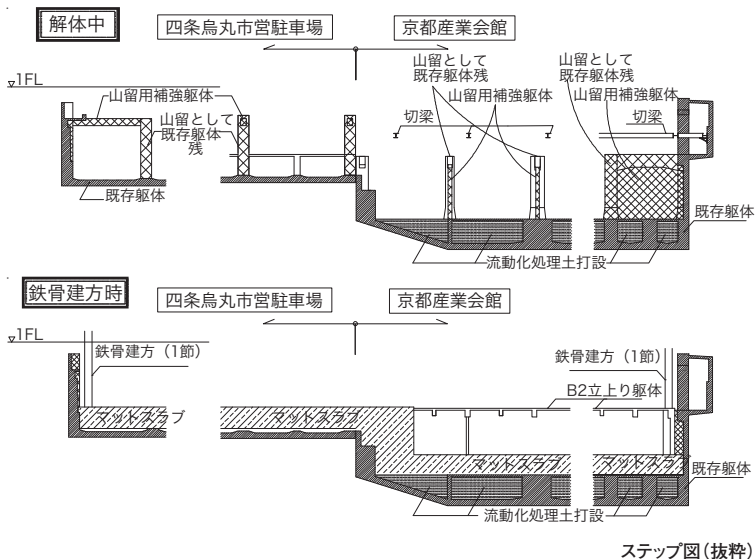
・施策

2つの異なる既設建物の山留工事フロー計画

既設建物は旧京都産業会館（SRC造）と市営駐車場（RC造）の異なる構造、異なる階数からなる。

本体工事はその2つの構造体を山留として使用する計画とした。

2つの異なる計画を実現させるためにフロー図にて作業を整理し、ステップ図を作成することで工程を可視化し手順の不具合防止や工程の整理に活用した。



ステップ図(抜粋)

(3) 多角的に隙のない納まりへ

- a. 片面アルミ型材と木を固定後嵌合した後に背面ビス止め
- b. 杉板の裏側からのビス止めにより意匠性向上
- c. アルミ型材と杉板材の間に隙間を取り、排水経路を確保
- d. ビス固定部に外部用の接着剤を使用し強度を向上
- e. 板厚を18mmとし、フローリング同様に木表にて取付
- f. サネ部のアルミ側（隠ぺい側）にクリアを設け施工性向上
- g. 天端はアルミ製蓋を取付、笠木として機能させ劣色防止
- h. 下端も蓋を設け、30mm程度浮かすことで劣色防止
- i. 万が一の水の侵入に備えて蓋には水抜きを設けた

●まとめ

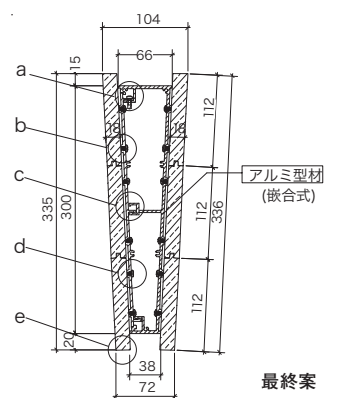
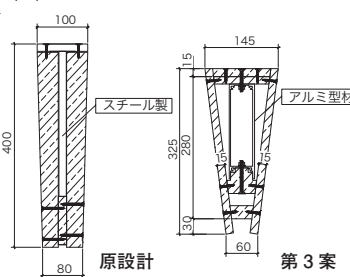
プロジェクトを通して得た成果は

- ①品質の向上 ②工期の短縮
 - ③無事故無災害の達成 である。
- 私の課題に対してのアプローチは固定観念にとらわれることなく、伝統的な工法や伝統的な意匠形状をいかにうまく組合せて、集大成である「施工」を安全かつ無事に迎えるかの検討を重ねることでした。検討するべき項目を事前に洗い出し、解決するという強い意志を持ち作業所を牽引したことで技術革新が実現できたと確信している。



縦格子バース

(2) 検討中でのステップアップ



最終案

全国に先駆けて歴史的建造物委員会を設立

中村陽二

一般社団法人岡山県建築士会 副会長

背景

2000年代に入り循環型、低炭素、自然共生などの持続可能な社会の構築へ向けた様々な取り組みが始まり、(2003年 (H15): 第一次循環型社会形成推進基本計画など)「グリーンツーリズム」、「田舎暮らし」といったキーワードのもと、ゆとりのある暮らしを求める人々による地方創生の動きが始まった。

その後、美しい景観を作るために美しい自然を守る、美しい町並みのために歴史的建築物を保全し活用する(2006年 (H18): 美しい国づくり→日本の文化・地域の文化、国際的観光資源、観光立国など)という観点から、観光まちづくりと歴史的建築物の関係が深まってくることになるが、実際に歴史的建築物を保全しようとする建築基準法等、現行法規への適合が難しく、やり方によっては歴史的価値を失う恐れもあり、安全確保との両立が難しいケースも出てきた。

■条例整備ガイドラインの策定

そこで国は2014年 (H26) に建築基準法第3条第1項第3号の規定「条例により、現状変更の規制及び保存のための措置が講じられた歴史的建築物については建築基準法の適用を除外する仕組み」の運用に関する技術的助言を出した。しかし「内容の自由度が高い独自条例の制定など、文化財保護条例以外の仕組みにより適用を除外している取り組みは限定的」であったことから、国は独自条例の制定等の取り組みを促進するため、条例制定のプロセスや留意点、安全性確保のための代替処置の事例などを盛り込んだ条例制定のためのガイドラインを策定した(2018年 (H30))。

岡山県歴史的建造物委員会の活動

岡山県建築士会は、全国に先駆けて「岡山県歴史的建造物委員会」をガイドラインが策定される4年前の2014年 (H26) に設立した。当時、参考になるものもほとんどないなか、

国による適用除外に関する技術的助言の内容を基本として、代替措置の検討が可能な専門家からなる組織を立ち上げ、受け入れ態勢を整えたばかりのところに旧吹屋小学校の審査依頼があった。

■高梁市立旧吹屋小学校の概要

旧吹屋小学校(写真1)は、先ごろ国宝に指定された旧開智学校と同じ1873年 (M6) の開校である。現校舎は明治33年の東校舎、西校舎と明治42年建築の本館からなる。平成15、16年に県指定重要文化財となった。規模は本館が木造2階建て766㎡。西校舎、東校舎が木造平屋で、計499㎡である。



写真1 旧吹屋小学校本館

■建築基準法適用除外に関する審査フロー

【審査依頼】

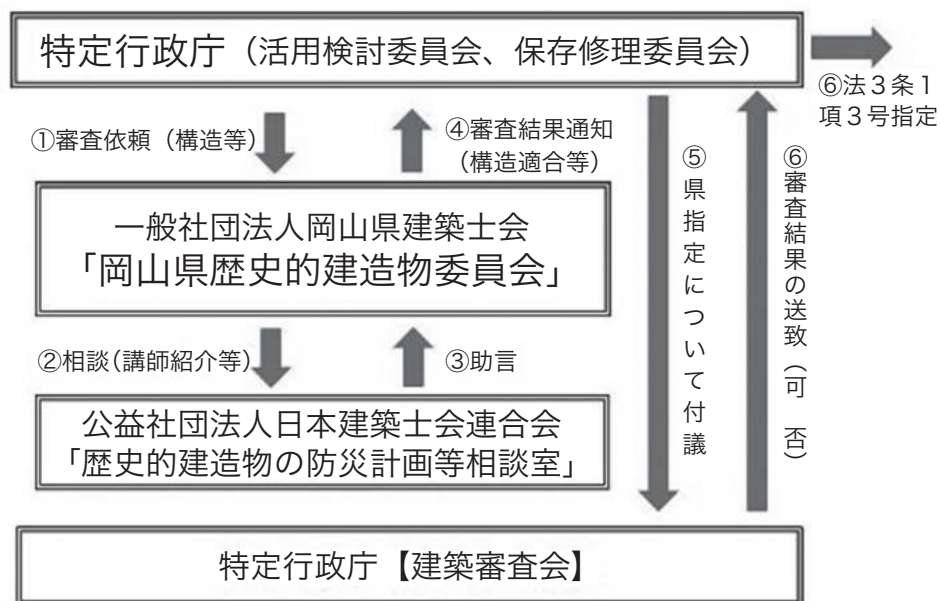
高梁市から岡山県歴史的建造物委員会に審査依頼(意匠・防火・避難規定等は検討済み)のため、構造耐力の審査のみ依頼を受ける)

【予備審査(物件概要の把握)】

各委員は委員会開催までに申請内容を事前チェックし、問題点等を予め事務局に返送(主なチェックポイントの例)

- ☐ 現況性能の評価(耐震診断結果について)
- ☐ 計算方法について(限界耐力計算)
→文化庁診断指針に沿う
- ☐ 計算の入力、設定の誤り等のチェック

- ☐ 目標性能の設定など(補強計画について)
- 【委員会開催(議題: 現況性能の評価と補強計画について)】
- ・構造耐力規定(現況の耐震性能の評価、補強計画の妥当性)を審議。委員会閉会后、岡山県建築審査会委員と共に現地視察
- 【物件の課題、問題点の検討及び審査の論点】
- ・設計者からの説明事項(概要)
 - ☐ 物件概要説明(本館、東館、西館など)
 - ☐ 計算方法(限界耐力計算)の説明と文化庁指針(層間変形角1/30rad)に基づく目標性能の説明
 - ☐ 変形角の出し方、疑似立体モデルで増分解析した際に使用した代表変位など
 - ・構造担当委員からの指摘事項等(概要)
 - ☐ 伝統工法の設計法及び性能検証実験検討委員会の最新マニュアル等も参照
 - ☐ 計算に当たっては、モデル化、入力、設定に誤りがないか慎重に精査すること
 - ☐ 荒壁補強を基本に限界耐力計算、或いは筋交い補強を基本に許容応力度計算で検討するなどの考え方もある・・・等
- 【指摘事項の審議】
- ・設計者の回答について審査を行う(数回)
 - ・全委員の確認を得たのち、設計者から最終案が提出され、確定とする
- 【委員会の審査回答】
- ・高梁市へ構造適合通知
- 【建築審査会の決定内容】
- ・岡山県建築審査会開催
決定内容→同意
- 【適用除外指定】
- ・岡山県が建築基準法適用除外の指定をする(※高梁市は特定行政庁ではないため)
(なかむら ようじ)



適用除外までのフロー

デザインエレメント
としての構造体

猪名川霊園礼拝堂・休憩棟

市川幸弘

株式会社大林組構造設計部 担当課長

猪名川霊園は兵庫県川辺郡猪名川町の山間に位置する墓園である。

本建物は墓園のゲートウェイとして、受付、事務室、礼拝堂、ビジターラウンジ等、実務的機能とスピリチュアルな機能を、共通したコンセプトのもと複雑に構成させ、かつランドスケープと一体化した、さながら岩のように見える作品として計画された。

2013年～2016年の3年あまりの設計期間を費やし創造した本建物は、建築主、設計者、施工者の思いのこもった作品となっている。

構造計画

建物構造は、ひな壇状の連続した斜面地の勾配に合わせてデザインされた片流れの屋根を持つ鉄筋コンクリート造である（写真1）。

コンクリートには赤土色のカラーコンクリートを使い、壁と天井は内外部共にサンドブラスト仕上げ、内部床には磨き仕上げを施し、素材の特性を十分に生かしている。さらに設計基準強度を30N/mm²以上、計画共用期間を長期とする事で、自然と共にエイジングする建物というデザインコンセプトに込めている。

デザインエレメントであり、構造体でもあるコンクリート躯体部分は、柱を壁に内包させ、柱型の出ないすっきりとしたデザイン、梁型を見せない屋根の工夫、壁を利用した架構形成等を織り交ぜながら、構造的にも緊張感のある美しい計画となるように配慮している。



写真1 礼拝堂エリア側より撮影

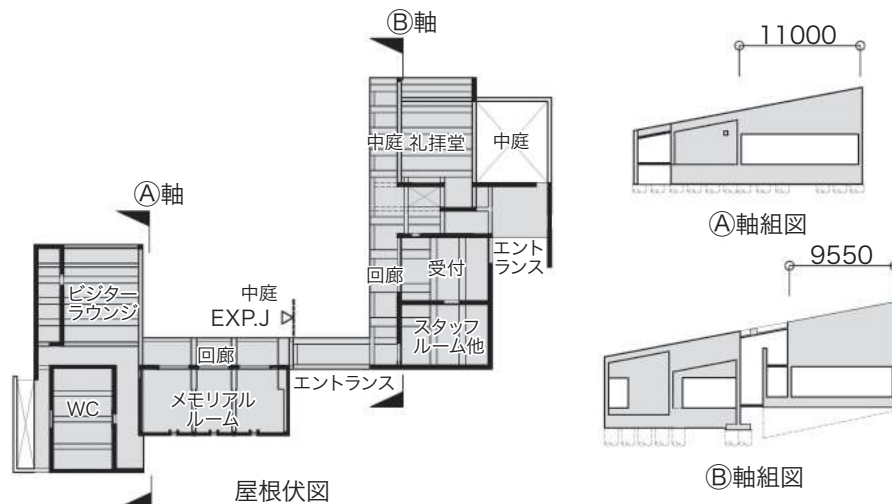


図1 屋根伏図および軸組図

無柱空間の実現

本建物は壁の多い構造でありながら、中庭と一体化させるための解放感のある無柱空間が存在する（ビジターラウンジ、礼拝堂）。

その実現のために、勾配により高さの変化する壁を梁として機能させ、ロングスパン架構を形成させた（図1）。

設計においては構造体をFEMで解析し、立体的な応力伝達機構の確認や変形の把握を行っている（図2）。



図2 FEMモデルによる検証

屋根、庇の工夫

礼拝堂屋根、回廊庇は、見付厚800mmの板状で、表裏にコンクリート素材、かつ断熱防水層を内包させる必要があった。

そこで、天井面を構造スラブとし、小梁を等間隔・逆梁として配置、防水・押さえコンクリート下地に、軽量気泡コンクリートを使用した中空構造を構成する事で、デザイン上、機能上の必要項目を満足させ、あわせて建物の軽量化を実現した（図3）。

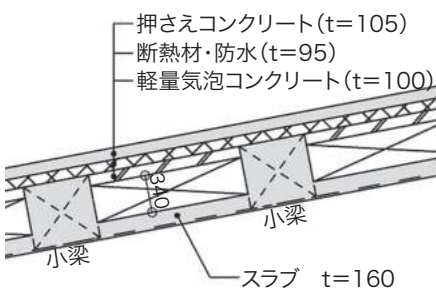


図3 礼拝堂屋根

エキスパンションジョイント

地震や四季の温度変化等による収縮に配慮し、構造体に設けたエキスパンションジョイントは、底面・側面の目地を揃え、載せ掛け・はめ込み式の形状とする事で、デザインに溶け込むディテールとした（写真2）。



写真2 エキスパンションジョイント

おわりに

本建物は、コンクリート躯体をデザインエレメントとして魅せるという要素が、コンセプトの中に織り込まれている。

実現に向けて、多くのスタディを繰り返し構造設計を行ったが、施工段階においてもコンセプトにこだわるテクスチャーを実現するため、配合、型枠そして工事アイテムに至るまで細心の注意を払い完成させたことで、デザインエレメントとしての構造体を実現することができたと思う。

〈建築概要〉

建築面積：631.08m²、延床面積：493.08m²

階数：地上1階、最高高さ：9.059m

Design Architect：David Chipperfield

Associate Architect：Key Operation

実施設計：株式会社大林組

（いちかわ ゆきひろ）

●市川幸弘

1969年生まれ。1993年大阪市立大学工学部建築学科卒業。1993年株式会社大林組入社。

【特別インタビュー】

神戸での西洋館保存と その頃一坂本勝比古先生 に聴く（前編）

坂本勝比古

神戸芸術工科大学名誉教授

記録・構成

玉田浩之

大手前大学准教授

坂本勝比古先生特別インタビュー

日 時：2019年4月10日

場 所：安井建築設計事務所本社・大阪事務所

聞き手：山形政昭、石田潤一郎、橋寺知子、

玉田浩之、安田徹也

■インタビュー趣旨

橋寺：今日は「神戸での西洋館保存とその頃坂本勝比古先生に聴く」と題しまして、当時のご様子などをお聞きしたいと思っております。異人館の保存や西洋館のご研究については文献で拝見しているところですが、当時の様子をもう少し詳しくお聞きしたいと思えます。先生のご経験そのものが貴重で、大変な歴史的意義を持っていると思います。どうぞよろしくお願いいたします。



図1 インタビュー風景、安井建築設計事務所本社にて

山形：神戸北野の西洋館は1960年代に遡り、近代建築保存の先駆けとして知られています。なかでもハッサム邸、ハンター邸は初期の著名な事例で、早くに重要文化財となり神戸における明治西洋館の代表的なものとなっております。そこで、こうした西洋館の評価と保存に当時尽力された坂本勝比古先生に、当時の神戸の様子と、西洋館の調査から保存に至った時期のことをお聞きし、記録に残したいと考えておりました。それから、先生が西洋館に関心を持たれた背景や神戸市役所勤務の頃についても、この機会にぜひお聞きしたいと思います。

■建築の道へ

玉田：まずご経歴について伺います。先生は中国・青島にお生まれになって、上海や京城などにお住まいになった後に、戦後に神戸工業専門学校（現・神戸大学工学部）に入学され、神戸市に就職されています。建築の道に進もうと思われた経緯や市に就職されるまでのいきさつ、当時の印象などをお聞かせください。

坂本：生まれたのは青島ですが、すぐに上海へ引っ越し、7歳まで上海で暮らしました。昭和7年に上海事変があって、その時に日本に引き揚げたのですが、その後、また青島に戻りました。これが私が青島で住んでいた洋館です（図2）。ハーフトィンバーと煉瓦の外観が印象的な洋館でした。設計者はドイツ人か日本人かちょっとわからないのですが、応接間や食堂は洋間で、2階に畳の間がありました。昭和初期の青島も上海も電気やガスが整っていました。

父の仕事の関係で、外地での暮らしが長く続きました。京城（現在のソウル市）では、日本人街で暮らしていました。私は昭和20年に京城工業専門学校（旧京城高等工業学校）の建築学科に入学しましたが、すぐに終戦を迎え、9月に再び日本に引き揚げることになりました。波乱万丈という大げさだけれども、外地に生まれて育っているの、日本の対外政策などに振り回されたと言ってもいいかもしれません。いわゆる引き揚げ者の一人でした。

建築の道に進んだのは、建築は割合、美術や歴史的な要素もあってバラエティに富んでいますし、構造計算などが少なく、ややこしくないところがいいかと思って選びました（笑）。それと、当時の都市というのは、空襲によって一面焼け野原の状況でした。まさに廃墟だったわけです。建築というのは、都市を再建する上で欠かせないものだったし、やらなければならないという使命感のようなもの

のも感じていました。

終戦後、京城工専がなくなるというので、文部省が日本の学校への編入を認めてくれました。どこに行こうかと考えました。東京で暮らしたこともあるので、東京に行こうかと思ったのですが、父の郷里は土佐で、そこに両親がいましたので、神戸の方が近くていいだろうと思って、神戸工専の建築科に編入しました。当時は著名な滝沢真弓先生がおられて、ご指導を受けていました。京城工専の同期生が神戸工専に行くというので、一緒に通ったこともありました。それ以降、ずっと神戸です。いま考えると、神戸に来たことが良かったのかどうか（笑）。

坂本勝比古 略歴

- 1926（大正15）年 8月21日 中国青島市生まれ
- 1949（昭和24）年 旧制神戸工業高等専門学校（現神戸大学工学部）卒、神戸市復興局勤務
- 1950（昭和30年代）～ 神戸山手異人館保存対策
- 1958（昭和33）年～ 重要文化財旧ハッサム住宅、ハンター住宅保存修理事務報告書作成
- 1960（昭和35）年「神戸居留地の成立過程と現存する洋館について」（日本建築学会大会論文集）
- 1961（昭和36）年「英人建築家Alex. N. Hansell（F.R.I.B.A.）の経歴と作品について」（日本建築学会大会論文集）
- 1965（昭和40）年『明治の異人館』（朝日新聞社刊）
- 1966（昭和41）年 工学博士（東京大学）「開港場居留地建築の研究」による。
- 1970（昭和45）年 「関西建築界における大正とその建築」（建築雑誌）
- 1972（昭和48～54）年 大阪芸術大学非常勤講師
- 1973（昭和49～50）年 ICOMOS文化財保存修復センター ローマ留学（イタリア政府給費）
- 1977（昭和52）年 『西洋館』（小学館刊）
- 1979（昭和54）年 『横浜山手』（横浜市教委刊）
- 1980（昭和55）年 千葉大学工学部工業意匠学科教授 その間、東京都都市美対策専門委員会委員長、日本建築学会歴史意匠委員会委員長、横浜市文化財保護審議会委員、松戸市文化財保護委員会委員などを歴任
- 1980（昭和55）年 『日本の建築 明治大正昭和 京都のデザイン』（三省堂刊）
- 1991（平成3）年 神戸芸術工科大学教授
- 1993（平成5）年 神戸旧外国人居留地復元模型製作監修（神戸市立博物館展示）
- 1996（平成8）年 第22回明治村賞受賞
- 1997（平成9）年 『阪神間モダニズム』（共著、淡交社刊）
- 1998（平成10）年 神戸市文化賞受賞
- 1999（平成11）年 「日本建築協会の遺産と功績」（日本建築協会80年史）
- 2000（平成12）年 『異人館のある街並、北野・山本』（神戸市教委刊）『近代日本の郊外住宅地』（共著、鹿島出版会刊）
- 2007（平成19）年 「大正から昭和へ、日本建築協会が果たした役割の一断面」
- 現在 神戸芸術工科大学名誉教授

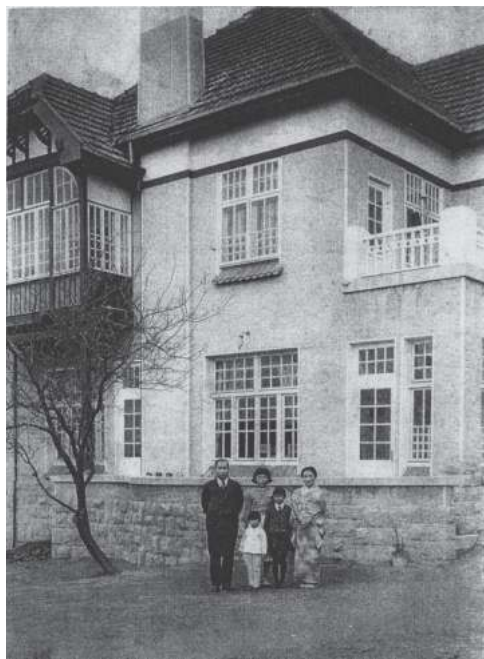


図2 坂本家が住んでいた青島の西洋館、昭和12年頃撮影（個人蔵）



図4 旧ストロヴィー邸のベランダと出窓（撮影：坂本勝比古）

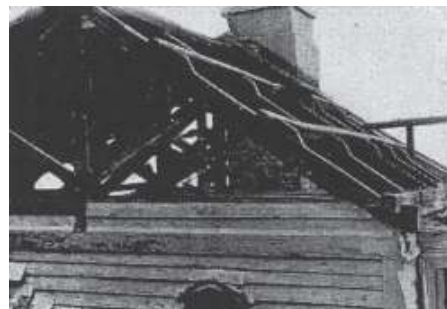


図5 旧ストロヴィー邸 上：解体中の様子、キングポストトラスが載る（撮影：坂本勝比古）、下：南立面（画：坂本勝比古）

■西洋館への興味

玉田：西洋館に興味を持たれるようになったのはいつ頃からでしょうか。異人館の保存に携わる前までに、西洋館に触れた経験などがございましたら、お聞かせください。

坂本：青島では、ドイツ人の設計した西洋館の小学校に通いました。日本に戻った時は、東京の四谷第五小学校に通いました。鉄筋コンクリート造のモダニズム建築ということで、有名な小学校でした（図3）。この頃に「建築というものはこういうものか」と子供なりに感じていたように思います。青島はドイツ人が作った街で、いまでもかなり多くのものが残っているので、機会があったら、是非行かれるといいです。青島では、私は西洋館に暮らしていましたが、お隣はバウハウス風のモダニズムの住宅で、設計は日本人建築家の三井幸次郎でした。その住宅に、のちに建築家になられた高橋航一先生が住んでいたのを覚えています。



図3 新宿区立旧四谷第五小学校（出典『建築の東京』都市美協会発行1935年刊、不二出版復刻版より転載）

■神戸の異人館に対する関心

玉田：先生は北野の異人館の保存修理活動に長く携わってこられました。保存活動に取り組まれるようになったきっかけは何だったのでしょうか。保存に関わられた住宅の様子などをお聞かせください。

坂本：北野界隈を歩いていると、西洋館が嫌でも目に入ってきます。建築をやる人間なら、これらがどういう経緯でできてきたのかということが気になるもので、興味を持つのは自然なことだったように思います。

ある西洋館を調べていると、設計者がA.N.ハンセルというイギリス人建築家であるということがわかってきました。彼の経歴について調べたのは、私が最初だと思います。彼は明治21（1888）年に来日しています。その後、30年ほど神戸を中心に活躍し、代表作に神戸クラブ（1890）、同志社のハリス理化学館（1890）や平安女学院の明治館（1895）などがあります。また、彼は王立英国

建築家協会のフェローの資格を持っていました。当時の日本で同じフェローだったのはイギリス人建築家のジョサイア・コンドルくらいです。このことから、ハンセルは非常に優れた技術を持った建築家で、神戸の居留地や山手の西洋館に大きな影響を与えたといえるでしょう。

異人館の調査を通して、ハンセルの意匠の特徴がよくわかってくると、なるほど、神戸なりの街の魅力があるんだと理解するようになりました。学生時代は西洋館の調査ばかりに関わるわけにはいきませんでした。所在調査については私がやらなと誰もやらないので、少しずつ継続してやっていたということでございます。

異人館の調査を始めた頃で強く印象に残っているのは、北野町にあった旧ストロヴィー邸です。昭和35（1960）年6月に突然取り壊されました（図4、図5）。非常にショックな出来事でした。これから調査しようと考えていたので、本当に驚きました。建物の解体は避けられませんでした。幸いにも解体中に記録を取ることができました。こちらにもA.N.ハンセルによる設計だということが調査からわかってきました。出窓がつき、ハーフティンバーのモチーフでつけた妻飾りがあり、小屋組にはキングポストトラスが用いられ、ベランダの柱にはフルーティングがありました。今考えると、神戸の西洋館の特色を備えていて注目すべき建物でした。このままでは、神戸の街を特色づけている西洋館が次々と取り壊されてしまう。この状況を見過ごすわけにはいかないと考えていました。



図6 神戸女子短期大学北野寮（旧ハッサム邸）現在は相楽園に移築保存



図7 旧ハンター邸 王子動物園内に移築保存



図8 旧ブルム邸 明治村に移築保存

■旧ハッサム邸の保存運動

坂本：同じ頃に、神戸女子短期大学北野寮（旧ハッサム邸）（図6）の取り壊しの話が出てきました。たくさん新聞にも取り上げられましたが、保存まではスムーズにいきませんでした。寮として使っていた神戸女子短期大学は建物の調査には非常に協力的だったのですが、保存するとなると、なかなか難しかったです。最終的には、関係者の努力によって、神戸市がその価値を認め、市が譲り受けて相楽園に移築保存することになりました。当時の建物の所有者である神戸回教寺院が市に無償で譲渡してくれたので実現しました。私が保存を訴えていなかったら、そのまま取り壊されていたように思います。当時は女子大の寮でしたので、若い男が入るような場所ではなかったのですが、協力を得て調べてみると、ディテールがしっかりしていることがわかってきました。当時のそのような非常にきめの細かい意匠を実現できた人物は少なかったと思うので、こちらもA.N.ハンセルの設計だと推定しています。

石田：異人館の保存修理の調査は単独でなさっていたのでしょうか。

坂本：旧ハッサム邸の保存のための活動は最初は一人でしたが、現況図面の作成は神戸大学の島田勝次先生や学生さんに協力をお願いしました。個人的に建築技術協会の方にもお願いしたこともありました。

安田：旧ハッサム邸の保存修理報告書を拝見しますと、飾りの職人にも聞き取り調査を行ったと書かれています。この点について詳しくお聞かせください。

坂本：明治期の建物に関わった職人に直接話を聞くことはなかなかできませんけれども、どのようにして装飾の技術が伝承されてきたのかに関心がありました。ちょうど良い機会

なので、誰から技術を引き継いだのかについて職人に聞き取り調査を行いました。装飾の技術的な特徴を研究すると、棟梁の技術力を確認することもできます。神戸の西洋館に携わった棟梁は腕が良かったように思います。

■保存要望書

玉田：先生は旧ハッサム邸の保存に動き出し、昭和35（1960）年7月に関係者が神戸市長に対して保存要望書を書いておられます。保存要望書の早い例ではないかと思いますが、こうした手法を用いることになった背景などお聞かせください。

坂本：神戸にとって大事な文化遺産であることを伝えるためには、何をしたら良いのかということを考える中で出てきたように思います。私が個人で市長に掛け合うだけでは、なかなかその価値を理解してもらえません。そこで東京大学の関野克先生、早稲田大学の渡辺保忠先生、東京大学の著名な稲垣栄三先生、東京都立大学の桐敷真次郎先生に保存要望書を書いていただいたわけです。東京の先生方は神戸の西洋館に大変関心を持っていたので、ご協力していただけたのだと思います。建物を移築した翌年には重要文化財にもなりました。F.L.ライトの帝国ホテルなど、日本建築学会から保存要望書を出すようになるのは1960年代半ばからですので、旧ハッサム邸は保存要望書が出された早い例だったと思います。そのおかげもあって、旧ハッサム邸は1963年に移築保存が実現し、重要文化財に指定されました。旧ハッサム邸に続いて、旧ハンター邸（図7）も王子動物園内に移築し保存されることになりました。

■東京の研究者との交流

石田：保存運動の中で東京の先生方との交流

があったということですが、どのような交流をされていたのでしょうか。

坂本：東京の研究者たちは神戸に洋館が残っていることをあまり知らなかったようです。東大の稲垣栄三先生や都立大で西洋建築史の権威であられた桐敷真次郎先生は、私が神戸の西洋館を案内すると、大変な関心を寄せられ、私のやろうとしていたことに対して理解を示してくださいました。桐敷先生は西洋館のベランダに関心がおありで、とても親しくさせていただきました。当時の建築史学を代表する先生方との交流は大変得難いことでした。両先生には『建築と社会』（1961年2月号）の神戸居留地特集にも寄稿していただきました。

その後、東大生産技術研究所の村松貞次郎先生とも交流させていただき、その関係で『明治の異人館』（1965）を出版することになりました。西洋館に関する論文を博士論文にするように提案してくださったのも村松先生だったように思います。のちに村松先生や藤森照信先生と一緒に青島に調査に出かけたこともありました。千葉大学に勤めてからは、伊藤延男先生とも親しくお付き合いをさせていただきました。

■移築保存と現地保存

玉田：北野にあった旧ハッサム邸、旧ハンター邸、旧ブルム邸は移築することによって保存が実現しました。これはどのような経緯で移築されることになったのでしょうか。一方、旧トーマス邸（風見鶏の館）はなぜ現地保存を実現できたのでしょうか。

坂本：現地で保存することが望ましいのですが、どうしても現地保存が難しい場合は移築を検討せざるを得ませんでした。旧ハッサム邸と旧ハンター邸は前者を神戸市が譲り受け、

後者を兵庫県が譲り受け、神戸市所有の土地に移築することで保存が実現しました。旧ブルム邸（図8）は、かつて神戸女学院のあった諏訪山付近にあって、現地に残したかったのですが、やむなく明治村に移築をお願いしました。当時の明治村には関野克先生や谷口吉郎先生がおられまして、ご協力いただきました。異人館の現地保存が実現したのは、保存に対する認識が深まったことが大きいと思います。

旧ハッサム邸、旧ハンター邸、旧ブルム邸は木造でしたが、旧トーマス邸は煉瓦造でした。煉瓦造は木造に比べて解体がやりにくい。構造の違いが幸いして、現地保存が実現したのかもしれません。

■神戸市職員の頃

玉田：神戸市の建築局に在籍しながら異人館の保存活動に携わっておられています。その頃はまだ神戸市に文化財課はありませんでした。保存活動で市の職員または部局との連携などはあったのでしょうか。また、当時の神戸市の様子はいかがでしたでしょうか。

坂本：私は建築局で営繕の仕事に携わっていました。当時の建築局の人間は、行政が手がける公共の建物以外にはあまり関心を持っていませんでした。営繕課では、建物が古いかから保存するということにならなくて。逆に、戦後復興の時代だったので、古いものを残してどうするんだという雰囲気もありました。一方、保存活動に関しては、神戸市企画局で局長をしていた宮田芳彦さんが理解を示して、協力してくれました。彼は台湾からの引き揚げ者で、私の活動に関心を持ってくれました。外地で暮らした経験があったから、神戸の西洋館保存の動きに関心を持ってくれたように思います。神戸市は現在それぞれの専門の部署に分かれていますが、文化財課がなかった頃は、比較的に自由な関係で活動していました。私が営繕課の課長をしていた頃は、ヨーロッパ各地に調査に行かせてもらっていましたけれど、今はなかなか難しいのかもしれない。

山形：坂本先生は神戸市在職時に『明治の異人館』を出版されています。外国人建築家の経歴を相当詳しく書かれています。大変なことだったと想像しますが、当時はどのような過ごされ方をしていたのでしょうか。

坂本：平日は役所の仕事がありましたから、調査は週末に行っていました。明治の異人館を書くために、函館から長崎まで各地を回っていました。通勤中のバスの中など、時間を見つけては原稿を書くような生活をしていました。

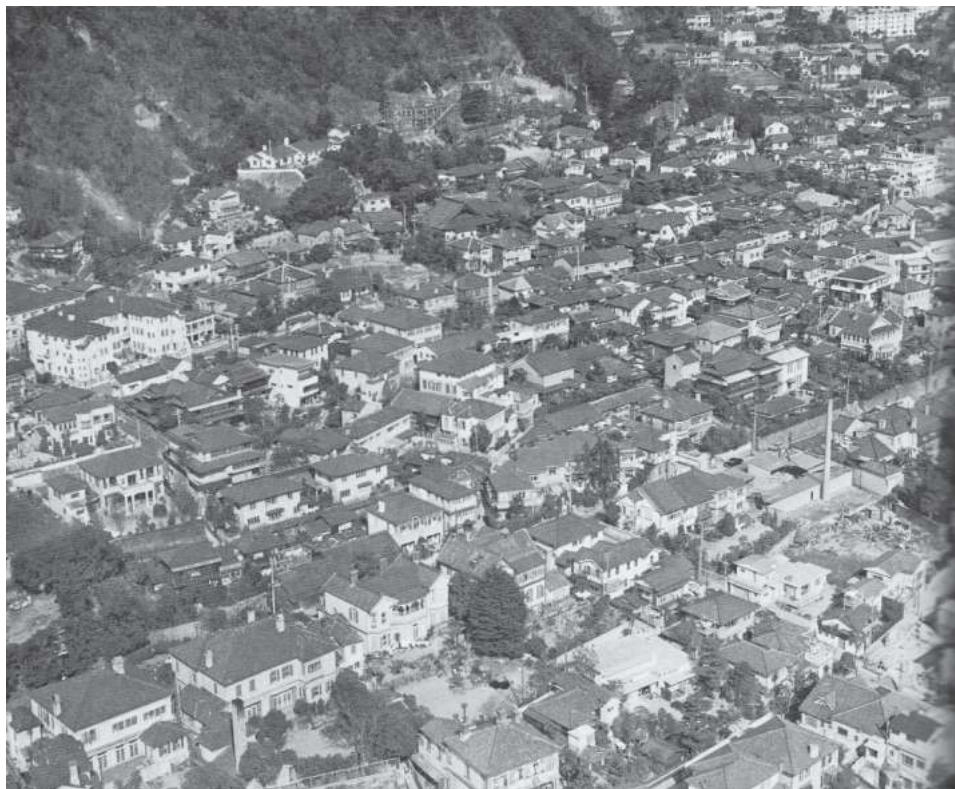


図9 神戸北野町の街並み（出典：坂本勝比古著『明治の異人館』1965年より転載）

■重要伝統的建造物群保存地区

玉田：北野町山本通の異人館は1980年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されます。歴史的環境の保存、町並み保存運動の機運が高まり始めた時代です。西洋館の街並み保存としては最初の例となりますが、何か選定に向けて活動されていたのでしょうか。

坂本：1970年代にイコモスのローマセンターに留学したのをきっかけに町並み保存活動に関心を深めました。イタリアでは歴史的な街並みを保存するのは当然のことで、建物を工夫して活用していました。日本でも早くそのような状態になることを願っていました。しかし、当時は明治期よりも古く歴史あるものを大事にする時代でしたので、比較的新しい明治建築にはなかなか関心を持ってもらえませんでした。西洋館をひとつでも残せるように地道な活動を続けていたところ、異人館の保存に関するニュースが新聞などで取り上げていただくようになり、神戸の文化遺産として少しずつ認知されるようになりました。異人館の存在が広く知られるようになったことが重伝建地区の選定の後押しをしたように思います。歴史ある洋館の街並みを後世に残したいという思いから、北野町の町並み保存の条例づくりにも参加したこともありました。引き続き、神戸らしい街並みが残っていくことを願っています。

■異人館保存の現状

玉田：神戸の異人館街は重伝建地区に選定されて、まもなく40年が経ちます。北野は神戸を代表する観光名所になっていますが、空き家も見られるようになり、以前のような活気が失われているようにも思います。神戸らしい町並みを維持していくためには、現在どのような取り組みが求められているのでしょうか。

坂本：神戸らしさを求めるとしたら、いろいろな見方があるでしょうけれど、北野や居留地は大事な場所であると思います。観光地化しないほうがある意味ではいいのだけれど、経済的な問題もあって仕方ない面もあります。北野町は都心に近いところなのに開発に吞み込まれないでいることは奇跡的な気がします。その価値を理解してもらって、現状を維持してもらえるとありがたいですね。シュウエケ邸のように住宅として利用して街並みが守られるようにしていただきたいですが、利用の仕方も工夫がいるでしょうね。（次号、後編に続く。）

図版出典：特記なきものは『建築と社会』1961年2月号による。

〈第4回建築セミナー〉 建築と設備の接点 トラブル予防のツボ

講師 仲本尚志

atelier UNI-SUPPORT主宰

馬渡勝昭

一級建築士事務所Atelier・YOU代表

赤澤正治

TAKシステムズ大阪支店設備担当

司会進行 西博康

日本建築協会出版委員会委員長

記録 入谷明宏 日本建築協会事務局

2019年5月15日（水）、TOTOテクニカルセンター大阪において、〈第4回建築セミナー〉が開催されました。

まず第1部の「建築と設備の接点はここだ」では、仲本氏がテキストのタイトルにも取っている「接点」を、建築と設備の「取り合い」と定義し、接点は「建物のライフサイクル（計画、設計、施工、維持保全の各段階）での接点」と「建物部位との接点」の2つに大別されるとしました。

建物のライフサイクルの接点では、4つの



仲本尚志氏

段階全てで、打ち合わせ、調整を十分に行い未決事項をなくしておくことの重要性を強調されました。建物部位との接点では、外壁への設備配管の打ち込み等の躯体関連、天井・床などの仕上げ関連、昇降機設備などに整理して押さえるべきポイントを解説しました。



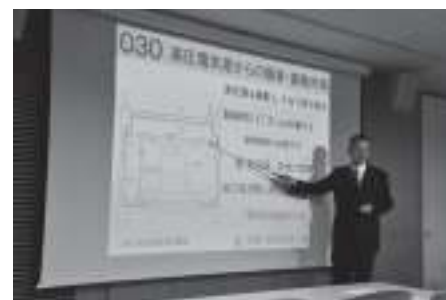
赤澤正治氏

第2部の「トラブル予防のツボ100」では、赤澤氏が「設備・性能に関する事例」を紹介されました。

築後1年ほどの研修センターから「シャワーのお湯の出が悪くなった」「暖房が効かなくなった」等の苦情が出た例では、事前にチェックリストを作り、要求品質について譲れないもの、譲れるものを明確に建築主から聞き出しておくことの大切さを説かれました。

また誰もが犯しやすいミスとして、自ら設計した施設の厨房からの排気臭で近隣へ迷惑をかけ、結局、排気ダクトを外壁に沿って立ち上げたため、外壁デザインを台無しにした失敗例も紹介されました。

最後に登壇した馬渡氏は「漏水・騒音に関する事例」を紹介。電気室への漏水対策では、電気室は建物の心臓部であることから、水配管を通さないことが原則である、と強調。上階に水配管がある場合は、上階床を防水し、



馬渡勝昭氏

水を使用する隣室がある場合は、界壁の切付け部を防水するよう注意を促しました。

馬渡氏は「建築と設備が一緒になって考えれば、トラブルを未然に防げる例も多い」と互いに協調することの大切さを訴えました。

会場からは、最近の受発注形式の多様化を反映して「PFI事業などが増えているが、設備面での課題は？」との質問もあり、赤澤氏が「いろんなケースを想定して、パートナーとコミュニケーションを取り、情報収集しながらノウハウを蓄積することが大事ではないか」と答えられました。

まとめとして仲本氏は、トラブルを予知する能力を磨くには、失敗した証拠を残しておき教訓として共有する、現地現物の対応がマニュアルより大事なケースもあるとしました。

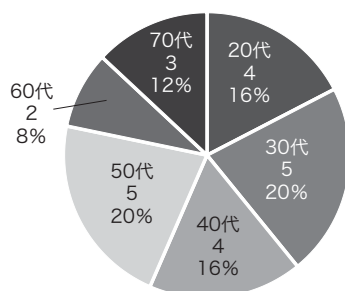
さらに技術の伝承も大事だが、「モノづくり」の心こそ後輩たちに引き継いでいってほしいと語りかけ、セミナーを締めくくりました。

最後に、参加いただいた皆様に御礼を申し上げますと共に、関係各位、会場を提供いただいたTOTO様に改めて感謝申し上げます。当日、ご参加いただけなかった方にも、ぜひ本書を手にとっていただければと存じます。

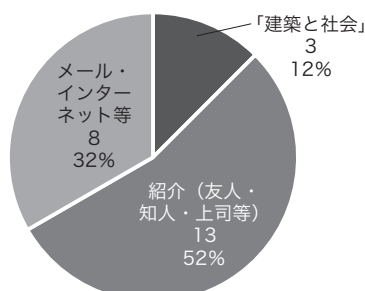
アンケート集計結果

参加者の年齢層は20代から70代までまんべんなく広がっている。所属では今回、設計事務所の割合が高く50%に迫った。セミナーを知ったきっかけでは、友人・知人等の紹介が前回と同様に半数を超え、メール・インターネット等を大きく上回った。

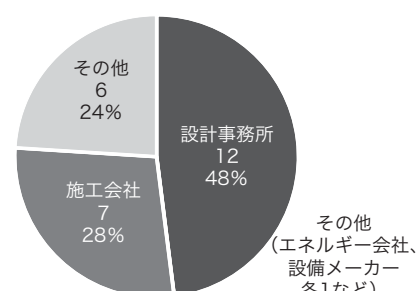
年齢



セミナーを知ったきっかけ



所属



近隣住区の維持に 寄与する障害者福祉 「施設」

障害者の「働く」に着目して

大阪大学大学院工学研究科准教授

松原茂樹

1998年大阪大学卒業。2003年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。一級建築士。専門は建築計画、環境行動研究。主な著書に「まちの居場所まちの居場所をみつめる／つくる」（日本建築学会編、東洋書店、2011）、「利用者本位の建築デザイン事例でわかる住宅・地域施設・病院・学校」（日本建築学会編、彰国社、2017）、「福祉転用による建築・地域のリノベーション：成功事例で読みとく企画・設計・運営」（共著、学芸出版社、2018）。

現在我が国では「働き方改革」が進捗しており、みなさまもさまざまな感情を伴いながら「働き方改革」に邁進していることであろう。今回その働き方を取り上げるが、健常者ではなく障害者の働き方について紹介する。障害者の働き方から近隣住区の課題解決となる一助があると考えている。

現在、近隣住区には数多くの課題があると言われている。そのなかでも買い物難民と言われるように徒歩圏に購買施設がなくなることとは大きな課題である。近隣の商店街は廃れてしまって、購買は週末に車でショッピングモールに出かけるという人もいるだろう。購買施設は消費としての利便性や経営の合理化・効率化が進み、近隣住区の購買施設は商売として成立することが難しくなっている。近隣住区における購買施設で障害者が「働く」ことには近隣住区の維持と障害者がふつうの生活を送ることの2つの点で大きな意味がある。

■障害者福祉と建築

まずは障害者福祉とその建築について紹介する。2013年施行の障害者総合支援法では日中に活動する（過ごす）場とグループホームといった夜間に過ごす場（住まいの場）を分けている。かつての入所施設のように日中活動の場と住まいの場が一体であることは現在でも「障害者支援施設」として存在するが、国は地域移行を進めており、今後建て替えはあっても増えることはない。地域移行とは、施設や病院で障害者が一定期間入所や入院して、地域社会から隔離された「閉じられた生活」から退所や退院をし、地域社会のなかで住まいを持ち、健常者と同様のふつうの生活を送ることである。

日中に活動する事業として自立訓練、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護などがある。就労移行支援が一般就労を目指す人の事業、就労継続支援A型は雇用契約を結び、支援を受けながら働くための訓練を受ける事業。就労継続支援B型は働くための訓練を受けるだけでなく創作活動も行う事業であり、雇用契約を結ばない。本人の希望もあるが一般的に上述の事業の順に障害者支援区分が重くなる傾向にある。

障害者総合支援法は社会福祉法人、NPO法人や株式会社といった事業者が事業として障

害者にサービスを提供する仕組みである。逆に言えば障害者本人（や家族）が自分に合ったサービスを探す仕組みである。事業者は収益を確保する必要がある、特定の障害種別に特化して障害特性に配慮した事業を行うことや、地域に不足しているサービスを障害者の就労支援事業として行うように地域の課題解決を担う事業を行っている。事業者によってさまざまな取り組みを日中活動の事業で行うことができ、日中活動の事業に多様性が生まれることとなった。

このように地域移行という社会の変化や制度の変化により従来の障害者福祉施設は事業を担う障害者福祉「施設」に変容していった。なお今回紹介する事例は地域の課題解決を担う事業である。

■障害者福祉「施設」の設計と計画

これまで障害者福祉施設は施設種別として建物と国・自治体によって定められた機能とが一对一に対応していた。極言すればそれに基づいて障害者福祉施設を設計するだけでよかった。障害者総合支援法の施行後、「障害者支援施設」のように一部例外もあるが、障害者福祉施設はその標準型としての建物と機能の一对一対応が崩れてしまった。

障害者福祉「施設」では利用者の障害特性や事業の内容によって求められる機能が異なる。さらに地域の課題解決を担う事業を行う場合その機能も異なる。そのため障害者福祉「施設」の設計は個別に機能を解いていく必要が生じた。たとえば筆者が見てきた事業を列挙すると、飲食店（パン、喫茶店、惣菜屋、レストラン他）、工場（洗濯工場、食品加工工場、機械工場）、購買店、農業など多岐にわたる。その上で、それぞれの障害（知的障害、自閉症・発達障害、精神障害、重度心身障害など）の障害特性に配慮した空間の要件も満たさなければならない。

従来の障害者福祉施設の建築計画ではあるひとつのモデルが存在していたが、上述の通り障害者総合支援法の下では施設の1つの型を示すことが困難であり、多様性を生み出すことができる建築計画が求められている。

それではこれより2つの事例を紹介する。両者とも近隣住区にある商店街の空き店舗を

活用している。かつての賑わいを取り戻せていない商店街に社会福祉系の法人が障害者福祉「施設」を立ち上げた。

■事例1) みんなのマーケットるびなす

●高倉台の近隣センターの現状

みんなのマーケットるびなすは堺市の泉北ニュータウン高倉台の近隣センターの一角にある。泉北ニュータウンは2017年にまちびらき50年を迎えたニュータウンである。各住区は近隣住区の考え方に基づいて近隣センターが設けられている。ご存じの通り近隣住区では徒歩圏の範囲を住区の基本単位とし、日常生活を送る上で必要な購買施設を近隣センターとして計画している。当初の計画では住民は日常的な買い物やささやかな住民同士のふれあいを近隣センターで行うことを想定していたが、近隣センターは当初の計画通り購買施設としての機能を十分に果たせず寂しいところが多い。

みんなのマーケットるびなすは社会福祉法人ライフサポート協会が運営する障害者総合支援法の就労継続支援B型の事業であり、2015年にオープンしたスーパーマーケットである。この場所ではこれまで何度もいくつものスーパーマーケットの開店と閉店を繰り返してきた。その一方で住民からスーパーマーケットがなくなることに反対の声もあり、有料老人ホームの新築時には1階にスーパーマーケットが入ることとなったが、またしても閉店した。高倉台は一般企業によるビジネスとしてスーパーマーケットが成立しない場所であると言える。高倉台の高齢化率は30%を越えており、独居高齢者や要介護等の認定を受けている割合も20%を越えている。高齢者にとって近隣センターにスーパーマーケットがなくなることは死活問題であり、買い物難民に陥る可能性があった。

●みんなのマーケットるびなすの取り組み

そうした状況のなか、社会福祉法人ライフサポート協会は地元NPO法人などの協力を得て買い物弱者の支援と障害者の就労支援を目的として高倉台でスーパーマーケットを行うこととなった。居抜きで事業を始めたため前のスーパーマーケットが残っていた設備を使っている。また単に買い物で終わるのは

なくここで購入した弁当などを食べて住民同士交流できるスペースも設けている。

みんなのマーケットるびなすの特徴は大きく6つある。1つ目が食品や日用品の販売物は基本的に近くのスーパーマーケットの協力を得て、そのスーパーマーケットが仕入れた物を販売している。2つ目が惣菜品は有名料理店で腕を振ったシェフにレシピを頂戴し低価格で提供している。3つ目が新鮮な魚の販売である。大阪府最南端の町・岬町の高齢の漁師からその日とれた魚を仕入れて手頃な価格で提供していたが、現在はスタッフの知り合いの仲卸から仕入れている。4つ目が泉北ニュータウンに近接する農園からスーパーマーケットの趣旨に賛同し、減農薬や低農薬・無農薬の野菜を配達してくれている。5つ目が同じ泉北ニュータウンの槇塚台にある槇塚台レストランからできたての弁当を仕入れている。6つ目が配達も行っていることである。

エレベーターのない集合住宅に住む高齢者にとって重い荷物を運ぶことは困難で障害者とスタッフがともに配達を行っている。高齢者が多く買い物の支援が必要なこと、障害者が働く場であることを理由に多くの個人・団体からこれらの取り組みの協力が得られて商売が展開している。

イベントも定期的にいくつか行っており、マルシェ、子ども食堂改めみんなの食堂、夏祭りやハロウィンやイースターなど自治会、商店会やNPOなどと協力して取り組んでいる。みんなのマーケットるびなすができたことによって高倉台の近隣センターに新しい活動の展開ができた。

●忙しくないスーパーマーケット

みんなのマーケットるびなすでの障害者の働き方をみていこう。現在10名ほどの障害者が「働い」ている。精神障害を抱える人や知的障害かつ自閉症を抱える人がそれぞれ5名ほどいる（毎月登録人数に変動がある）。精神障害の方は一般企業に勤めていたがその環境が合わず不調をきたした方もいる。

この場所で何度もスーパーマーケットが閉店してきたように、みんなのマーケットるびなすは日中多くの客で賑わう光景からほど遠く、ぱらぱらと客がやってくる程度である。しかしながらこの状況が比較的障害支援区分が重い障

害者にとって働きやすいものとなる。客が少ないのでスピードを求める必要がなく、たとえばゆっくりとレジ打ちをすることや、商品の品だしや値付けをすることができる。障害特性や希望に応じて役割分担を決めているので単純な作業を繰り返す作業を担う人もいる。これらの作業を行う上でコミュニケーションの方法や物理的環境の配慮が何より必要であり、スタッフは彼らの支援・指導を行いつつスーパーマーケットとしての業務も担っている。

障害を抱える人にとってこうしたことを何年も積み重ねることで自信をもち、次のステップに進むことを目指している。



写真1 高倉台の近隣センター全景



写真2 みんなのマーケットるびなす全景



写真3 店内の様子



写真4 店内の交流スペース

■事例2) Cafeここいま

●浅香山地区の特徴

南海電鉄高野線「浅香山」駅から徒歩5分足らずのところにCafeここいま・リサイクルショップぜろ・多機能事業所おめでたいがある。これらは小さな商店街の駅側からの「入り口」に位置し、床面積30㎡程度の空き店舗を活用している。これらを運営するNPO法人kokoimaは近隣の浅香山病院の看護部長であった看護師が立ち上げた法人である。

浅香山病院の精神科医療は西日本で有数の歴史と規模を持っていて、1970年代初頭から精神障害者の地域移行を進めていき、現在多くの精神障害を抱える／抱えていた人が浅香山地区の文化住宅などに住んでいる。浅香山地区は商店街に隣接して多くの文化住宅がある一方で、その外側には住宅地として開発されたエリアがあり規模の大きい戸建て住宅がある、大きく2つの住まいのタイプが混在している。

●精神障害を抱える人の地域移行

地域移行とは、施設や病院で障害者や患者が一定期間入所や入院して、地域社会から隔離された「閉じられた生活」から退所や退院をして、地域社会のなかで住まいを持ち、健常者と同様のふつうの生活を送ることである。日本では他国に比べ精神病院の入院期間が長いことや病床数が多いという事実があり、地域移行が遅れていると言われている。たとえばイタリアでは1978年に通称バザリア法^(注1)によって精神病院を廃止し地域社会で生活している。日本でも精神障害を抱える人が地域社会で普通の生活を送る地域移行が少しずつ進んでいるが、まだ途上であり今後も進展が望まれる状況である。

入院患者の中には10年や20年も長期に入院している人がいる。炊事・洗濯など家事を身につけずに入院した人がいきなり地域生活で1人暮らしを始めても満足に家事ができない。また入院前と社会が変わっていて、たとえば今から10年前をさかのぼるとスマホが普及した時期であり、20年前をさかのぼるとインターネットが普及した時期である。スマホはおろかインターネットもしたことがない人が今の社会に適応するには多くの困難が待ち受けることが予想される。長期入院していた人

にとっていきなり地域生活を始めることは難しく、住まいや就労だけでなくさまざまな場面で支援を必要としている。

●「ボーダレストاون」に向けたまちづくり

NPO法人の代表は浅香山病院に勤めていたとき、各地の精神病院で患者の撮影をしていた写真家と出会ったことをきっかけに浅香山病院の入院患者とともに2012年にナラティブ写真展を病院で開催した。それを契機に精神障害を抱える人も社会の一員として地域で普通に生活し誰かの役に立ちたいという思いの実現に向けて、地域移行に向けての取り組みを開始した。他での写真展の開催や病院内に患者やボランティアなどさまざまな人が集えるクラブ室のような事務所のオープンなど病院という枠の中で取り組めることを3年間行なった。

その後代表は定年の前に退職して、NPO法人kokoimaを立ち上げて2015年12月にCafeここいまの取り組みを始めることとなった。カフェを始めた動機は、住まいの場や就労の場の提供ではなく、まずは精神障害を抱える人の地域の中での居場所となることを目指したことである。カフェで地域の人と日常的に関わることを端緒に精神障害を抱える人にとって住みやすい地域になることを目指している。

精神障害を抱える人が地域で暮らして行くにはさまざまな人の支えが不可欠であり、地域住民との関係を築く必要がある。さらにNPO法人kokoimaがユニークなことは、精神障害を抱える人だけでなく、誰にとっても暮らしやすい地域となることを目指していることである。NPO法人kokoimaのホームページをみると、その理念に「豊かな共生社会の実現を理念に、地域に開かれた事業運営に邁進し、精神障がい者のみならず、社会的弱者となりやすい高齢者、子ども、女性、その他の障がい者とその家族の方たちにとっても暮らしやすいまちづくりに、寄与したいと考えてます。」と記されていて、さらには「ボーダレストاون」を謳っている^(注2)。

Cafeここいまは結局浅香山病院の近くの商店街の空き店舗を活用することになったが、ここに至る経緯に紆余曲折があった^(注3)。Cafeここいまがある商店街は元公設市場であった小さなスーパーマーケットと数軒のお店が営業しているだけの小さな商店街である。

しかしながらこのスーパーマーケットがなくになると買い物難民に陥る高齢者もいて、小さい商店街ながら浅香山地区にとって不可欠な商店街である。

●精神障害を抱える人の仕事をつくるーCafeここいまから、リサイクルショップぜろ、多機能事業所おめでたいの展開

2015年12月にオープンしたCafeここいまは精神障害を抱える人の居場所となることを目指してきた。一方で誰かの役に立ちたいという声を受け、代表は精神障害を抱える人ひとりひとりの希望や適正をもとに、地域にない仕事を作っていった。こうしてCafeここいまの隣の空き店舗にリサイクルショップぜろを2017年夏にオープンした。リサイクルショップぜろは障害者総合支援法の就労継続支援B型の事業であり、50代の男性が店長として働いている。商店街の近隣に高齢者が多く住み、家の物の処理に困っていることが多いのであり不要物を引き取る機会に恵まれている。引き取りに行った物をクリーニングし安価で売り出すと近所の人が購入していく。こうして浅香山地区の人が使っていた物が再び浅香山地区のなかで循環していく。精神障害を抱える人が店長であることもあり、話しをしにくる精神障害を抱える人もいる。

また接客が丁寧なことから固定の客がいる。店長に任せられているので商品の管理など責任持って行い、徐々に働くことの自信を取り戻している。リサイクルショップぜろは浅香山地区の特徴と1人の精神障害を抱える人の性格をうまくマッチングすることに成功しているが、最低賃金を支払うまでに至っていないことが課題である。

さらに2017年夏にCafeここいまの向かいに就労継続支援B型事業と生活介護事業の複合である多機能事業所おめでたいを立ち上げたが、何か特定の仕事・作業を用意することなく、ここに登録してきた人に応じて仕事・作業をつくる方針であり、リサイクルショップぜろと同様に精神障害を抱える人ひとりひとりに仕事・作業を作っていった。現在利用している精神障害を抱える人に配慮し、心の状態が安定せず日々の障害の状態に応じて、自分のペースでゆっくりと作業ができるように一人で物を作る仕事を用意している。ある人

は猫つぐらを作り、別の人はハンガーにさまざまな布を巻いて「滑らないハンガー」の製作に取り組んでいる。さらにある人はさおり織りで織物を作っている。

●Cafeここいまの利用状況

2015年12月にオープンしたCafeここいまは早速スーパーマーケットの帰りにコーヒーを飲み立ち寄り人や、昼食を食べに来る人など地域住民にも受け入れられた。地域に住む精神障害を抱える人だけでなく、浅香山病院に入院している人が病院の許可を得て日課としてCafeここいまにやってくる。そこで出会った人同士、スタッフの気配りにより言葉が交わされる。またオープンしてしばらく経ってから精神障害を抱える人がコーヒーを入れることや給仕をする仕事に取り組み始め、Cafeここいまは障害者福祉事業を行う障害者福祉「施設」にもなった。

昨年度研究室の学生が卒業論文としてCafeここいまで行動観察調査を実施した^(注4)。会話の内容をみると、看護系の会話としてカフェに訪れた人（近隣の住民が多い）の健康相談やメンバー（おめでたいなどで「働く」精神障害を抱える人）の健康相談・生活相談（地域でどう生活していけばいいのか、どのような制度を利用できるのか）が多い（図1）。スタッフは看護師でもあるので精神障害を抱える人だけでなく近隣の高齢者にとってもよい相談相手となっていると言える。また精神障害を抱える人からカフェに訪れた人に話しかけることは少ないが、スタッフの気配りもありカフェに訪れた人が精神障害を抱える人に話かける機会が見られた。

またスタッフ、理事や住民などにインタビュー調査を行った。2015年12月のオープンから2018年秋までの変化をみると、「街の人と一緒に様々な問題を乗り越えている」という発言や「色々な人が関わるようになり助け合いながら今のここいまを作り上げている」という発言がみられた。

このようにCafeここいまは当初の目的通りに精神障害を抱える人と住民との関係をつくる役割を担っている。さらに誰が来ても良いコミュニティカフェを看護師が運営することで、高齢者が気軽に相談できるインフォーマルな場という役割も担っている。Cafeここい

まは障害者福祉「施設」という枠を越えて近隣住区のコミュニティ施設でもあり、一言で説明しにくい場となっている。

■まとめ

障害者福祉「施設」が近隣住区の商店街に生まれたことで商店街に新たな展開が生まれた事例を紹介した。大阪に限らず全国各地のニュータウンや郊外住宅地でも同じような実践が見られる。住民だけが近隣住区の活性化を担うだけでなく障害者も「働く」ことを通して十分に貢献できる。障害者自身にとって「働く」ことを通して住民から「ありがとう」というシンプルな言葉をもらうことは「働く」ことの自信にもなる。何より地域でふつうの生活を送る足がかりになる。

本稿で取りあげた障害者の多様な「働く」姿のように障害者は自分のペースで「働く」ことができれば十分に能力を発揮できる。本稿では詳しく紹介できなかったが、ゆっくりだが細かすぎるほどの丁寧さ・正確さという価値、あるいはその人がそこにいるから買いに来るという評価も必要であろう。障害者が能力を発揮するために障害者ひとりひとりの個性や障害特性を把握し、物理的・人的な環境を整えることが必要である。

国は地域包括ケアシステムの面で「自助・互助・共助・公助」を実践することを求めている。近所の人がお互いに助け合う「互助」において、日常的に人と人とが顔を合わせる機会を提供する近隣住区のお店は購買以上の価値がある。

近隣住区の障害者福祉「施設」で障害者が「働く」姿を見ていると、「働く」ことや「互助」の基本に気づかされる。

（まつばら しげき）

注釈

- 1) イタリアで精神科病院を廃絶し、医療等は地域精神保健サービス機関で行う。通称はこの運動を牽引した精神科医にちなむ。
- 2) <http://kokoima.com/index.html>
- 3) <https://medium.com/fraze-craze/kokoima実践レポート精神看護と居場所づくりのハザマでー第四回ーいざー地域へー822688493196>
- 4) 豊原大瑛、看護師が作るコミュニティの「つながり」に関する研究ー堺市浅香山にあるコミュニティカフェを觀てー、平成30年度大阪大学工学部卒業論文



写真5 商店街全景：写真手前左が多機能事業所おめでたい、手前右がCafeここいま



写真6 Caféここいまとぜろの全景



写真7 Caféここいまの室内



写真8 夏祭り：商店街店主、地域住民。近くの関西大学の学生が店を出す

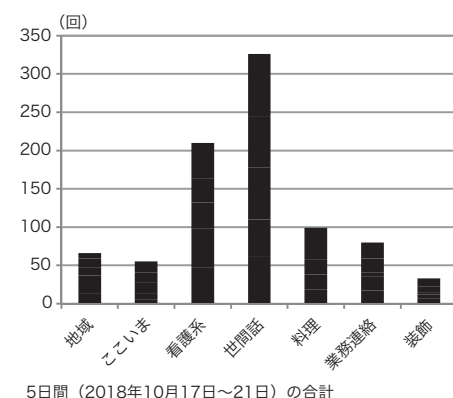


図1 Caféここいまの会話内容

■ 更なる機能付加で攻めるガラス建材 ■

日本板硝子ビルディングプロダクツ（株）

●超高断熱真空ガラス「スーパースペース」 という性能

ガラス中央部の熱貫率： $U_g=0.65W/m^2K$

「スーパースペース」は、従来の真空ガラス「スペース」を更に進化させています。真空層を保持するマイクロスペーサーを半減させることで、熱橋による断熱ロスを大幅に削減しています。「スーパースペース」が、外皮性能を飛躍的に高め、ZEBやLCCM建築を具現化する重要なファクターになります。

●ビル用アルミサッシに組み合わせた断熱性能

窓の熱貫流率： $U_w=2.0W/m^2K$ ※

「スーパースペース」を採用することで、従来のビル用アルミサッシがJIS断熱等級H-5にグレードアップ！窓の剛性と省エネ性能を両立させます。

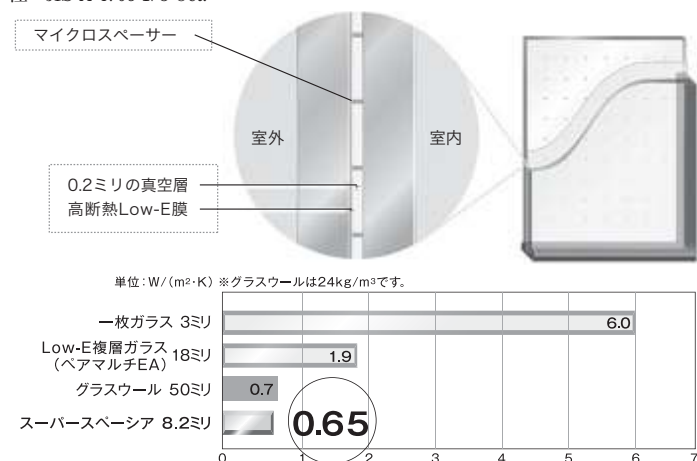
注：2018/4 建築研究所「窓等の大部分がガラスで構成される開口部の簡易的評価／住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報（住宅）」<http://www.kenken.go.jp/becc/house.html> より。

●真空ガラスの遮音性能

透過損失測定値：JIS 等級 T-2（30等級）をクリア※

「スーパースペース」は、利便性の高い都市開発物件が持つ騒音問題にも対応できる、遮音性と断熱性を高次元で融合したガラスです。ZEBなどの省エネ建築物の性能向上と、静かさによるオフィス生産性の向上の実現をお手伝い致します。

注：JIS A 4706 1/3 Oct.



常務学園 梅田キャンパス／超高断熱スペースシア使用例

NSGインテリア（株）

●「映す」と「書く」を1つにする「ライティングボード」という性能

ホワイトボード、プロジェクター・スクリーンを1つにして壁に取り付けると、会議室が広く活用できます。それがガラス製黒板「ライティングボード」！

豊富なカラーバリエーションにより、インテリアとしての機能も発揮します。マット仕様でガラツキを防止し、プロジェクター映写と水性ホワイトボードマーカー・専用マグネットの使用が可能です。



NSGインテリア（株）

●本社

東京都台東区松が谷3-13-5
TEL 03-3843-6906

●大阪支店

大阪府東大阪市角田1-5-5
TEL 072-967-0901

日本板硝子ビルディングプロダクツ（株）

●本社

千葉県市原市姉崎海岸 6
日本板硝子（株）千葉事業所内
TEL 0120-498-023

●大阪支店

大阪府大阪市中央区北浜4-5-33
TEL 06-6222-7534

日本板硝子グループ 4 社合同企画

日本板硝子ディー・アンド・ジー・システム（株）

●透明な耐火間仕切壁「パイロストップ」という性能

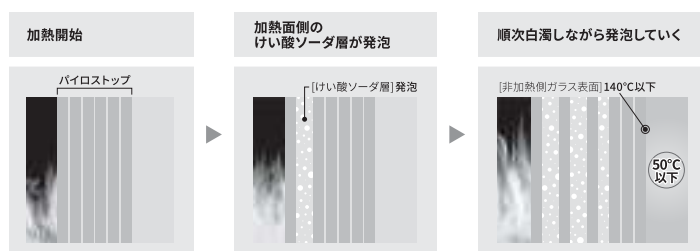
けい酸ソーダ入積層ガラス「パイロストップ」を独自の技術でフレームと一体で組み合わせた「パイロストップウォール」は1時間耐火間仕切壁でありながら、透明な視界と空間の広がりを演出します。

●遮音性能はT-3（TS-35等級 ガラス単体）

6枚のガラスを多層合わせ構造にすることで優れた遮音性能を発揮します。

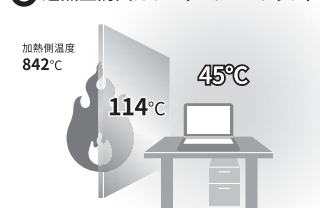
●視界はクリア

高透過ガラスの採用により、「ワイヤレス」で「クリア」な大開口壁面が得られます。



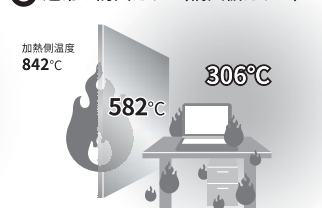
実験結果・着火後30分後の温度

○遮熱型防火ガラス(パイロストップ)

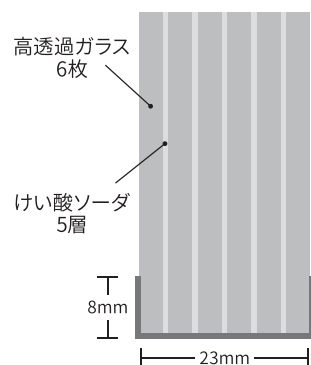


避難通路側のガラス表面温度は114℃、室温も45℃にとどまるため、余裕を持っての脱出が可能です。

○通常の防火ガラス(納入板ガラス)



避難通路側のガラス表面温度は582℃、室温も306℃にも上がり、可燃物は燃え脱出は困難です。



品種	パイロストップ
色	クリア
構成	高透過ガラス3ミリ×6枚 けい酸ソーダ層×5層
呼び厚さ	23ミリ
最大寸法	Ⓜ1600mm×Ⓜ2900mm
最小寸法	300mm×200mm

※ご使用になる寸法で輸入するため、通常3〜4ヶ月の納期が必要です。

日本板硝子D&Gシステム（株）

●本社

東京都台東区松が谷3-14-3
TEL 03-5827-4771

●大阪支店

大阪府大阪市中央区北浜4-5-33
TEL 06-6222-3567

日昌ガラス（株）

●クラシックな溝型ガラス「プロフィリット」ダブル施工という性能 ガラス中央部の熱貫率：Ug=2.7W/m²K

溝型ガラス「プロフィリット」は長くご愛顧頂いているガラスです。これをダブル施工にすることで断熱性はUg値=2.7W/m²K、日射熱カット率28%の断熱ガラスとしてご利用いただけます。

●プロフィリット・ダブル施工の遮音性能

透過損失測定値：JIS 等級 T-2（30等級）をクリア

ダブル施工にすることで、遮音性能がT-2になります。

●サッシレスカーテンウォール

独自のデザイン性により、「コ」の字形状のガラスが、サッシレスカーテンウォールを実現します。また構成の自由性により、上下二辺支持のみで耐風圧性能が得られ、タワミの少ない連続的な壁面構成が可能であり、ZEBなどの省エネ建築物では制約を受けやすいデザイン性の選択肢を広げることが可能です。



ダブル施工イメージ



安佐南福祉センター（ダブル施工：乳白系フィルム貼り）



みなとパーク芝浦（ダブル施工）

日昌ガラス（株）

●本社

東京都中央区日本橋人形町2-14-6
TEL 03-3667-3096

●大阪営業所

大阪府大阪市中央区平野町1-7-3
TEL 06-6202-6100

暑中お見舞申し上げます

令和元年盛夏

常任理事

勝山太郎

日建設計
理事 設計部門 設計部長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

理事

酒井祥三

西松建設 株式会社 西日本支社
常務執行役員支社長

〒540-8515 大阪市中央区釣鐘町2-4-7 TEL(06)6942-1173

理事

中井進

日建設計コンストラクション・マネジメント
顧問

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-27 TEL(03)5803-9770

亀井忠夫

日建設計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

理事

佐野吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

永嶋元博

東リ 株式会社
代表取締役社長

〒664-8610 兵庫県伊丹市東有岡5-125 TEL(06)6492-1331

理事

栗原信英

栗原工業 株式会社
取締役社長

〒530-0054 大阪市北区南森町1-4-24 TEL(06)4709-2300

会長

設楽貞樹

株式会社 安井建築設計事務所
監査役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

藤澤一郎

ダイダン 株式会社
代表取締役社長

〒550-8520 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06)6447-8000

理事

児玉謙

日建設計
執行役員 設計部門 設計代表

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

副会長

田中日出男

株式会社 きんでん
取締役常務執行役員技術本部長

〒531-8550 大阪市北区本庄東2-3-41 TEL(06)6375-6229

副会長

米井寛

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

近藤康之

不二熟学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

千種幹雄

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787

暑中お見舞申し上げます

令和元年盛夏

設計事務所有志

東畑建築事務所

代表取締役社長
米井 寛

大阪市中央区高麗橋2-6-10TEL (06)6202-0391
東京 / 大阪 / 名古屋 / 九州
<http://www.tohata.co.jp>

NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED

日建設計

代表取締役社長 亀井忠夫

東京都千代田区飯田橋2-18-3

Tel. 03-5226-3030

大阪市中央区高麗橋4-6-2

Tel. 06-6203-2361

<http://www.nikken.jp>

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野吉彦

本社 〒540-0034 大阪市中央区島町 2-4-7 Tel. 06-6943-1371

支社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 www.yasui-archi.co.jp



暑中お見舞申し上げます

令和元年盛夏

建設業有志

子どもたちに誇れるしごとを。

 清水建設株式会社

取締役社長 井上 和幸 取締役副社長関西支店長 池田 耕二

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 Tel. 03 (3561) 1111
関西支店 〒541-8520 大阪市中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06 (6263) 2800

地図に残る仕事。®



大成建設株式会社

For a Lively World

代表取締役社長 村田 誉之

常務執行役員関西支店長 加賀田健司

本社 東京都新宿区西新宿 1-25-1
電話 03-3348-1111
関西支店 大阪市中央区南船場 1-14-10
電話 06-6265-4504
<http://www.aisei.co.jp/>

想いをかたちに 未来へつなぐ



TAKENAKA

竹中工務店 取締役社長 佐々木正人

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 tel: 06-6252-1201
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 tel: 03-6810-5000

 戸田建設株式会社

代表取締役社長 今井 雅則 常務執行役員大阪支店長 三宅 正人

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095

暑中お見舞申し上げます

令和元年盛夏

建材・学校・団体有志等



夢のレンガを積みあげよう

都 窯 業 株 式 会 社

〒530-0047 大阪市北区西天満 2-8-1 大江ビル
Tel (06)6367-0389 Fax (06)6367-5567
工房 三重県伊賀市西山 伊州窯 伊州観白樓
<http://www.miyakoyogyo.com> E-mail: info@miyakoyogyo.com



大阪工業技術専門学校 OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科(設計専攻・施工専攻・設備専攻)・インテリアデザイン学科・大工技能学科・建築設計学科(リカレント生対象)
建築学科II部(夜間)・フレックス建築学科(夜間・単位制)・建築士専科(二級建築士受験資格取得者対象)

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 🌐 <https://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0093



学校法人 修成学園

修成建設専門学校

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5-19-30 TEL:06-6474-1644(代)

☎ 0120-446-456 <https://www.syusei.ac.jp/>

- 建築学科
- 建築CGデザイン学科
- 空間デザイン学科
- 住環境リノベーション学科
- 土木工学科
- 建設エンジニア学科
- ガーデンデザイン学科
- 専科 2級建築士科
- 建築デュアルシステム科



一般社団法人 日本建築材料協会

会 長 松 本 将

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>

暑中お見舞申し上げます

令和元年盛夏



一般社団法人 **日本建築協会**

会 長 設 楽 貞 樹

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL (06) 6946-6981



一般社団法人 **日本建築協会中国支部**

支 部 長 高 松 隆 夫

〒732-0805 広島市中区十日市町1-1-9 (相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内) TEL (082) 232-6471



一般社団法人 **日本建築協会東海支部**

支 部 長 篠 原 佳 則

〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 (名古屋商工会議所ビル9階) TEL (052) 201-2201



一般社団法人 **日本建築協会京都支部**

支 部 長 長 瀬 博 一

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町641 京都建設会館別館 TEL (075) 211-2857

1

PIXARのひみつ展
いのちを生みだすサイエンス

本展は、2015年にボストンサイエンスミュージアムにて初めて開催されてから、アメリカやカナダの8か所で合計150万人以上を動員。東京シティビューでの開催がアジア初大陸となる。

普段見ることができないPIXARアニメーション制作の裏側が、制作のカギとなる8つの工程を通して紹介される。『トイ・ストーリー』や『モンスターズ・インク』など誰もがきっと1つはお気に入りの作品があるPIXARアニメーション。数々の魅力的なキャラクターや作品の世界観が、どのように生みだされ、作られているのか、実際のアニメーションづくりを体験しながらひみつを解き明かすハンズオン展示である。また、展望台の窓一面に展示されたピクサーのキャラクターたちと景色との融合を楽しめるのは東京展ならではのである。



「PIXARのひみつ展」はボストンサイエンスミュージアムがPIXARとの協力により開発したものです。
©Disney/Pixar.
All Rights Reserved.
Used Under Authorization.

<展示内容>

PIXARアニメーション作品を支える科学について、実際のアニメーション制作のカギとなる8つの工程を体験しながら学べるハンズオン展示である。

3階のイントロダクションシアターを観てから展覧会会場となる52階へ。そこからは展望台から臨むダイナミックな景色とともに、好きな順番で展示を楽しむことができる。PIXARアニメーション作品がどのように生み出され、いのちが吹き込まれていったのか。これまで明らかにされてこなかったPIXARの作品づくりのひみつを、人気作品の制作工程を実際に体験しながら紐解いてゆく。また、各エリアでキャラクターとの写真撮影も楽しむことができる。

期 間 9月16日(月・祝)まで
10:00~22:00
※入場は閉館の30分前まで

休 館 日 会期中無休

会 場 六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー
東京都港区六本木6-10-1
六本木ヒルズ森タワー52階
TEL.03-6406-6652

観 覧 料 一般1,800円、高大生1,200円、
4歳~中学生600円、65歳以上1,500円

2

特別展 ~国芳、広重、国貞、豊国、英泉…
江戸・明治の浮世絵師たちが描く~
ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展



歌川国芳「たとえ尽の内」
嘉永5年(1852) 個人蔵



月岡芳年「古今比売鑑 薄雲」
明治8~9年(1875~76) 個人蔵

ネズミ除けとして大陸から持ち込まれたとされる猫は、江戸時代の頃にはすでに多くの人々の懐に潜り込み、広く親しまれるようになっていた。浮世絵の題材にもしばしば取り上げられ、当時一大ジャンルであった美人画の片隅に登場してからは、擬人化され役者絵やおもちゃ絵の登場人物となって愛されたり、おどろおどろしい化け猫として人々を震えさせたりと多彩な活躍を見せる。本展では、無類の猫好きで知られる歌川国芳をはじめ広重、国貞、豊国、英泉ら浮世絵師の作風の個性を楽しむとともに、人々が猫とどう関わってきたのか、また人が猫にどのようなイメージをもっていたのかを読み解く。また、大阪会場特設コーナーとして、飼猫の取り扱いに関する古文書や江戸時代の土人形といった資料なども紹介する。

期 間 7月27日(土)~9月8日(日)
9:30~17:00
(会期中の金曜日は20:00まで)
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 火曜日(ただし8/13は開館)

会 場 大阪歴史博物館 6階 特別展示室
大阪府中央区大手前4-1-32
TEL.06-6946-5728

観 覧 料 [特別展のみ]
一般800円、高大生600円
[常設展との共通券]
一般1,320円、高大生940円
*中学生以下無料
*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

3

太田喜二郎と藤井厚二
—日本の光を追い求めた画家と建築家

京都を代表する洋画家、太田喜二郎（1883～1951）は、点描表現や印象派を日本にもたらした画家として、紹介、研究されてきたが、1917年頃より、点描を棄て平明な洋画へと画風を変貌させて以後のことについては、従来、十分な研究がされてきたとはいえない



藤井厚二《聴竹居》重要文化財 1928年
写真：古川泰造／写真提供：竹中工務店

かった。しかし近年、太田の幅広い人間関係を評価し、太田と他分野との深い関係の研究が進められている。

2017年には、太田と京都帝国大学の考古学者、濱田耕作の関係を取り上げた京都文化博物館による「京都の画家と考古学—太田喜二郎と濱田耕作—」展が開催された。そのほか、東洋史学者の内藤湖南や羽田亨など、大正期の太田がさまざまな研究者と密接な交流を持っていたことが徐々に紐解かれている。さらに京都大学工学部講師として建築学科で太田がデッサンを教えていたことにより武田五一や藤井厚二（1888～1938）などの建築家とも親しい関係にあったことが明らかになってきた。

広島県福山市に生まれた藤井は、東京帝国大学の建築科を卒業後、竹中工務店を経て京都帝国大学建築学科に着任する。海外視察の時に見聞した西洋の様式と日本の気候風土を融合させた環境工学を研究し、「日本の住宅」を追求した。その究極が、何度も実験を繰り返した京都大山崎にある自邸《聴竹居》（重要文化財）である。日本の住宅にモダンな要素が加わった上に、構成が斬新なこの自邸は、自然の環境をとりこんだ空間として、近年話題になっている建築である。

本展は、太田研究を進めている京都文化博物館と、収集方針の一つに日本人美術家の滞欧米作をあげ、太田の滞ベルギー作品を収集し、さらに建築やデザインに関する展覧会を積極的に開催している目黒区美術館との共同研究により開催される。

期 間 7月13日(土)～9月8日(日)

10:00～18:00

※入館は17:30まで

休 館 日 月曜日（ただし7/15、8/12は開館）、7/16、8/13

会 場 目黒区美術館

東京都目黒区目黒2-4-36

TEL.03-3714-1201

観 覧 料 一般1,000円、高大生・65歳以上800円

*中学生以下無料

*障がいのある方とその付添者1名は無料

4

富本憲吉入門—
彼はなぜ日本近代陶芸の巨匠なのか

奈良県が生んだ日本近代陶芸の巨匠・富本憲吉（1886～1963）。没して半世紀以上過ぎてなお、その作品は高く評価されている。では富本はなぜ「日本近代陶芸の巨匠」と呼ばれるのだろうか。そして富本の美の感性はいかにして育まれたのだろうか。

富本は楽焼制作に始まり、土焼・白磁・染付と多様な創作活動を展開し、色絵磁器へと作域を広げていった。その陶業は独自の模様の探求、造形を通じた美の表現、量産の試みといった課題に取り組んだ道のりでもあった。

本展では、初公開となる新収蔵品ほか寄託品も加えた展示を通して、富本の生涯と彼が生きた時代、その作品の特徴や独自性を知るとともに、奈良の歴史・文化を知る機会が得られることだろう。



色絵四弁花模様 香炉
奈良県立美術館蔵

◆富本憲吉プロフィール

1886（明治19）年、現在の奈良県生駒郡安堵町に生まれる。1904（明治37）年に東京美術学校（現・東京藝術大学）図案科に入学し、1908（明治41）年からはロンドンに留学。帰国後に親交を結んだバーナード・リーチの影響で、1913（大正2）年に楽焼の制作を始め、ほぼ独学で陶芸の道を歩み始めた。1926（大正15）年、東京に転居。白磁や染付を中心に充実した作陶を続け、1936（昭和11）年の九谷滞在以後は華麗な色絵磁器の作品を次々と発表する。終戦後は安堵への一時帰郷を経て京都に拠点を移し、金銀を同時に焼き付ける色絵金銀彩の技法を完成させた。1955（昭和30）年、「色絵磁器」で重要無形文化財技術保持者（いわゆる人間国宝）に認定され、1961（昭和36）年には文化勲章を受章。1963（昭和38）年逝去。

期 間 9月1日(日)まで

9:00～17:00

※入館は16:30まで

休 館 日 月曜日（ただし7/15、8/12は開館）、7/16、8/13

会 場 奈良県立美術館

奈良市登大路町10-6

TEL.0742-23-3968

観 覧 料 一般400円、高大生250円、小中生150円

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

*65歳以上の方は無料

5

ヒグチュウコ展 CIRCUS



《Circus》2018年 ©Yuko Higuchi

空想と現実を行き交う自由な発想とタッチで、作品制作のみならず絵本の刊行など幅広い活躍をみせる画家ヒグチュウコ。本展では、自身初となる大規模個展として、約20年の画業の中で描かれた700点以上の作品が公開される。

ヒグチュウコが描く猫や少女、キノコ、この世ならぬ不思議ないきものたちが繰り広げる、楽しくもどこか切ないサーカス（CIRCUS）の世界をお楽しみいただきたい。

ヒグチュウコ プロフィール

画家・絵本作家。東京都在住。東京を中心に定期的に作品を発表。近作は『ほんやのねこ』（白泉社）、『ヒグチュウコ画集 CIRCUS』（グラフィック社）。ほかにも、『ふたりのねこ』（祥伝社）、『せかいいちのねこ』『ギュスターヴくん』（白泉社）、『ヒグチュウコ作品集』（グラフィック社）『BABEL Higuchi Yuko Artworks』（グラフィック社）など、多数の著書を出版。

期 間 9月1日(日)まで

10:00~17:00

※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日（ただし7/15、8/12は開館）、7/16、8/13

会 場 神戸ゆかりの美術館

神戸市東灘区向洋町中2-9-1

TEL.078-858-1520

観 覧 料 一般1,000円、大学生500円

神戸市居住の65歳以上500円

*高校生以下無料

▶第26回 空間デザイン・コンペティション

●課題

『2050年のガラス空間』

●審査委員

委員長 千葉 学

（東京大学大学院教授、千葉学建築計画事務所主宰）

委 員 原田 真宏

（芝浦工業大学教授、MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO主宰）

委 員 羽鳥 達也

（株式会社日建設計 設計部門 ディレクター）

委 員 岸本 暁

（日本電気硝子株式会社 常務執行役員
コンシューマーガラス事業本部 本部長）

コーディネーター 五十嵐 太郎（東北大学大学院教授）

●賞金

総 額 170万円

最優秀賞 1点 100万円

優 秀 賞 1点 30万円

入 選 8点 各5万円

●応募・登録締切日

10月7日(月) 16:00まで

コンペ特設サイト

〈<https://kenchiku.co.jp/neg2019>〉より登録

●発表

審査の結果は応募者に通知すると共に、「新建築」2020年1月号にて発表

●問合せ先

空間デザイン・コンペティション事務局

E-mail: info-sd-compe@kenchiku.co.jp

TEL: 03-5244-9335

主催 日本電気硝子株式会社

共催 電気硝子建材株式会社

協賛 株式会社新建築社

本欄掲載の1~5の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（82円）を日本建築協会事務局までお送りください。

常任理事会

第2回常任理事会

5月22日(水) 16:00~17:05

日本建築協会会議室

出席者 設楽会長ほか8名

- 議 事 (1) 平成30年度事業報告(案)
 (2) 平成30年度決算報告(案)
 (3) 令和元年度事業計画(案)
 (4) 令和元年度収支予算(案)
 (5) 6月4日評議員会・通常理事会、
 6月20日総会・講演会・表彰式・
 会員交流懇親会
 (6) 「KENTEN2019」レセプションの
 出席依頼
 (7) 改元に伴う西暦と暦の運用
 (8) 10月26日、27日「イケフェス大
 阪」関連事業
 (9) 個人会員の会員証の最終版
 (10) 「建築と社会」誌日仏会館・フラン
 ス国立日本研究所学術雑誌「エビ
 ス」への仏訳許可依頼
 (11) ARCHI-4 関西「まちづくり提言
 シンポジウム」
 (12) 「建築と社会」誌の収支改善

編集委員会

第2回広告企画・編集合同委員会

5月15日(水) 18:00~19:00

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか3名

- 議 事 (1) 6月号特集 片岡安賞(日本建築
 協会論考コンクール)
 (2) 7月号特集 青年技術者
 (3) 8月号特集 建築の仮設性と恒久性
 (4) 9月号特集 災害。逃げる
 (5) 10月号特集 第1案「新素材」 第
 2案「モノをはこぶ」
 (6) その他

第1回インテリア・住宅系分科会

5月13日(月) 19:30~21:00

日本建築協会会議室

出席者 黒柳幹事ほか2名

議 事 (1) 2019年特集

第2回構造分科会

5月21日(火) 18:30~19:50

日本建築協会会議室

出席者 宇野幹事ほか3名

- 議 事 (1) 構造の頁の企画
 (2) 2019年度特集の企画

第2回施工材料分科会

5月17日(金) 17:00~18:00

日本建築協会会議室

出席者 吉居幹事ほか4名

議 事 (1) 2019年度特集

第2回法令分科会

5月22日(水) 10:00~11:40

日本建築協会会議室

出席者 福岡幹事ほか6名

- 議 事 (1) 法令コーナーの企画
 (2) 2019年度特集の企画

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月9日(木) 18:00~18:50

日本建築協会会議室

出席者 中尾委員長ほか6名

議 事 (1) 本年度事業の検討

出版委員会

第2回出版委員会

5月28日(火) 18:00~19:25

日本建築協会会議室

出席者 西委員長ほか7名

- 議 事 (1) 既刊書籍経過報告
 (2) 制作進行中の書籍
 (3) 今後の出版テーマ
 (4) 建築セミナー

教育委員会

第1回講習会小委員会

5月27日(月) 18:00~19:10

日本建築協会会議室

出席者 東委員長ほか6名

- 議 事 (1) 審査委員の紹介
 (2) 建築実務講習会テキスト改定の検討
 (3) 令和元年度の建築実務講習会開催
 日時検討

大阪府住まい・まちづくり普及協議会全体会議

5月17日(金) 10:30~12:00

大阪建築会館会議室

報告・議題

- (1) 出前講座
 (2) 補助金
 (3) 安全チェック・ボランティア
 (4) 通常総会
 (5) その他

第2回史料研究会

5月29日(水) 18:00~19:40

日本建築協会会議室

出席者 橋寺委員長ほか4名

- 議 事 (1) 協会誌での連載
 (2) 街歩きイベント

未来創生プロジェクト

第2回建築次世代委員会

5月16日(木) 18:30~19:30

日本建築協会会議室

出席者 菅原小委員長ほか7名

- 議 事 (1) 学生のための見学会の検討
 (2) 学生のための建築に関わる会社見
 学会
 (3) 新委員紹介

第2回2040委員会

5月20日(月) 19:30~

日本建築協会会議室

出席者 駒井リーダーほか5名

- 議 事 (1) 企画内容
 (2) 今後の委員会活動

第2回U-35委員会

5月13日(月) 19:30~

大成建設会議室

出席者 鬼頭リーダーほか13名

- 議 事 (1) 活動/予定
 (2) 次回予定/その他

講演会

「第4回建築セミナー」建築と設備の接点

トラブル予防のツボ

5月15日(水) 18:00~20:00

TOTOテクニカルセンター

講師 仲本尚志 馬渡勝昭 赤澤正治各氏

参加者 30名

編集委員会(2019年度)

■副会長

米井 寛

■編集担当理事

木谷 晃之

北野 勝也

佐々木章二

寺井 千佳

夏井 重行

△橋本 直樹

榊井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

○戸川 勝之

山本 雅洋

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

△田中 直人

松田奈緒子

守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

神戸 嘉也

桑原 悠樹

下坂 浩和

中辻 浩介

東 拓郎

樋口 展寛

△松岡 英緯

三谷 帯介

米山 剛史

渡部 剛

★インテリア・住宅系

赤川貴世友

今井 充彦

岩田 圭司

川合 隆之

河西 孝平

△黒柳 亮

塚口 洋之

ペリー史子

■構造分科会

△宇野 綾真

岡田 健

岸本 光平

古島 正博

瀧野 敦夫

萩原 学

松本 裕之

宮久保秀樹

向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎

木谷 晃之

北野 勝也

佐々木章二

寺井 千佳

夏井 重行

△橋本 直樹

榊井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

山本 雅洋

■施工材料分科会

門野 陽

桜井 和男

高橋 秀一

藤丸 啓一

山口 紀宏

河合 智寛

吉田 正友

△吉居 哲

■法令分科会

岡田 耕介

垣内 明

河野 学

高田 大輔

△福岡 誉顕

■作品作風小委員会

▲東井 嘉信

居内 章夫

池上 明

稲垣 和江

太田 栄治

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉瀬奈千子

澤田 純一

高木 秀晃

榎野 淳司

西田 佳代

芳谷 晴彦

平野 尉仁

増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介

金築 雄

小山 昭

野山 将男

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

(順不同)

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2019年6月26日

発行 2019年7月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪市中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 榊中島弘文堂印刷所

定価 1230円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます

**お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように**

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本 社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

年間広告のご案内

会誌「建築と社会」では、後付部分に
広告スペースを設けております。

1年を通じて、社名広告を掲載されませんか？

掲載期間：4月号～翌年3月号までの1年間

掲 載 料：48,000円（消費税込み）

サ イ ズ：1/12頁（タテ40mm×ヨコ90mm）

※毎月掲載誌をご送付します。

※原稿は1年間同じ原稿を使用します。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本建築協会 内山・井筒

TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 E-mail：koukoku@aj.or.jp



取り替え簡単がラスだけ!!



熱を逃がさない!!

結露を防ぐ！



スぺーシアは、室外の温度がマイナス23℃になるまで結露の発生をおさえます。冬もガラスはスツキリでお掃除もラクラク。またシックハウスの原因にもなるカビの発生も防ぐので、キレイで健康なお住まいに。

03379-7